

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 2 7 号
2 0 2 5 年

(2024年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

教育目的・3つのポリシー

【教育研究上の目的】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉の実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成することを目的とする。

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

- 1 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
- 2 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

- 3 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
- 4 コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

- 5 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
- 6 ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 7 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
- 8 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2 専門教育科目

カリキュラムの構造・教育内容

専門教育科目については、ソーシャルワークを基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだところの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

履修方法・順序

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に

履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域におけるソーシャルワークに必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

教育方法

- (1) 『社会福祉学部カリキュラム構成図』『社会福祉学部カリキュラム・ツリー』『社会福祉学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2) 各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

評価

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

- 1 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
- 2 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 3 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 4 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
- 5 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

- ・一般選抜（前期日程）
基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、

個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己PR書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

- ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

目 次

I. 2024年度を振り返る

1. 社会福祉学部活動の概要及び自己点検評価 1
2. 2024年度 社会福祉学部の主要行事 5
3. 2024年度 社会福祉学部時間割 6

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2024年度）	8
1. 杉 原 俊 二	10
2. 田 中 き よ む	13
3. 長 澤 紀 美 子	17
4. 西 内 章	21
5. 西 梅 幸 治	24
6. 矢 吹 知 之	27
7. 横 井 輝 夫	30
8. 河 内 康 文	32
9. 遠 山 真 世	34
10. 福 間 隆 康	36
11. 大 井 美 紀	38
12. 加 藤 由 衣	40
13. 田 中 真 希	42
14. 辻 真 美	44
15. 湯 川 順 子	48
16. 行 貞 伸 二	50
17. 稲 垣 佳 代	52
18. 乾 由 美	54
19. 上 杉 麻 理	56
20. 大 熊 絵 理 菜	58
21. 玉 利 麻 紀	60
22. 山 本 大 輔	62

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2024 度）	64
1. 教 務 委 員 会	65
2. 入 試 委 員 会	67
3. 学 生 委 員 会	69
4. 実 習 委 員 会	70
5. 就 職 委 員 会	72
6. 広 報 委 員 会	73
7. 介 護 人 材 確 保 部 会	74
8. キャリア支援委員会	81
9. 健康長寿研究センター	84
10. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	85
11. 災害対策プロジェクト	89
12. 総務・予算委員会	91
13. 国試対策支援委員会	92

Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	94
2. P シ ス タ ー ズ	95
3. イ ケ あ い	96
4. か ん き も ん	97

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2024 年度）

編 集 後 記

I

2024年度を振り返る

社会福祉学部活動の概要及び自己点検評価

学部自己点検評価委員会【学部長 長澤 紀美子】

1. 学部の組織（教員体制）・活動

1) 目標 円滑な学部運営のための退職教員の充足と教員体制の強化

2) 実施状況（以下、社福：社会福祉士、精神：精神保健福祉士、介護；介護福祉士の各養成課程を示す）

○2024年度4月に助教1名（介護）採用、4月時点で専任20名＋特任2名、計22名。

（職位構成：教授7名、准教授3名、講師6名（特任1含む）、助教6名（特任1含む））。

助教2名（社福）の公募人事を行い、10月より1名採用（社福：高齢者福祉）。もう1名の助教は継続公募

○特任教員：昨年度10月より特任講師1名（精神）を継続。介護の指定規則を満たすため退職者を特任助教として1年間採用。両名とも3月末に退職。

○特任を含めた資格別教員構成：福祉基礎4名、社福8（後期は9）名、介護7名、精神3名（計22→後期は23名）。

○横井教授が3月末に名誉教授を授与（定年退職）。

○2025年度より3名の新任教員（精神2名、リハ学1名）を迎え、2名が昇任（講師→准教授）。

3) 評価

特任2名の確保により、介護・精神コースの教員体制を強化。／今後の定年退職に伴う教授の減少に備え、昇任人事（准教授職2名）を行い、大学院教育担当者を補充。

4) 次年度の目標

助教1名欠員のため実習演習事務負担が懸念される社福の教員体制に対し配置要望を継続する。欠員に対し当面は代替教員で実習業務を代替するが、今後の教員体制を継続的に検討する。

2. 教育（専門教育の質の向上に資する活動）

1) 目標

①R3年度からの社福士・精神士の新カリキュラムの完成年度を迎え、課題を整理する。

②【教育の質保証】DPとCPとの関連、DPの見直しの検討／授業評価やルーブリック評価の活用の検討

③データサイエンス科目の履修指導及びICTを用いた専門教育の検討【継続】

④国試対策を強化し、3福祉士の国家試験の合格率の向上に繋げる。【継続】

2) 実施状況 & 3) 評価

①CPの用語の修正（法律改正等に基づく）、DPについては特に変更なし。

②DPに基づいた学修成果の評価指標による学習到達度評価アンケートを4回生に実施。

学習到達度アンケート（32項目4件法）において、「DPで目指す項目」では、最も高い4/高い3の評価の合計は、令和2年度が97%、令和3年度が99%、令和4年度が97%、令和5年度が99%となり、令和6年度は99%（98.75%）で昨年と同様の結果となった。「4年間の学習についての満足度」項目では、最も高い4/高い3評価の合計は、97.1%であった。双方から、本学部の教育の質は保証されていると考えられる。また卒業研究のルーブリック評価（修正版）は、試行段階にあったルーブリック評価の運用を開始した。今後も学習成果の経年的推移を確認し、教育の質保証に取り組んでいく。

③データサイエンス科目に関して、時間割配置と履修指導により「ITリテラシー」「データサイエンス入門」について1回生が履修した。また福祉研究法入門では、生成AI（chat GPTやbingAI）を用いて、文章を校正する方法を説明した。

④ 国家試験対策（国試対策委員会）

国試合格率の維持・向上に向けて、4回生に対して、専任教員による国試対策講座7科目18講座及び卒業生による対策講座1講座、過去問対策4回、模擬試験3回、学生自身が企画する国試対策勉強会2回を実施し、61名が参加した。

※第24期生（2024年度卒業生）の3福祉士合格率

- 社会福祉士 57/61=93.4%（平均56.3%）[全国6位/52校*]*受験者50人以上/新卒
- 精神保健福祉士 9/9=100.0%（平均70.7%）[全国1位/67校*]*新卒
- 介護福祉士 20/20=100.0%（平均78.3%）[全国1位/232校*]*受験者10人以上/新卒

4) 次年度の目標

- ①学部の優位性（3福祉士のダブル資格取得とその合格率の高さ）をもたらす実習演習の体制整備及び国試対策支援、学生の主体的な学びの強化に向けた取り組みを進める。
- ②【教育の質保証】カリキュラム検討WGによる今後の人材像及び科目構成と担当の検討、DP・CPとの整合性を検討する。
- ③次年度予算を獲得した手話講座について、在学中の学生に手話に触れる環境を整備し、情報保障のできるソーシャルワーカーの育成につなげる。

3. 研究（研究の質の向上に資する活動）

1) 目標

研究活動の活性化

2) 実施状況 & 3) 評価

○2025年度科研費等の採択状況

応募率53.8%（応募可能者13名中7件（6名）応募）、1件採択で採択率14%

（24年度 採択3/応募9で採択率33.3%、23年度採択3/応募8で37.5%、22年度4/9件で採択率44.4%）と経年的に減少傾向。

一方、2024年度に科研費の研究代表者12名（専任教員20名中60%）、研究課題は計14（内、延長課題4）、研究分担者としての参画5名。

科研費以外の外部資金による研究課題：研究代表者2（高知新聞・文科省）、分担研究者2（厚労科研等）。

以上より、延長課題も含めて6割の専任教員が科研代表者であるが、一部の教員が複数の課題を持ち、教員間で差がみられる。

○教員の研究業績

- ・『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』第74巻に3編掲載（論文2、報告1）。
- ・研究成果としては、著書5編（日本語単著2、共著3）、和文査読付論文11編（内筆頭8）、和文その他論文（報告等）15編（内筆頭13）、英文査読付き論文7（内筆頭2）、和文その他論文（報告）等22編（内筆頭16）、日本語学会発表18件（内、筆頭または単独14）。英文学会発表1（筆頭）。

○FD活動（FD委員会）

- ・学部FDを年間12回開催し、参加率は50～100%（平均88%）。

内訳：ゲストスピーカーを招いた啓発型が3回（産官学・地域協働の教育・研究、精神科医療（皆“で”生き抜くための実践）、免許返納問題と移動支援）、相互参加型5回（修学支援2、ゼミ指導、IT活用、高校訪問など入試広報）、研究3回（競争的資金獲得、海外ジャーナルの投稿から採択まで、教育と研究）、人権研修1回

4) 次年度の目標

①競争的資金獲得に向けFD研修を継続して開催し、主に若手教員のサポートにより科研費の応募率及び採択率を上げる。

目標：科研応募率：申請可能者の8割（延長予定者を除く）、採択率：応募件数の3割。

②他分野との共同研究など学際的な研究への展開を学ぶFD研修会を企画する。

4. 2025（R7）年度入試及び入試広報

1) 目標

志願者確保に向けた入試広報を学部全教員で一丸となって継続的に行い、志願倍率を維持していく。

2) 実施状況 & 3) 評価

○高校訪問及び訪問講座（県キャリア教育推進事業）

教員が県内35校、四国を中心とした県外48校を訪問し、訪問校を拡充して学部PRを実施した。高知県キャリア教育推進事業（12校の訪問講座＋4回の集合研修）に加えて、県外3校、県内1校の訪問研修を実施した。その際に在学生の学修状況、卒業生の就職先、学校推薦型選抜のPRを行った。さらに今年度は、岡山県と徳島県の2高校に対して在校生による母校訪問を実施した。

○学部ホームページを刷新し、学部の特色や学生及び教員の活動をわかりやすく発信した。また全学戦略広報課と協力し、ロールモデルとなる卒業生の紹介を通じて、卒業生の進路や福祉職のやりがい社会福祉学の魅力、などについて広報を行った。

○オープンキャンパスの社会福祉学部の参加者

来場者186名（昨年度221）名（内、高校生102名（昨年度125））（県内64、県外38）

○R7年度入試の概要

第28期生78名（県内出身32名（41%）・県外46名（59%）、男子14名・女子64名）が入学。

内訳

学校推薦型入試

県内〔20名〕：志願・受験30名（+4）>合格・入学20名 志願倍率1.5倍

全国〔10名〕：志願・受験19名（+4）>合格・入学10名 志願倍率1.9倍

前期入試〔35名〕：志願79名（-60）>受験70名>合格43名>入学43名 志願倍率2.3倍、合格倍率1.6倍

後期入試〔5名〕：志願68名（-7）>受験29名>合格6名>入学5名 志願倍率13.6倍 合格倍率4.8倍。

（留学生入試及び社会人入試は受験者なし）。

※推薦入試の志願倍率の増加と、前期入試の志願倍率の減少。毎年入学者のあった留学生の受験者なし（志願者1名が受験せず）。

4) 次年度の目標

○高校訪問対象地域や出前講座は高知県から四国3県にも拡大し、四国全体での広報活動を強化する。

○入試IRデータや入学者調査の結果を活用し、ホームページのさらなる充実を図る。受験生がアクセスしやすい構成とし、在学生の声、卒業後のキャリアモデル、社会的処方等地域貢献の紹介も含めコンテンツを追加する。

5. 就職・進路状況

1) 目標：継続して就職率100%を達成するよう支援を行う。

2) 実施状況 & 3) 評価

・第24期生卒業生71名のうち就職希望者65名、内3月末までに就職決定65名(100%)／県内21名(32%)、県外44名(68%)

【福祉施設等31名(48%)、医療機関10名(15%)、公務員等10名(15%)、社会福祉協議会6名(9%)、一般企業7名(10%)、自営業1名(2%)】

※学部教員の丁寧なサポートにより100%を継続。

4) 次年度の目標：就職率100%を維持する。県内就職率向上に向けた就職先の紹介。

6. 地域貢献活動

1) 目標：高知県キャリア教育推進事業及びリカレント教育事業を通して、高校生・保護者及び一般市民に対し、社会福祉に関する学びの機会を提供し、将来の人材育成に繋げる。

2) 3) 実施状況・評価①（キャリア教育推進事業）

高知県事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。7/27（OC兼）、9/7（認知症カフェ）、10/19（福祉体験ツアー）、3/25（新2・3回生のための入門講座）に開催した4回の集合研修で延べ292人（高校生及び保護者、外部講師、学生、スタッフなど含む）、県内12高校への訪問型講座で延べ291人（高校生及び高校教員、外部講師、学生、スタッフなど含む）が参加した。

4) 次年度の目標：キャリア支援事業の訪問型講座県内12高校、4回の集合研修は継続して実施する。訪問型講座については可能な範囲で県外（四国）にも展開する。

2) 実施状況 & 3) 評価②（リカレント教育事業ほか）

リカレント教育講座1講座を開催し、61人が参加(10/5)（健康長寿センターの事業を通して、一般市民や高校生へ講座の案内を行い参加を促した）。

その他に、学生及び教員が関わった地域貢献事業として、大学の社会的処方枠組みでの事業（土曜の永国寺カフェ、Kochi Teens Base、リカバリーカレッジ高知&永国寺はらっぱフェス）、立志社中（UOK手話サークル、かんきもん、Pシスターズ等）、女子カフェFIRST PLACEなどがある。

4) 次年度の目標：①県キャリア教育推進事業は志願者確保に不可欠な事業であり、県の人材育成への期待も高い。学部も物心両面で関わり、R6年度と同様の水準で事業を継続する。

7. 卒業生への支援

1) 目標：卒業生への継続的なキャリア支援として領域別のリカレント研究会を実施する。

2) 3) 実施状況・評価

・卒業生に対する支援として実施している領域別リカレント研究会を4分野で実施し、のべ81名が参加（SW学習会5、介護コース52、卒業生との共同研究10、ケアワーク学習会14）。

卒業生・在学生・教員をつなぐ学内就職説明会や卒業後のキャリアに関するミニ講話を実施し、128名が参加

4) 次年度の目標：R5年度と同様の水準で事業を継続する。

8. 国際交流活動

1) 目標：国際性を涵養する教育や協定校との国際交流の機会を提供する。

2) 実施状況 & 3) 評価

専門教育5科目において国際比較や多文化共生などソーシャルワーカーとして必要な国際性を涵養する教育をおこなった。また次年度の新たな短期研修先の候補の検討を始めた。

4) 次年度の目標：今後の短期研修プログラムの実施に向けて具体的に検討を進める。

2024年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(木)	入学式 (27期生76名)
	5日(金)	学生ガイダンス
	8日(月)	学生ガイダンス
	9日(火)	前期授業開始 (~8月6日)
	22日(月)	第1回連絡会・教授会
	24日(水)	卒業研究構想発表会
5月	13日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅰ) 報告会
	27日(月)	第2回連絡会・教授会
6月	3日(月)	実習連絡協議会(相談援助実習・ソーシャルワーク実習)
	24日(月)	第3回連絡会・教授会
7月	5日(金)	介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習(介護実習Ⅲ) 報告会
	27日(土)	EVENT1: 社会福祉の事を分かりやすく学ぶ・オープンキャンパス
	29日(月)	第4回連絡会・教授会
9月	2日(月)	第5回連絡会・教授会
	7日(土)	EVENT2: カフェで学ぶ福祉と認知症
	24日(火)	第6回連絡会・教授会
10月	1日(火)	後期授業開始 (~2月19日)
	5日(土)	リカレント教育講座
	9日(水)	第7回、8回連絡会・教授会
	10日(木)	第9回連絡会・教授会
	19日(土)	EVENT3: 県大生と行く最新の福祉体験ツアー
	23日(水)	卒業研究中間発表会
11月	28日(月)	第10回連絡会・教授会
	6日(水)	第11回連絡会・教授会
	18日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅱ) 報告会
12月	25日(月)	第12回、13回連絡会・教授会
	2日(月)	第14回連絡会・教授会
1月	23日(月)	第15回連絡会・教授会
	26日(日)	第37回介護福祉士国家試験
2月	27日(月)	第16回連絡会・教授会
	1-2日(土-日)	第27回精神保健福祉士国家試験
	2日(日)	第37回社会福祉士国家試験
3月	7日(金)	卒業研究発表会
	3日(月)	第17回、18回連絡会・教授会
	4日(火)	精神保健福祉援助実習連絡協議会
	6日(木)	19回連絡会・教授会
	19日(水)	第20回、21回連絡会・教授会
	21日(金)	卒業式(県民文化ホール、24期70名卒業)
	25日(火)	EVENT4: 新2・3年生のための入門講座(オンデマンド配信)
	27日(木)	第22回連絡会・教授会
29日(土)	第23回連絡会・教授会	

令和6年度 社会福祉学部 時間割 <前期> 池キャンパス 20240411版

月	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	教室	教員	教室	教員	教室
全	英語コミュニケーションII 基礎プレゼンテーション 地域学概論	英語コミュニケーションIA (別途記載) 宇都宮	英語コミュニケーションIA (別途記載)	介護生活支援技術I	介護生活支援技術I	教室	教員	教室	教員	教室
	1		介護生活支援技術I	介護生活支援技術I	教室	教員	教室	教員	教室	
	2		介護生活支援技術II	介護生活支援技術II	教室	教員	教室	教員	教室	
	3		介護生活支援技術III	介護生活支援技術III	教室	教員	教室	教員	教室	
火	生活と社会福祉 科学と人間	大講義室 A306	大講義室 A306	社会福祉史	社会福祉史	教室	教員	教室	教員	教室
	1	介護介護の基本I	介護介護の基本I	介護介護の基本I	介護介護の基本I	教室	教員	教室	教員	教室
	2	児童・家庭福祉論	児童・家庭福祉論	児童・家庭福祉論	児童・家庭福祉論	教室	教員	教室	教員	教室
	3	児童・家庭福祉論	児童・家庭福祉論	児童・家庭福祉論	児童・家庭福祉論	教室	教員	教室	教員	教室
水	健康スポーツ科学I(社福)	高徳・神門	体育館	日本国憲法	日本国憲法	教室	教員	教室	教員	教室
	1	保健医療サービス	保健医療サービス	保健医療サービス	保健医療サービス	教室	教員	教室	教員	教室
	2	虐待防止論	虐待防止論	虐待防止論	虐待防止論	教室	教員	教室	教員	教室
	3	虐待防止論	虐待防止論	虐待防止論	虐待防止論	教室	教員	教室	教員	教室
木	英語コミュニケーションII 基礎エッセーライティング	(別途記載) A321	英語コミュニケーションIA (別途記載)	家族関係論	家族関係論	教室	教員	教室	教員	教室
	1					教室	教員	教室	教員	教室
	2					教室	教員	教室	教員	教室
	3					教室	教員	教室	教員	教室
金	(介護)介護の基本III	辻・乾	辻・乾	(介護)障害の理解I 介護技術	(介護)障害の理解I 介護技術	教室	教員	教室	教員	教室
	1					教室	教員	教室	教員	教室
	2					教室	教員	教室	教員	教室
	3					教室	教員	教室	教員	教室
集中講義	現代生活論	菊池	オンデマンド	備考欄	備考欄					
	地域学実習I	秋谷・専任教員	通年							
	地域学実習II	秋谷・専任教員	通年							
	地域学実習III	秋谷・専任教員	通年							
	専門職連携論	西内・久保田・廣内	9月25日(水)~9月27日(金)	※いずれも1~5限	池キャンパス・F206/F208					
	土佐の食と健康	廣内	9月9日(月)~9月11日(水)	※いずれも1~5限	池キャンパス・A306					
	女性福祉論	長澤	別途連絡							
	ケアプラン策定法	西内	対面・遠隔併用	別途連絡						
	介護実習I	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)							
	介護実習II	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)							
	介護実習III	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)							
	介護実習IV	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)							
介護実習V	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習VI	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習VII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習VIII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習IX	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習X	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XI	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XIII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XIV	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XV	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XVI	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XVII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XVIII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XIX	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XX	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXI	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXIII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXIV	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXV	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXVI	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXVII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXVIII	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXIX	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								
介護実習XXX	田中・長崎・佐・河内・長・上杉	通年(別途連絡)								

令和6年度 社会福祉学部 時間割 <後期> 池キャンパス 20240913

月	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限			
	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員		
全	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	クインラン サバテン	A321		大講義室 A306	一色 他 梶原他	大講義室 E204		大講義室 F110	田中真他	教室 F110	
1												
2												
3												
4												
火												
1	医学概論	奥谷	大講義室	長澤・行真	大講義室	大井	大講義室 A204 A318		大講義室 D222 E102 E103 E204 F207	西内・西梅・加藤	大講義室 D222 E102 E103 E204 F207	体育館 遠隔
2	精神保健福祉援助演習 I	大井・稲垣・玉利	F110F207	杉原	E102	田中	E103		大講義室 D222 E102 E103 E204 F207	福間・西梅・遠山・行真	大講義室 D222 E102 E103 E204 F207	体育館講義室
3	精神保健福祉援助演習 II	大井・稲垣・玉利	F110F207	田中・上杉・矢吹・河内・辻・乾 大井・稲垣・玉利	E103 F110F207	杉原	E102		大講義室 A321 D221	乾・上杉 横井	大講義室 A321	体育館 遠隔
4	対人関係とメンタルヘルス	内川、玉利、湯川	大講義室	加藤	E204	大井・稲垣・玉利	F110F207		大講義室 F110F207	大井・稲垣・玉利	大講義室	大講義室
水												
1												
2	ソーシャルワークの理論と方法III	加藤	E102	西梅	E103	辻 吉池・玉利	F110 体育館講義室		F110 体育館講義室	上杉・乾・田中・矢吹・河内・辻 吉池・玉利	F110 体育館講義室	体育館講義室
3												
4												
全	英語コミュニケーションII 応用エッセーライティング 日本語表現法	李 橋尾・向井	A321 A318	(別途記載)								
木												
1	社会福祉基礎演習	福間・上杉	大講義室	田中・矢吹	E204	田中真・上杉	F110		F110	田中真・上杉	F110	
2	医療福祉論	大熊	E102	田中・矢吹	E204	田中真・上杉 田中真・行真	F110 大講義室		F110 E102	長澤・河内・玉利	E102	
3	(介護)医療的ケア I	乾・片岡	F110	乾・片岡	F110	大井・稲垣 河内・片岡	D222 E103		大講義室 D222 E103 E204 F207	福間他	E103	
4												
全												
金												
1	高齢者福祉論 I	矢吹・山本	E102	河内・辻	F207	河内・辻(後半)	F207		F207	河内	F207	
2	(介護)生活支援技術IV	田中真・関	F110	田中真・関	F110	矢吹	F110		E103	田中真	E103	
3												
4												
集中講義	地域学実習 I	秋谷・専任教員	通年									
	地域学実習 II	秋谷・専任教員	通年									
	域共生実習	秋谷・専任教員	通年									
	異文化理解海外フィールドワーク	高西	通年									
	チーム形成論	秋谷	12/17~20、12/23 各日2~4限	永国寺キャンパス:教育研究棟A101								
	ジェンダーとキャリア	森田美佐	遠隔(11/5、12、19、26、12/3、10)、対面(12/17、20、23 ※各2~4限)	永国寺キャンパスA110								
	介護実習 I	田中・矢吹・辻・河内・乾・上杉	通年(別途連絡)									
	介護実習 II	田中・矢吹・辻・河内・乾・上杉	通年(別途連絡)									
	介護実習 III	田中・矢吹・辻・河内・乾・上杉	通年(別途連絡)									
	ソーシャルワーク実習 I	福間他	通年(別途連絡)									
	ソーシャルワーク実習 II	福間他	通年(別途連絡)									
	ソーシャルワーク実習 III	福間他	通年(別途連絡)									
	精神医学 I・II	山崎	別途連絡									
	精神保健福祉援助実習 I	大井・稲垣・玉利	通年(別途連絡)									
	精神保健福祉援助実習 II	大井・稲垣・玉利	通年(別途連絡)									
	介護総合演習 I	田中・乾・上杉・矢吹・河内・辻	通年(別途連絡)									
	介護総合演習 II	上杉・乾・田中・矢吹・河内・辻	通年(別途連絡)									
	地域福祉活動	田中	別途連絡									
	精神保健福祉制度論	井上	別途連絡									
備考欄	備考欄											

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2024年度）

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児童・家庭福祉論／心理療法
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	社 会 保 障 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福祉政策/国際福祉/女性福祉
教 授	西 内 章	博 士（臨床福祉学）	ソーシャルワーク論
教 授	西 梅 幸 治	博 士（福祉社会学）	ソーシャルワーク論
教 授	矢 吹 知 之	博 士（教育情報学）	保 健 福 祉 学
教 授	横 井 輝 夫	博 士（保 健 学）	リハビリテーション科学
准教授	河 内 康 文	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	遠 山 真 世	博 士（社会福祉学）	障 害 者 福 祉 論
准教授	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	福祉施設運営管理論
特 任 講 師	大 井 美 紀	博 士（看 護 学）	精神保健福祉援助技術論
講 師	加 藤 由 衣	博 士（福祉社会学）	児 童 ・ 家 庭 福 祉 論
講 師	田 中 眞 希	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
講 師	辻 真 美	博 士（社 会 学）	介 護 福 祉 論
講 師	湯 川 順 子	博 士（創造都市）	地 域 福 祉 論
講 師	行 貞 伸 二	修 士（社会福祉学）	生 活 困 窮 者 支 援
助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助教	乾 由美	修士（看護学）	在宅看護論/医療的ケア
助教	上杉麻理	修士（社会福祉学）	介護福祉論
助教	大熊絵理菜	修士（社会福祉学）	医療福祉論
特任助教	片岡妙子	修士（看護学）	介護福祉論
助教	玉利麻紀	修士（人間科学）	精神保健福祉援助技術論
助教	山本大輔	修士（福祉社会学）	高齢者福祉論

○ 研究活動

（1）論文（原著・研究ノート・書評）（7件）

1. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅰ）—個人の年表から発想する—」『人間科学』104, 2-7. (2023年5月)
2. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅱ）—放送作家になったHさんのその後（前編）—」『人間科学』105, 2-7. (2023年7月)
3. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅲ）—放送作家になったHさんのその後（中編）—」『人間科学』106, 2-7. (2023年9月)
4. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅳ）—放送作家になったHさんのその後（後編）—」『人間科学』107, 2-7. (2023年11月)
5. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅴ）—再び個人の年表から発想する—」『人間科学』108, 2-7. (2024年1月)
6. 杉原俊二「『面接技法』のシラバス研究」『人間科学』109, 2-7. (2024年3月)
7. 杉原俊二「書評『オープンダイアログとは何か』（斎藤環著訳）」『ふまにすむす』35, 69-75. (2024年3月)

（2）学会発表等（2件）

1. 杉原俊二「プログラマーになりたかった中学生への支援—SSN時代の不登校事例—」日本人間科学研究会第22回大会（聖学院大学：ハイブリッド）2025年1月12日
2. 杉原俊二「自分史分析研究の進め方—これからのインタビューとそのまとめ方—（特別講演）」日本人間科学研究会第22回大会（聖学院大学：ハイブリッド）2025年1月13日

○ 教育活動

（1）学部：講義・演習

「心理学と心理的支援」（1回生前期8コマ分、看護学科「心理学理論と心理的支援」を同時開講）、「発達と老化の理解Ⅰ」（2回生後期）、「面接技法」（3回生後期）、「実践記録法」（4回生前期）、「社会福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（3回生5名）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（4回生6名）

（2）大学院：講義・演習

人間生活学研究科（博士前期課程）：「研究と倫理」、「家庭支援福祉論」、「社会福祉学課題研究演習」（主指導1名）、（博士後期課程）「社会福祉学特別研究Ⅱ」（主指導1名）

○ 委員会活動

- （1）大学院人間生活学研究科長（「研究科委員会（議長）」、「部局長会議」「教育研究審議会」）
- （2）全学委員「紀要委員会（委員長）」「入学試験委員会」「大学院入学試験実施委員会」「非常勤

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

講師審査委員会」「奨学金返還免除選考会委員会」「学術研究戦略委員」「戦略的研究プロジェクト審査会・中間審査会」「大学院研究助成金審査委員会」「国内・国際研修審査委員会」「自己点検・評価運営委員会」「不正防止委員会」「後援会学生研究等支援事業審査会委員会」「大学院あり方検討部会」「大学教育改革委員会」「学生懲罰委員会」
(3) 学部委員「人事関係検討会」「自己点検委員会」「教員評価部会」

○ 社会的活動

(1) 社会活動

高知県児童福祉審議会委員（8回参加・のべ12委員会）、高知県社会福祉協議会評議員選任・解任委員、高知県教育委員会スクールソーシャルワーカースーパーバイザー

(2) 学会など

日本人間科学研究会（常務理事・会報編集委員）、KJ法学会（運営委員）、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック（運営委員・副委員長、編集委員）・所属学会等の編集協力（査読者）

(3) 講演など

1. 香美市・香南市SSW事例検討会①：6月14日（香南市役所会議室）
2. 中央児童相談所問題事例調査：7月5日（中央児童相談所）。
3. SSW連絡協議会（高知県）：9月6日（土佐市複合文化施設「つないで」）。
4. SSW東部地区合同事例検討会：11月15日（安芸市市役所会議室）
5. SSWスーパービジョン：2月21日（心の教育センター）
6. SSWスーパービジョン（本山町）：3月4日（本学会議室）

○ 総合評価と課題

人間生活学研究科長再登板の3年目（通算7年目）となった。研究科長の仕事は、多くの研究科所属教員・職員と一緒にこなうものであり、今年度も何とか終えることができた。まずは、皆様にお礼を述べる。

教育に関しては、赴任して16年目で、第24期生を卒業させることができた。今年度のゼミでは、4回生6名・3回生5名であり、卒論指導も時間はかかったが楽しかった。4回生は中間報告会までは対面の授業で、それ以後は個別指導であったが、1か月近くをそれに費やした。3回生は学生主体で対面の授業を行った。これも学生の協力があり、無事に終わらせることができた。4回生は国試に5名が受験・合格し福祉職に就いた（1名は受験せず消防士）。3回生も頑張ってもらいたい。

授業では、自著論文（自分史・書評）を工夫しながら授業で使わせてもらっている。その準備に時間はかかるものの、いろいろと勉強になっている（実践記録法・面接技法）。講義科目については、ポストコロナ時代となり、授業のほとんどにパワポを導入し、出席代わりのミニレポートなどを一昨年度から実施し、今年度も少し形を変えて学生の意見聴取に務めた。

研究に関しては、新しい研究テーマ（日本社会福祉学会中国四国地域ブロックの課題研究）を行っている。また、2002年に研究が始まった自分史研究から20年以上経つため、その研究も進めている。また、論文にできていないインタビューも数事例残っている。これは、定年

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

までには何とかしたいと考えている。

各種委員については、研究科長の業務が多いため、学部での負担はできるだけ減らしてもらった。それでも、週単位で見れば授業時間（週4コマ）よりも、会議の時間が長いということもよくあった。

社会的な活動については、昨年度から地域貢献として高知県の児童福祉審議委員をしている。所属する委員会の数も多く、出席しなければならない会議も多い（今年度は8回）。ただ、本学の児童・家庭福祉分野の教員であるため「一丁目一番地」の仕事と考え、できることはやりたい。また、高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）を引き続き行い会議や研修会に出席した。学会では、これまでの活動に加えて日本人間科学研究会の常務委員も3年目になった。日本社会福祉学会中国四国地域ブロックの副運営委員長・編集委員（研究）となった。大学内での仕事は多いが、それでも、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

来年度は教学担当の副学長になる。多くの方々のご助力をお願いします。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○研究活動

（1）著書

- ・田中きよむ『社会保障システム（改訂版）』ビジネス実用社、2024年4月

（2）論説

- ・田中きよむ・霜田博文・玉里美恵子「生活困窮者支援をめぐる都市部の取り組みの動向と特徴—大阪・東京・神奈川の追調査をふまえて—」『高知論叢』第127号、2024年10月（1-20頁）
- ・田中きよむ・霜田博文・玉里美恵子「ホームレス支援活動の支援者の活動背景と想い—都市部の支援活動を事例として—」『高知論叢』第128号、2025年3月（1-18頁）
- ・田中きよむ「地域福祉（活動）計画と住民の主体性—高知県内の取り組みを事例として—」『Humanismus』第36号、2025年3月（16-54頁）

（3）学会発表等

- ・田中きよむ「地方の過疎化と伝統文化の継承—地域住民と学生の関係性に着目して—」日本民俗学会第76回年会（東京：國學院大學）2024年10月
- ・田中きよむ「ホームレスの多様化と当事者・支援者の想いに関する一考察」（四国財政学会第68回研究会）2024年12月
- ・田中きよむ（基調講演）『『介護難民』化の背景・状況と今後の方向』（2024年度高知県リハビリテーション研究大会）2024年12月

（4）研究助成外部資金

- ・田中きよむ（研究代表者）「地方におけるホームレスの実態把握と支援方法の研究」（文部科学省科学研究費基盤研究（B）（一般）；2022-2024年度）
- ・田中きよむ（研究代表者）「高齢者の認知機能と運転時注意挙動との関係解析」（公益信託 高知新聞・高知放送「生命の基金」；2023-2024年度）
- ・中井あい（研究代表者）田中きよむ（共同研究者）「地域共生拠点を活用した独居高齢者の看取りを支える多職種連携」（同上「生命の基金」；2023-2024年度）

○教育活動

（1）学部

（専門教育）

1. 地域福祉論Ⅱ
2. 社会保障論ⅠⅡ
3. 公的扶助論
4. 権利擁護論
5. 福祉NPO論
6. 社会福祉専門演習ⅠⅡ
7. 福祉研究演習ⅢD
8. 地域福祉活動
9. 社会保障と看護（看護学部）
10. 保健医療福祉論（健康栄養学部）

（2）大学院

（博士前期課程）

1. 地域福祉論
2. 社会保障論
3. 社会福祉課題研究演習

○委員会活動

- ・（学部）人事関係検討会委員、自己点検評価委員会委員、社会福祉領域研究倫理審査委員会委員長、学生委員会委員、就職委員会委員、国際交流委員会委員長

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、国際交流委員会委員、図書館委員会委員

○社会的活動

（委員等）

- ・高知県運営適正化委員会委員
- ・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
- ・高知県青年農業士認定委員会委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知県弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部支部長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員
- ・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長
- ・高知県リハビリテーション研究会理事
- ・高知県高次脳機能障害支援委員会委員
- ・高知県居住支援協議会会長
- ・社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「フアミーユ高知」各第三者委員
- ・NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事, NPO法人「みらい予想図」副理事長
NPO法人「あさひ会」理事長, NPO法人「あまやどり高知」理事, 社会福祉法人「さんかく広場」理事, NPO法人「こうちネットホップ」理事長

（外部委員会、研究・学習会、講演等）

- ・高知県社会保障推進協議会総会（会長）オーテピア4階研究室（2024年5月18日）
- ・社会福祉法人「さんかく広場」理事会（理事）県民体育館会議室（2024年4月12日, 5月16日, 10月22日, 2025年3月13日）
- ・自治体問題研究所「こうちネットホップの取組み-ホームレスやDV被害者等の支援」共済会館（2024年5月22日）
- ・NPO法人あさひ福祉会理事会・総会（理事長）あさひ作業所（2024年5月24日, 6月15日）
- ・高知市生活支援相談センター運営委員会（委員長）高知市社会福祉協議会・あんしんセンター（2024年5月30日, 2025年3月6日）
- ・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会（委員長）保健衛生総合庁舎（2024年6月14日）, 大阪コロナホテル（2024年12月1日）
- ・高知県保育運動連絡会（会長）「高知の保育を考える集い」共済会館（2024年6月16日）,
総会（高知城ホール）2025年2月2日, 行政懇談会（県庁西庁舎）2025年2月6日
- ・高知県青年農業士認定審査会（委員長）県民文化ホール（2024年7月2日, 8月5日）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・高知県居住支援協議会総会（会長）県立大学永国寺キャンパス（2024年7月30日）
- ・全国障害者問題研究会（分科会「働く場の支援」研究協力者, 基調報告）奈良教育大学（2024年8月3日・4日）
- ・高知県年金調整会議（委員長）高知会館（2024年8月20日）
- ・安芸市社会福祉協議会研修講師「高知における生活困窮者支援の取り組み」安芸市役所（2024年8月29日）
- ・京都府社会保障推進協議会社会保障学習会講師（ラポール京都）2024年9月17日, 2025年2月18日
- ・第18回高知医療センター学術年会プログラム・かんきもん発表（座長）高知医療センター（2024年10月19日）
- ・法務局高松管区研修講師「生活困窮者支援から見えてくる居住支援の本質」高知刑務所（2024年11月18日）
- ・困難女性支援シンポジウム（NPO こうちネットホップ主催）「困難女性を支える居場所づくりと地域づくり」（コーディネーター）県立大学池キャンパス（2024年11月24日）
- ・高松厚生支局居住支援セミナー研修講師「居住支援の本質」&パネルディスカッション・コーディネーター（サンポート高松）2024年12月16日
- ・高知県立大学社会福祉学部 FD 研修研究報告「移動問題と地域福祉—仁淀川町吾川地区中津川地域を事例として—」県立大学池キャンパス（2024年12月23日）
- ・土佐市民生委員児童委員協議会研修講師「孤立の現状と私たちの見守り活動について—生活困窮やひきこもりを事例として—」（土佐市複合文化施設つないで）2025年1月27日
- ・高知市社会福祉審議会審議会民生委員審査専門分科会（会長）高知市役所（2025年2月14日）
- ・高知市国民健康保険運営協議会（委員）あんしんセンター（2025年2月27日）
- ・加害者家族支援研究会（ふくし交流プラザ）2025年3月11日, 3月20日
- ・すずめ作業所第三者委員（すずめ作業所）2025年3月14日
- ・しまんと町社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー（しまんと町社会福祉協議会）2025年3月14日
- ・高知県リハビリテーション研究会学習会（インタビュアー）「当事者とコーディネーターから伺うヤングケアラー」県立大学池キャンパス&Web（2025年3月24日）

○総合評価及び今後の課題

- ・研究面では、2024年度は、①生活困窮者の実態把握と支援方法に関する検討、②生活困窮者の多様性と共通性の検討、③地域福祉（活動）計画策定・実行・評価プロセスにおける住民の主体性形成要因の事例検討、④近年の社会保障制度改革と社会保障財政の連関構造の分析を進めてきた。2025年度は、それらに関する実態調査をさらに進める一方で、理論的検討を深めていきたい。
- ・教育面では、講義に関しては、地域福祉論、社会保障論、公的扶助論、権利擁護論、福祉NPO論などを担当させて頂いたが、授業アンケート結果をふまれば、それらの科目に関する学生の理解力、関心の向上や主体的取り組みを改善する授業の工夫が依然として課題となっている。学生の教育ニーズにきちんと向き合いながらも、その理解力と主体性を高める工夫を図っていきたい。専門演習に関しては、地域とのつながりを大切にしながら、生の声や生活実態をふまえた理論化や課題解決を図れる姿勢が培えるよう

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

に指導していきたい。

2025年度は、講義においては、ミクロの個別支援に関心が強い学生に対しても、それをメゾレベル（地域福祉）やマクロレベル（社会保障）で捉え直すことの意義を理解してもらえる工夫に一層努めたい。

社会的活動は、2025年度は、地域の生活課題の多様性を明らかにしつつ、対策を考えたり、持続可能な地域の仕組みづくりについて実践的に検討する機会を戴けた。今後も、学生と共に、地域との接点を持ち、住民の現実の生活課題を明らかにしつつ対策を検討するとともに、各地域ならではの積極的な固有価値を再発見して、それを活性化する関係づくりに少しでも寄与していきたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（１）著書（１件）

・長澤 紀美子：「第３章 国連・障害者の権利条約と障害者権利保障の歴史 1. 国連・障害者権利条約」* (pp. 78-88) 及び「年表 1 障害者問題を巡る国際的な動き」(p. 270) 福祉臨床シリーズ編集委員会（編）（責任編集；峰島厚・木全和巳・深谷弘和）『新・社会福祉士シリーズ 14・障害者福祉』〔第２版〕、弘文堂、東京(2025)。

* [初版] (2021) の内容に加え、国連・障害者権利条約の対日審査等について加筆。

（２）論文（報告）（１件）

・長澤 紀美子：「トランスジェンダーの抱えるトラウマ経験の特徴と構造—トラウマインフォームドなソーシャルワーク教育を目指して—」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』Vol. 74, pp. 37-47 (2025)。

（３）国内学会等発表（３件）

・長澤 紀美子：「イギリスにおける「2022年医療・ケア法」に基づく自治体及び「統合的ケアシステム」の評価—質のステイトメントとエビデンスのガバナンスに焦点を当てて—」社会政策学会第148回（2024年度春季）大会・テーマ別分科会「社会福祉・介護政策における計画・ガバナンス・評価の新たな展開」慶應義塾大学 三田キャンパス、2024年5月19日。

・長澤 紀美子：「イギリスにおける楽しみを支えるための「パーソンセンタードな活動」の制度やシステム」新潟青陵学会第16回学術集会、2024年11月2日。

・長澤 紀美子：「イギリスでの社会福祉サービス評価制度と日本への示唆」科研国際共同研究強化（B）（2022年度—2026年度、研究代表者・県立広島大学 田中聡子教授）「福祉サービスの質と政策評価—東アジア3ヵ国（日本・韓国・中国）を中心に」の学術研究会（オンライン）2024年5月24日。

（４）海外学会発表（１件）

・Kimiko Nagasawa, Ren Hamaguchi, Kyoko Takeuchi: Supporting Senior Survivors: The Necessity of Trauma Informed care in Social Work for TGE(Transgender and Gender Expansive) in Japan. Session 9, Moving Trans History Forward conference (3/27-29), University of Victoria, Victoria, Canada. 2025年3月28日。

（５）競争的資金等の獲得状況（２件）科学研究費補助金 基盤研究(C)（一般）

・#20K02267「クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」（令和2年度～4年度；令和5～6年度延長）研究代表者

・#24K05338 「トランスジェンダーのトラウマに対するT I C（トラウマ・インフォームドケア）を応用したソーシャルワーク教育の開発」（令和6年度～8年度）研究代表者

（６）その他（話題提供）

・「科研研究課題の経過と研究計画書作成の留意点」社会福祉学部 FD 研修会
2024年6月24日

○教育活動

（1）学部

① 講義科目【学部専門科目】

- ・「社会福祉の原理と政策Ⅰ」及び同科目「Ⅱ」1回生必修（行貞講師とのオムニバス）
新カリ4年目で昨年度より平易な記述の教科書に変更し、教科書にない国試対策の内容を補充している。また歴史及び法律・制度と共に、今の社会課題や現場での支援課題と連動して理解できるよう努めた。
- ・「女性福祉論」3回生選択（学年の過半数が受講）

女性支援新法の施行も踏まえ、1回生次の「基礎ジェンダー学」での基礎学習に加え、より専門的実践的内容とするため、現場の支援者を招き、事例を中心に福祉職の女性支援のあり方を検討した。

（女性相談支援センター、ひとり親家庭支援センター、こうち男女共同参画センター、母子父子自立支援員、DVや性暴力被害者への支援を行うNPO法人、妊娠SOS職員、性暴力被害専門看護師、災害に関して国際的ネットワークを持つLGBTQ+研究者など。）

- ・「国際福祉論」2回生選択（玉利助教・河内准教授とのオムニバス）

担当回（8コマ）において、在留外国人等への多文化ソーシャルワーク、入管や技能実習生に関わる人権課題、制度の国際比較の講義に加え、国際経験豊かなゲストスピーカーを招き、欧州と日本における多文化共生などグローバルな視点を涵養する機会を設けた。

② 講義科目【共通教育科目】

- ・「基礎ジェンダー学（永国寺）」及び同科目「（池）」（看護学部岩崎講師とオムニバス）

4年目となり、永国寺と池それぞれ、学部の特性を踏まえつつ、ソレ共催講座やジェンダーと防災の団体、妊娠SOS等を招き、雇用や災害での性差別、性暴力や妊娠・性教育など身近な問題として多角的にジェンダー問題に関心を深めるよう努めた。

- ③ 卒業研究指導（ゼミ）：「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」（受講者3名）、「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」（受講者6名）

（2）大学院

【人間生活学研究科博士前期課程】

- ・「国際福祉論」（受講生4名） 研究指導：副研究指導教員としてM1生1名、M2生1名

【人間生活学研究科博士後期課程】

- ・研究指導：主研究指導教員としてD2生1名（休学期間含む）、副研究指導教員としてD3生1名を担当。

○委員会活動

【全学】 社会福祉学部長

*全学会議委員（運営会議、教育研究審議会、自己点検評価運営委員会、教員評価専門委員会、非常勤講師審査委員会、研究不正防止委員会）

【学部】 *学部教授会議長 学部自己点検評価委員長 学部教員評価部会長

【大学院】 人間生活学研究科 博士後期課程 学務委員

○社会的活動

（1）委員等

○行政及び機関の委員

- 高知県社会福祉審議会委員（副委員長）（令和5年度～令和6年末まで）
- 高知県困難な問題を抱える女性及びDV被害者への支援協議会（令和5年度～現在）
- 高知県社会福祉協議会理事（令和5年度～現在）
- 高知県福祉活動支援基金運営委員会（高知県社会福祉協議会）（令和5年度～現在）
- 高知県人権尊重の社会づくり協議会委員（令和元年度～現在）
- 高知市人権尊重のまちづくり審議会委員（副委員長）（令和元年度～現在）
- 高知地方労働審議会委員／高知労働局「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会（委員長）（令和3年度～現在）

○学会活動における委員

- 日本社会福祉学会 査読委員
- 日本地域福祉学会 査読委員
- 日本介護経営学会 査読委員

（2）地域での講演（人権研修等の講師）

- 「障害者権利条約と日本審査・総括所見ー私たちにとっての意味ー」研修講師（高知県精神障害者家族会連合会）高知市保健福祉センター 2024. 8. 22
- 「LGBTQ+多様な性のあり方＝人権」研修講師（高知県精神障害者家族会連合会）高知市保健福祉センター 2024. 8. 29
- 「困難女性を支える居場所づくりと地域づくり」「複合的な女性の困難と新法で目指す支援とは？問われているのは私たち」報告・シンポジスト（こうちネットホップシンポジウム）高知県立大学池キャンパス 2024. 11. 24

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動

- ・学生への細やかなフィードバックや可能な限り個別対応等の双方向的な教育を心がけているが、学部長としての管理的業務との両立が課題である。

（2）研究活動

- ・イギリスの社会的ケアの評価制度・システムの研究及びLGBTQ+、特にトランスジェンダーに対する支援とソーシャルワーク教育への適用に関して、学会報告を行った。特に後者は新規に科研が採択され、カナダで学会報告を行い、カナダのソーシャルワーカーとも意見交換する機会を持てた。各々の学会報告内容を論文化するとともに、科研の成果を取りまとめることが課題である。

（3）社会貢献

- ・女性支援新法の施行に基づき、共に県計画策定委員会のメンバーである妊娠 SOS みそのらんぷ及び県関係者と協力し、本学のジェンダーサークルやゼミ生が女子中高生の対応を担う、若年女性の居場所づくり（女子カフェ FIRST PLACE）を次年度の試行として2回開催し、アウトリーチに向けた連携を深めた。（10月6日永国寺キャンパス食堂、2月22日はりまやアンサンブル）

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

（4）学内業務について

- ・学部長2期目の1年目として、昨年に引き続き、学部教員や入試課・戦略課の事務職員との協力のもと、志願者確保に向けた高校訪問、県キャリア教育推進事業、ホームページの刷新等の入試広報を優先課題として取り組んだ。今後の若年人口の急減の想定を踏まえ、次年度以降も多様な媒体での広報や、高知県内はもとより中四国等等幅広く高校生に向け、発信の量と質を高める取組みを継続したい。
- ・教員体制については、研究（国際ジャーナルへの教員や院生との投稿及び研究費の採択）そして学部生・大学院生教育において多大な貢献をしていただいた横井輝夫教授が定年退職され、名誉教授を授与された。また精神保健福祉コース長として教育の質の向上に貢献いただいた大井美紀講師も1年半の任期を終えて退職された。次年度は精神保健福祉等の欠員が充足できた一方で、今後の全学的な人事に関わる方針やカリキュラムの見直しの中で、学部の特長である3福祉士の資格養成を堅持し、持続的な学部運営に向けて教員間で協力していきたい。

○ 研究活動

1. 論説

西内章（2024）「地域連携ネットワークにおける権利擁護アセスメントの鍵概念－支援ツールの開発に向けた実践課題の検討－」『ソーシャルワーク支援研究』1，101-111頁.

大熊絵理菜・西内章（2024）「スーパービジョンにおけるスーパーバイザーの苦悩に関する一考察」『医療社会事業』63，73-79頁.

2. 学会発表

御前由美子・安井理夫（関西福祉科学大学）・西内章、小榮住まゆ子（椋山女学園大学）（2024）「人口減少地域から限界化する定常態の集落実態とソーシャルワーク実践の必要性」日本社会福祉学会（第72回・日本福祉大学：2024年10月）.

3. 科学研究費助成事業

研究種目 基盤研究(C):2023～2025年度

研究代表者 西内章

研究課題 『身上保護を行う地域連携ネットワークにおけるソーシャルワーク実践モデルの構築』

5. 研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘先生が設立，京都府立大学公共政策学部教授 中村佐織会長）」に所属し，アセスメント支援ツールの研究開発を行った。

○ 教育活動

[共通教育教養科目]

① 「専門職連携論」

[学部専門教育科目]

① 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」

② 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」

③ 「虐待防止論」

④ 「ケアプラン策定法」

⑤ 「ソーシャルワーク演習Ⅲ」

⑥ 「ソーシャルワーク演習Ⅳ」

⑦ 「ソーシャルワーク演習Ⅴ」

⑧ 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」

⑨ 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」

⑩ 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」

⑪ 「ソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ」

⑫ 「社会福祉専門演習Ⅰ」

⑬ 「社会福祉専門演習Ⅱ」

⑭ 「社会福祉専門演習Ⅲ」

⑮ 「社会福祉専門演習Ⅳ」

教育研究活動報告書（西内 章）

[大学院人間生活学研究科・博士前期課程]

- ①研究方法論Ⅱ
- ②ソーシャルワーク論
- ③高齢者福祉論
- ④課題研究演習

○委員会活動

- ・教務部長
- ・アドミッションセンター長
- ・人事関係検討会委員
- ・自己点検評価委員
- ・入試広報部会委員

○社会的活動

[委員等]

- ・高知リハビリテーション専門職大学非常勤講師
- ・高知県行政不服審査会委員
- ・高知県地域福祉活動支援計画推進委員会副委員長
- ・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
- ・高知県教育振興基本計画推進会議委員
- ・高知県日常生活自立支援事業契約締結審査会委員
- ・高知市成年後見制度利用促進審議会会長
- ・高知市高齢者・障害者虐待予防ネットワーク会議会長
- ・高知市社会福祉協議会評議員
- ・高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長
- ・高知市社会福祉協議会これから安心サポート事業審査委員会委員長
- ・津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員
- ・津野町成年後見制度利用促進協議会委員
- ・津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員
- ・中土佐町権利擁護システム推進委員会委員

[研修会講師・講演等]

- ・令和6年度高知県教育委員会子育て支援員養成研修講師「児童虐待と社会的養護」（オンデマンド開催）（2024年5月14日）
- ・令和6年度高知県社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー養成研修講師「対人援助における権利擁護の視点」（2024年5月24日）
- ・高知県児童福祉司任用前講習会講師「児童家庭支援のためのケースマネジメント基本（1）」（2024年6月5日）
- ・高知県教育委員会研修講師「令和6年度スクールソーシャルワーカー活用事業初任者研修会」（2024年6月14日及び10月25日）
- ・令和6年度第21回地域福祉実践セミナー第3分科会アドバイザー「福祉施設が目指す地域福祉」（2024年7月13日）
- ・令和6年度高知県入退院支援事業研修講師「第2回多職種協働研修」（2024年8月19日）

教育研究活動報告書（西内 章）

- ・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催令和6年度福祉サービス苦情解決セミナー講師「苦情の相談と共有ー個別化と標準化の支援ー」（2024年9月13日）
- ・令和6年度高知県キャリア教育推進事業訪問型研修「中村高校×高知県立大学社会福祉学部『社会福祉って何だろう』」（2024年9月20日）
- ・令和6年度高知県キャリア教育推進事業訪問型研修「須崎総合高校×高知県立大学社会福祉学部『社会福祉って何だろう』」（2024年10月18日）
- ・令和6年度中土佐町高齢者虐待防止研修会講師「事業所による高齢者・障害者虐待防止の仕組みづくり」（2024年10月22日）
- ・高知県心の教育センター主催学習会講師「令和6年度第3回スクールソーシャルワーカーグループ学習会」（2024年11月9日）
- ・徳島県社会福祉協議会福祉人材センター説明会司会「徳島県就職インターンシップについて（高知県立大学）」（2024年11月13日）
- ・令和6年度医療的ケア児等支援者養成研修講師「【福祉】支援の基本的枠組み、福祉制度、遊び・保育・家族支援」（2024年12月4日）
- ・2024年度四国地区社会福祉会合同研修会第2分会助言者「精神保健福祉領域の社会福祉士の実践」（2024年12月8日）
- ・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催福祉サービス第三者委員ブロック別研修会講師「事故やトラブルを防ぐ相談対応とコミュニケーション・スキル」（2024年2月21日）

○総合評価及び今後の課題

令和6年度の社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは、4回生7名の卒業研究論文指導を行った。大学院では大学院生2名の主指導を担当し、令和7年度に修士論文を提出できるように指導している。教育活動については、引き続き学生から意見を聞きながら、授業目標・授業内容・教材の関連性を検討したいと考えている。研究活動では、科研費の研究が計画通りに進んでいない箇所がある。引き続き計画を修正しながら研究を行いたい。

委員会活動では、教務部長及びアドミッションセンター長として大学の教育と入試広報等に取り組んだ。

社会的活動については、外部委員としての活動と、外部研修の講師を行った。社会的活動は、自らの研究活動と関連しているテーマも多いため自己研鑽になっている。

次年度も教育活動及び研究活動、委員会活動、社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み、現在の自分を見つめ直し、気づきを得ながら改善に取り組み、尽力したいと考えている。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（1）研究会参加

- 1）エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

（2）研究資金の導入

- 1）基盤研究（C）「エンパワメント志向ジェネラル・ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法の構築」（令和2～4年度）研究代表者：西梅幸治
- 2）基盤研究（C）「分担研究：クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」（令和2～4年度）研究代表者：長澤紀美子
- 3）基盤研究（C）「分担研究：ヤングケアラーとその家族の家族レジリエンスを促進する看護ガイドラインの作成」（令和6～8年度）研究代表者：森下幸子

（3）論文等

論文

- 1）加藤由衣・西梅幸治（2025）「地域共生社会実現に向けたジェネラル・ソーシャルワーク循環システムの分析ーヤングケアラー支援に焦点化してー」『高知県立大学紀要』74, 21-36頁.

○教育活動

（1）担当科目

（学部）

- | | | |
|--------------------|--------------------|---------------|
| 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」 | 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」 | |
| 「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」 | 「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」 | |
| 「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 | 「ソーシャルワーク演習Ⅱ」 | |
| 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」 | 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」 | |
| 「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」 | 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」 | |
| 「ソーシャルワーク実習Ⅱ」 | 「ソーシャルワーク実習Ⅲ」 | |
| 「社会福祉専門演習Ⅰ」 | 「社会福祉専門演習Ⅱ」 | 「社会福祉専門演習Ⅲ」 |
| 「社会福祉専門演習Ⅳ」 | 「スーパービジョン」 | 「ソーシャルワーク演習Ⅴ」 |

（大学院）

- | | |
|----------|----------|
| 「研究方法論Ⅱ」 | 「社会福祉原論」 |
|----------|----------|

（2）クラブ活動

- ・ グローカルクラブ顧問
- ・ 編み物サークル顧問

○委員会活動

全学

- ・ 入試監査委員会（大学院）
- ・ 教務委員会
- ・ リ・デザインプロジェクト併任

学部

- ・ 教務委員会（長）
- ・ 人事関係検討会
- ・ 自己点検評価委員会
- ・ 入試広報委員会

○社会的活動

- ・エコシステム研究会 副代表
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 ソーシャルワーク演習講師
- ・高知リハビリテーション専門職大学 非常勤講師
- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・日本学校ソーシャルワーク学会 中国四国ブロック運営委員
- ・日本虐待防止学会 第30回学術集会査読委員
- ・高知県福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員長
- ・高知市不登校対策専門家支援チーム委員
- ・令和6年度地域共生社会フェスタ開催等委託業務公募型プロポーザル審査委員
- ・不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会委員
- ・高知県介護支援専門員法定研修検討ワーキンググループ委員
- ・特定非営利活動法人 結人の紬 就労支援事業所 未来ドア 第三者委員
- ・高知県子ども・福祉政策部 講師「児童福祉司任用前講習会 ソーシャルワークの基本」
(2024年5月30日)
- ・高知県民生委員児童委員協議会連合会 コーディネーター「第23回高知県民生委員児童委員大会」(2024年5月31日)
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」(2024年7月20日)
- ・介護労働安定センター高知支部 講師「主任介護支援専門員スーパービジョン学習会」
(2024年7月24日、8月5日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「先輩職員研修」(2024年10月28日)
- ・介護労働安定センター高知支部 講師「主任介護支援専門員スーパービジョン研修」
(2024年9月26日～28日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「高知県中堅民生委員児童委員研修会」(2024年10月7日、
10月15日)
- ・土佐塾中学・高等学校 講師「教職員人権研修」(2024年11月20日)
- ・高知県子ども・福祉政策部障害福祉課 講師「令和5年度サービス管理責任者等更新研修SV勉強会」(2024年12月4日、2025年1月17日、1月29日)
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」(2024年12月7日)
- ・高知県社会福祉士会 助言者「四国地区社会福祉士合同研修会分科会Ⅰ：支援拒否のある方へのアプローチ」(2024年12月7日)
- ・介護支援専門員実務研修 講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」(2024年12月22日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「サービス管理責任者としてのスーパービジョン」(2025年
2月20日、2月27日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「相談援助応用研修」(2025年2月21日)
- ・高知県心の教育センター 講師「令和6年度第3回スクールソーシャルワーカーグループ学習会」(2025年2月22日)

教育研究活動報告書（西梅 幸治）

- ・高知県社会福祉協議会 講師「新任職員研修ステップ3」（2025年3月10日）
- ・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」（2024年7月20日、2025年2月1日：計2回）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが、継続的に研究を行ってきた。科研費による研究については、ジェネラル・ソーシャルワークに関する成果を提出することができた。定期的な研究会は、各大学の研究者から助言や示唆を得ながら、e スキャナーの新たな開発に取り組むことができた。自身の主たる研究テーマについては、その成果の一部を公表できたものの課題が残ったと感じており、次年度も継続して取り組んでいきたい。

（2）教育活動について

今年度も、新カリキュラム移行に伴い、一部の科目で修正を行った。特に講義系科目（理論と方法Ⅳ）では、より実践に向けた応用的な内容を教授する必要性から、演習的な要素を改善し、実践場面での応用をイメージできるように工夫した。講義後には、フィードバックによって、授業展開の修正ならびに学生回答の提供、追加資料の配付なども行った。引き続き、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。

実習科目では、新カリキュラムでの児童福祉領域の担当が2年目となった。授業内容や事前学習などで、ソーシャルワークとともに領域を意識した事前指導に努めた。ふり返りの授業である演習Ⅴでは、グループ・スーパービジョンに取り組み、スーパービジョンへの取り組み姿勢への課題が残ったが、自己覚知や専門職としての姿勢が養われ、将来への動機づけを高めていく成長プロセスを感じることができた。

また今年度は、5名の学生の卒論指導を行った。ゼミでの相互作用をとおして指導に取り組み、グループでの添削や意見交換とともに、iThenticateなどのツールの活用も図った。後期から就職活動などの影響により進捗状況に大きな差がみられたものの、各自の努力によって卒業論文の提出とともに、国家試験でもよい成果を残すことができた。

（3）委員会活動・社会的活動について

教務委員長としては、活動計画をもとに、会議や卒論関連の発表会の効果・効率的な運営と連絡調整に努めた。またリ・デザインプロジェクトについては、高知県教育委員会と高知県立大学が連携協定を締結し、高知県心の教育センターとともに Kochi Teens Base を新たに開設することができた。約半年間、子どもたちと学生が安心・安全に過ごすことができるように、安定的な運営を目標に携わることができた。

社会的活動についても、継続して高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修などにも尽力できたと感じている。特に今年度は、主任介護支援専門員の研修実施に向けて準備段階から参画し、無事に終えることができた。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、全国的な視野を持ちながら貢献していきたい。

矢 吹 知 之

Tomoyuki YABUKI

○研究活動

（著書）

- ・矢吹知之, ベレ・ミーセン：共生社会をつくる認知症カフェ企画・運営マニュアル. 中央法規出版, 2025年3月
- ・林崎光弘, 矢吹知之：認知症の人とともに歩むグループホームケアの理念と実践. 中央法規出版, 2025年3月

（論文）

- ・矢吹知之, 広瀬美千代：家族介護者が認識する認知症カフェのサポート機能の構造. 日本老年社会科学会 46(1). 7-19, 2024.
- ・富永真紀, 田中真佐恵, 矢吹知之：外国人介護職の受入れの利点と外国人に関する課題：施設長と管理職へのインタビューによる質的研究. こころと文化 22(2), 319-330, 2024.
- ・矢吹知之：認知症カフェは地域社会にどのような影響をもたらしたのか. 日本認知症ケア学会誌23(4) 2025.

（学会報告）

- ・野村信威, 多賀努, 来島みのり, 楠田寿和, 矢吹知之：診断後支援プログラム「認知症とともに良く生きるコース」パイロットスタディ. 第25回日本認知症ケア学会東京大会, 2024年6月.
- ・矢吹知之, 広瀬美千代ほか：学会誌論文の書き方, 育て方. 第25回日本認知症ケア学会東京大会, 2024年6月.
- ・矢吹知之：認知症の日人がもつ不安, 恐れ, そして安心に向けたかかわり - 認知症の人の認識文脈とアタッチメント - 日本老年看護学会第29回学術集会 2024年6月
- ・鈴木みずえ, 矢吹知之ほか：地域における認知症カフェと認知症マップを基盤とした認知症を共に分かち合う取り組み. 日本老年看護学会第30回学術集会, 2024年6月

（競争的研究資金獲得状況）

- ・共同創造に基づく「認知症カフェ包括的評価指標」の確立（基盤研究C 研究課題24K05477）（研究代表者：矢吹知之）2023年～2026年3月.
- ・効果的な認知症の診断後支援の確立に向けた調査研究（24GB0301）（研究代表者：岡村毅, 共同研究者：矢吹知之）
- ・令和6年度厚生労働省老人保健事業「農業をいかした高齢者の生きがいづくり, 役割創出, 社会貢献, 社会参加に関する調査研究」（研究代表者：岡村毅, 共同研究者：矢吹知之）

○教育活動

（担当科目）

- ・学部

認知症の理解Ⅰ，認知症の理解Ⅱ，高齢者福祉論Ⅰ，高齢者福祉論Ⅱ，社会福祉専門演習Ⅰ，社会福祉専門演習Ⅱ，社会福祉専門演習Ⅲ，社会福祉専門演習Ⅳ，生活支援技術Ⅴ，介護過程Ⅲ，生活と社会福祉

- ・大学院

介護福祉学

○委員会活動

- ・実習員会（委員長），FD委員会，1回生学年担当，大学院入試実施委員会

○社会的活動

（大学主催学外向け研修等）

- ・社会的処方プロジェクト：認知症カフェ「土曜の永国寺カフェ」

（学会等）

- ・日本認知症ケア学会 理事，日本認知症ケア学会総務委員会
- ・日本高齢者虐待防止学会 理事，日本高齢者虐待防止学会組織拡大員会（委員）
- ・日本老年社会科学会 評議員
- ・認知症普及啓発事業広報一式に係る提案書審査委員会 委員（厚生労働省）

（委員等）

- ・高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会 委員長
- ・共生社会の実現を推進するための認知症基本法のわかりやすい解説冊子作成及び自治体への周知に関する広報事業一式に係る提案書審査委員会 委員（厚生労働省）
- ・高知市認知症になっても安心して外出できる街を考える会（高知市）委員
- ・be Orange 2024 選考プロジェクト 選考委員（NPO 法人認知症フレンドシップクラブ）
- ・令和6年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業「共生社会の実現を推進するための認知症基本法に基づく認知症施策のあり方に関する調査研究事業」委員

（学外講師，講演）

- ・北海道美唄市認知症講演会 講演演者（2024年5月）
- ・高知市認知症地域支援推進員 現任者研修 研修講師（2024年6月）
- ・高知市保健師研修会 研修講師（2024年6月）
- ・宮城県登米市令和7年度認知症カフェ研修会（2024年6月）
- ・仙台市認知症地域支援推進員養成研修 研修講師（2024年7月）
- ・四国厚生支局認知症セミナー基調講演 特別講演（2024年7月）
- ・大阪府箕面市認知症カフェ運営者研修 研修講師（2024年7月）
- ・高知県虐待防止研修会 研修講師（2024年7月）
- ・愛媛県長寿社会課認知症地域支援推進員研修 研修講師（2024年7月）
- ・島根県出雲市医師会研修会 研修講師（2024年7月）
- ・愛媛県姫路市認知症カフェ講演会 講演演者（2024年8月）

教育研究活動報告書（矢吹 知之）

- ・高知県介護福祉士会認知症研修会 研修講師（2024年8月）
- ・長崎県認知症のひとと家族の会アルツハイマーデー記念講演会 演者（2024年9月）
- ・泉南市福まちサポートリーダー研修会 研修講師（2024年10月）
- ・香川県老人福祉施設協議会研修会 研修講師（2024年11月）
- ・長野県上田市オレンジカフェ研修会 研修講師（2024年12月）
- ・2024年度四国地区社会福祉士合同研修会 講演会演者（2024年12月）
- ・第6回山口県認知症カフェサミット 講演演者（2024年12月）
- ・高知県若年性のひとと家族と支援者の会 研修会講師（2024年12月）
- ・福岡県大牟田市認知症のひとと家族への一体的支援 研修講師（2025年1月）
- ・高知県幡多地域保険所見行研修会 研修講師（2025年1月）
- ・千葉県船橋市認知症カフェ交流会 研修講師（2025年1月）
- ・秋田県大仙市認知症カフェ交流会 研修講師（2025年1月）
- ・高知県民生児童委員研修会 研修講師（2025年2月）
- ・鹿児島県認知症地域支援推進員研修 研修講師（2025年2月）
- ・仙台市認知症地域支援推進員研修会 研修講師（2025年2月）
- ・丸亀市認知症カフェ運営者研修会 研修講師（2025年2月）
- ・仁淀川町高齢者虐待防止研修会 研修講師（2025年2月）
- ・東広島市認知症カフェ運営者研修会 研修講師（2025年2月）
- ・広島県廿日市市認知症共生社会講演会（2025年3月）
- ・高知県認知症カフェ研修会（2025年3月）

○総合評価及び今後の課題

（研究活動）

日本学術振興会、基盤研究C「認知症の本人と家族介護者の日本版統合ケアプログラムの開発」は、最終年度の成果をもとに書籍を二冊、学会誌原著論文1本を執筆した。また、今年度から新たに始まった、「共同創造に基づく「認知症カフェ包括的評価指標」の確立（基盤研究C研究課題24K05477）」の研究を計画通り進める。

（教育活動）

新規科目2科目があり準備に追われることがあった。次年度はさらに講義内容を精査するとともに、研究内容を講義に活かしつつ教育の質を高めていきたい。

（委員会活動）

FD委員会、実習委員会が新たな委員会活動として参画することができた。初担当でもあり不慣れな点もあったため、次年度はさらに貢献できるように努める。

（社会的活動）

市町村自治体や専門職団体から研究内容に対する研修依頼、講演依頼が多くあった。研究と研修及び大学の知名度の向上に務められるよう研究と教育の発信を続けたい。また、県内自治体についても積極的な発信を務めたい。

（国際交流）

今年度は、多様な研究機関との連携が進み、共同研究の機会が増えた。これにより、グローバルな視点での研究が可能となり、国内外の学会での発表も積極的に行うことができた。次年度もこの流れを継続し、国際的な研究ネットワークをさらに強化していく計画である。

○研究活動

論文

- ・ Yasufumi Kochi, Teruo Yokoi: Social work and mutuality. *International Social Work* 68(2), 2025. <https://doi.org/10.1177/00208728241256581>
- ・ Masaki Kira, Teruo Yokoi, Takayasu Fukuma, Takaaki Ishiyama: Smartphones helping memory-impaired individuals overcome inconveniences during daily living. *Gerontology and Geriatric Medicine* 10, 1-5, 2024.

○教育活動

（学部）

- ・ 精神保健学 I
- ・ 精神障害リハビリテーション論
- ・ こころとからだのしくみ I
- ・ 介護の基本 II
- ・ 精神保健学 II
- ・ 発達と老化の理解 II
- ・ こころとからだのしくみ II
- ・ 社会福祉専門演習 III・IV

（大学院）

- ・ 健康リハビリテーション論
- ・ 社会福祉学特別研究
- ・ 社会福祉学課題研究演習

○委員会活動

（全学）

- ・ 人権委員会

（学部）

- ・ 教務委員会
- ・ 自己点検評価委員会
- ・ 人権委員会
- ・ 人事関係検討会

（大学院）

- ・ 入試委員会

○社会的活動

（学外非常勤講師）

- ・ 吉備国際大学（「運動発達学」「障がい児理学療法学」担当）

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動について

介護福祉士指定科目である「こころとからだのしくみ I」「こころとからだのしくみ II」「発達と老化の理解 II」については、知識を着実に獲得できるように、毎回知識確認テストを行いながら進めた。また精神保健福祉士指定科目である「精神保健学 I」「精神保健学 II」「精神障害リハビリテーション論」については、思考を深めるための資料を提供し

教育研究活動報告書（横井 輝夫）

ながら進めた。

大学院では、主指導を務めた博士前期課程の院生の修士論文（記憶障害者の生活を克服するスマートフォンの研究）が、英文誌（Gerontology and Geriatric Medicine）に掲載された。

（2）研究活動について

2論文が英文誌に採択され、現在、英文誌へ4編を投稿中である。

（3）学内業務について

全学では人権委員会、学部では教務委員会などの委員を務めた。

（4）社会貢献について

特に、研究での新たな知見を発表することを通して社会に貢献していきたい。

○研究活動

1. 論文等

河内康文「介護福祉士を志す学生と祖父母との相互性に関するドキュメント分析」.

『介護福祉教育』29(2), pp.54-60, 2025年1月.

Social Work and Mutuality Yasufumi Kochi, Teruo Yokoi *International Social Work*, Volume 68 Issue 2, pp.338-341, (First published online June 11, 2024)

○教育活動

1. 介護の基本 I
2. 介護過程 I
3. コミュニケーション技術
4. 介護総合演習 I
5. 介護総合演習 II
6. 介護総合演習 III
7. 介護総合演習 IV
8. 介護実習 I
9. 介護実習 II
10. 介護実習 III
11. 障害の理解 II
12. 社会福祉専門演習 I
13. 社会福祉専門演習 II
14. 社会福祉専門演習 III
15. 社会福祉専門演習 IV
16. 国際福祉論（オムニバス）

○委員会活動

1. 入試実施専門部会（全学）
2. 入試広報委員会委員長
3. 広報委員会
4. 介護福祉コース主担当
5. 共通テスト実施委員会
6. 社会的処方プロジェクト委員

○社会的活動

1. 委員等

- (1) 高知県障害者施策推進協議会 副会長
- (2) 高知県障害者差別解消支援地域協議会委員
- (3) 高知県自立支援協議会専門部会長
- (4) 高知県自立支援協議会 副会長

教育研究活動報告書（河内 康文）

- (5) 高知市障害者計画等推進協議会 会長
- (6) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
- (7) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員

2. 講演等

- (1) 出前講義 講師「社会福祉と学び」（安芸高校） 2024年7月16日
- (2) 出前講義 講師「社会福祉と学び」（三島高校） 2024年7月26日
- (3) 出前講義 講師「社会福祉と学び」（高知小津高校） 2024年8月29日

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

「介護過程Ⅰ」では、前年度に作成した教材の内容を見直し、学生の理解度や学習プロセスに応じた改善を行った。具体的には、事例パートを充実させることで、学生が介護過程をより具体的にイメージしやすくなるよう工夫した。また、授業内でグループワークを積極的に取り入れ、相互学習を促進した。

「コミュニケーション技術」では、視覚障害者や聴覚障害者とのコミュニケーションについて学ぶ機会を設け、オーテピア点字図書館での体験学習も実施した。さらに、「非言語的コミュニケーション」や「相手の語りを引き出す力」など、より実践的な観点を重視した。

2. 研究活動について

『介護福祉教育』に「介護福祉士を志す学生と祖父母との相互性に関するドキュメント分析」を発表し、学生の対人関係と職業意識の形成について考察した。

また、*International Social Work* にて、横井輝夫先生との共著による「Social Work and Mutuality」を発表し、日本における相互性の思想を国際的に発信する機会を得た。本研究の機会をいただき、またその方法論について多くを学ばせていただいた横井先生に、心より感謝申し上げます。

3. 社会活動について

2024年度は、障害者差別解消法の改正に関連して、国連の「障害者の権利に関する条約」の理念に基づく法制度の整備が進む中、高知県障害者差別解消支援地域協議会の委員として検討に参画した。すべての人が障害の有無にかかわらず人格と個性を尊重し合い、共に生きる社会の実現に向けた議論は、自らの実践や教育にとっても大きな学びとなった。

また、高知市障害者計画等推進協議会では、会長としての任期を終える一年となった。任期中、多くの方々とともに課題と向き合う機会をいただいたことに、深く感謝している。

○研究活動

- (1) 競争的資金の獲得
なし

○教育活動

- (1) 担当科目
- ・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
 - ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
 - ・相談援助実習
 - ・福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
 - ・障害者福祉論
 - ・社会福祉調査の基礎
- (2) 学生支援
- ・卓球サークル顧問
 - ・映画サークル顧問

○委員会活動

- (1) 全学
- ・学生委員会
- (2) 学部
- ・学生委員会
 - ・就職委員会
 - ・入試広報部会
 - ・実習委員会

○社会的活動

- ・高知県要約筆記者養成講座講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当
- ・高知県社会福祉協議会福祉職員基礎講座講師「障害福祉サービス」担当
- ・高知県障害者介護給付費等不服審査会委員
- ・土佐あけぼの会評議員及び第三者委員
- ・高知県自立支援協議会就労支援部会員

○総合評価及び今後の課題

- (1) 研究活動について

本年度は、昨年度に高知県内すべての障害者就労継続支援B型事業所を対象に実施したアンケート調査のデータを整理し、単純集計を行うことができた。事業所の運営状況、利

教育研究活動報告書（遠山 真世）

用者の障害の状況や作業面での課題、工賃の変化、工賃向上のための取り組みや課題などを把握できた。次年度はさらにデータ分析を進め、高知県内の障害者就労継続支援B型事業の現状と課題を明らかにし、今後求められる政策や支援について具体的に考察していきたい。

（2）教育活動について

昨年度と比べ本年度は、学生のコロナ感染も少なく、年間を通して対面授業を行うことができた。インフルエンザが流行し、特別欠席となる学生が増えた時期もあったが、後日授業の資料を配布したり、課題提出の期限を延長するなど配慮した。授業は対面で行いつつ、moodleを活用して課題提出やフィードバックを行った。

ソーシャルワーク実習についても、コロナ感染の影響は少なく、ほぼ予定通りに行うことができた。実習にあたって抗原検査が求められるケースは少なくなったが、毎日の検温や体調管理をしっかり行う必要がある。学生も、発熱した場合は実習先に連絡するとともに、教員にも報告をするなど、迅速で的確な行動をとることができた。

講義科目においては、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。復習問題や課題、小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。3回生のゼミでは、重症児デイサービス事業所や障害者就労継続支援事業所、障害者自立訓練事業などを訪問した。学生自らが企画し、訪問先への依頼・調整などを行った。学生が主体的に企画・運営することにより、各自が何を学びたいのかを明確にし、それを訪問先へ伝える力を伸ばすことができた。4回生のゼミでは、個別指導が中心となったが、個々の学生の関心に沿ってスムーズに研究が進められるよう、情報収集や分析方法、論文としてのまとめ方などについて助言を行った。

（3）委員会活動・社会活動等について

委員会活動では、学生委員会・就職委員会として活動した。各学年の修学支援を必要とする学生に対し、学年担当教員、教務委員会、教務・学生支援課、健康管理センターなどと連携し、どのような支援ができるかを検討し、相談・支援を行った。

また、4回生の学年担当として就職活動のサポートを行った。進路にかんする相談に応じたり、採用試験に向けた準備において、志望動機や小論文の添削、面接の練習などを行った。進路が決定した4回生については、進路決定届を教務・学生支援課にスムーズに提出できるよう、学生への周知を工夫した。

社会活動では、対面による専門職の養成講座を行うことができた。今後もさまざまな形で、地域住民や専門職の方々、高校生などに学んでいただけるよう貢献していきたいと考える。

また、今年度から高知県自立支援協議会就労支援部会の部会員となり、障害のある方々の就労支援や、就労継続支援事業所の工賃向上に向けて、必要な地域の環境や制度について検討を行った。これまでの研究成果を、政策策定や環境整備につなげられるよう取り組んでいきたい。

福間 隆康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

1 論文

- ・[Takayasu Fukuma](#) 「Effects of self-efficacy, LMX, and job characteristics on organizational adaptation by mediating proactive behavior: Quantitative survey of people with mental disabilities in companies」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第74巻, pp.1-20, 2025年3月。
- ・Kira Masaki, Teruo Yokoi, [Takayasu Fukuma](#) and Takaaki Ishiyama 「Smartphones Helping Memory Impaired Individuals Overcome Inconveniences During Daily Living」Gerontology & Geriatric Medicine, 10, pp.1-5, 2024年8月。

2 学会発表

- ・[福間隆康](#) 「精神障がい者と発達障がい者の組織適応に関する比較研究：個人要因，職務要因，上司要因に焦点を当てて」日本社会福祉学会 第72回秋季大会（2024年10月）
- ・[福間隆康](#) 「特例子会社における障がい者の組織適応課題：インタビュー調査を通じた実証分析」第32回職業リハビリテーション研究・実践発表会（2024年11月）

3 外部資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（基盤研究(C)）「障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究」（2022年度～2025年度）研究代表者：福間隆康

○教育活動

1 学部

福祉対象入門，福祉援助入門，社会福祉入門演習，社会福祉基礎演習，地域福祉論Ⅰ，福祉研究法入門，福祉サービスの組織と経営，社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ，ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

2 研究科

研究方法論Ⅱ，福祉マネジメント論

○委員会活動

1 全学

- ・図書館運営本部会議

2 学部

- ・社会福祉研究倫理審査委員会
- ・学生委員会

○社会的活動

1 委員等

教育研究活動報告書（福間 隆康）

- ・独立行政法人日本学術振興会特別研究員等審査会審査委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員
- ・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク地域連携事業部委員
- ・南国市社会福祉協議会南国ネットワーク連絡会委員
- ・南国市社会福祉協議会南国市あったふれあいセンター運営委員会委員
- ・日本ソーシャルワーク学校教育連盟中国四国ブロック運営委員

○総合評価及び今後の課題

1 研究活動

科学研究費助成事業（若手研究および基盤研究（C））の一部成果について、学会での報告および研究紀要への掲載を行うことができた。次年度は、基盤研究（C）の研究計画書に基づき、研究を着実に推進するとともに、その成果の一部を学会で報告し、さらに学術雑誌への投稿を予定している。

2 教育活動

授業においてはアクティブ・ラーニングを重視し、学生が主体的に答えのない問いに向き合い、自ら解答を導き出す力を育むことに努めた。そのために、単なる講義形式にとどまらず、学生の疑問を引き出し、自らの意見を発信できるよう思考の可視化を促進した。

具体的には、学習意欲を高める ARCS モデルに基づき、以下の取り組みを行った。

- 1) 関心を引く問いかけや最新の研究テーマの紹介により、探究心を喚起した。
- 2) 講義中に動画を挿入し、また多様な資料を活用することで、表現の幅を広げた。
- 3) 授業内容の将来的意義を示し、目的意識を醸成した。
- 4) 学生の身近な事例を用いて、既存の体験や知識と関連付けた。
- 5) 小ステップでの課題提示により、成功体験の機会を提供した。
- 6) 自己評価を促し、成功の要因を自己に帰属させる意識づけを行った。
- 7) 仮想事例ではなく、実際のデータや事象を用いて学習の実感を高めた。
- 8) 課題への加点など外的報酬の導入により、学習動機を支援した。

次年度は、学生からの授業評価結果を基にさらなる授業改善を図るとともに、学生間の活発な意見交換を促進するため、オンラインツールの積極的な活用にも取り組む予定である。

3 委員会・社会的活動

社会福祉コースの主担当として、新カリキュラムに対応した実習関連科目および現場実習を無事に実施した。日本ソーシャルワーク学校教育連盟中国四国ブロック運営委員として、総会・運営会議・セミナー等に参加し、地域ブロックの運営に貢献した。

また、南国ネットワーク連絡会および南国市あったふれあいセンター運営委員会に参画し、地域の関係機関・団体との連携強化に努めた。今後は、県内企業等との共同研究や、産学官民の連携による交流の場への参加を通じて、地域および産業界の発展に寄与していきたい。

大井 美紀

Miki OI

○研究活動

1. 論文・学会発表

廣川空美, 菊池美奈子, 大井美紀, 馬場幸子, 植田紀美子, 元吉忠寛, 近藤誠司.
大阪府内の学校教職員における「子ども食堂」などの子ども支援サービスにおける
実態調査. 厚生の指標. 2024:vol171(14). 23-30.

2. 研究会

関西大学社会安全学部廣川空美教授、菊池美奈子准教授（梅花女子大学看護リハビリ
テーション学部他と「大阪府下の学校教職員における『子ども食堂』支援サービ
スのニーズに関する実態調査」の実施他、大阪府下の関係機関等との連携を図りな
がら社会的処方に関する研究を行っている。

○教育活動

(1)担当科目（学部）

- 1) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- 2) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- 3) ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）

(2)学生支援（学部）

- ・国家試験受験生への個別支援を行った。
- ・就職活動に関する個別支援を行った。
- ・精神保健福祉援助実習に関する指導を行った。

(3)その他（大学）

- 1) 地域共生学研究機構のリ・デザインプロジェクト「永国寺はらっぱフェス」担当
(2024年9月～2025年3月)
- 2) 健康長寿研究センター事業：リカレント教育講座「運動コミュニティの力とメンタル・ヘルス」 講師 (2024年10月5日)
- 3) 県民大学講座「ヘルシー・エイジング～身体を動かすと脳が元気に働きます～」
講師 (2025年1月、3月)

○委員会活動

なし

○社会的活動

(1)学外非常勤講師等

- ・高知大学医学部看護学科（「公衆衛生看護展開論Ⅱ」担当 2024年5月）
- ・高知開成専門学校看護学科（「公衆衛生学」担当：2024年9～12月）

教育研究活動報告書（大井 美紀）

- ・ 関西大学社会安全学部廣川ゼミ特別講義「地域精神保健活動の実際」

(2025年1月16日)

(2) 委員等

- ・ 一般社団法人ライフコンシェル・ミモザ 理事
(成年後見活動：弁護士・司法書士らとともに神戸市において活動)
- ・ 特定非営利活動法人みどりの手 理事
- ・ 社会福祉法人さんかく広場 理事

(3) その他

- ・ 香南市教育委員会：チャレンジ塾学習支援委員（2024年9月～2025年2月）

○総合評価及び今後の課題

(1) 学部教育

- ・ 2023年10月より特任講師（精神・社会福祉コース）として着任した。
- ・ 学生への教育の質を保証するため、2名の専任教員らと協働し、主に、学部専門科目の構成や教授方法を検討し授業において実施した。
- ・ また、担当コマ授業においては、具体的な事例の検討や、ロールプレイ（演習）を多く取り入れ、多職種連携による支援の実際について指導した（3回生には、次年度の実習に向けて、実習で活用できる保健医療の基礎知識や、アセスメント手法家庭訪問等に関する技術等についても指導した）

(2) 地域貢献活動

- ・ ライフワークとして高知県内で研究及び実践活動を続けている「精神障がいを持つ人の運動支援（健康体力の促進）」について、2024年度には、以下の取り組みを行った。
 - 1) 支援している団体の1つ「社会福祉法人ファミリーユ高知しごとサポートセンター ウェーブ」が助成金を得ることができた（公益信託高知新聞・高知放送：生命の基金）ため、今年度は助成金を活用して、健康関連体力や認知機能を高める運動プログラムの作成と効果検証を行った。
 - 2) 本学リカレント教育講座において、精神障がい者の運動コミュニティがメンタルヘルスに及ぼす効果や、運動支援が重要な社会的処方（処方）の1つであることを広く県民や県下関係機関等へ伝えた。
- ・ 現在委員等を務めている社会的活動については継続、自らの役割を果たしたい。
 - 1) 一般社団法人ライフコンシェル・ミモザ（成年後見活動）：弁護士や司法書士と協働し活動している。近年、裁判所や行政からの困難事例（外国人支援含む）の依頼も増えており、多職種連携による新たな地域支援システムの構築等も課題となっている。
 - 2) 高知県香南市チャレンジ塾学習支援：香南市教育委員会学校教育課事業において、中学三年生の学習支援（高校受験のための英語学習）を担当した。個別の学習レディネスやニーズに寄り添いながら丁寧な指導を行った。

加藤 由衣

Yui KATO

○研究活動

（1）論文・著書等

- ・加藤由衣、西梅幸治「地域共生社会実現に向けたジェネラル・ソーシャルワーク循環システムの分析ーヤングケアラー支援に焦点化してー」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第74号, 21-36, 2025年3月
- ・加藤由衣「省察的実践支援ツールの開発に向けた検討」『ソーシャルワーク支援研究』創刊号, 113-126, 2024年5月

（2）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（3）競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（基盤研究C）「省察ツールを活用したソーシャルワークにおける省察的実践家の熟達モデルの開発」（令和5年度～令和7年度），研究代表者

（4）その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2024）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2025』中央法規

○教育活動

（1）担当科目

- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
- ・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」
- ・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」
- ・「児童・家庭福祉論」
- ・「子育て支援論」
- ・「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- ・「ソーシャルワーク演習Ⅴ」
- ・「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

（2）学生支援

- ・3回生学年担当
- ・バスケットボール部顧問
- ・ハモ☆いけ顧問
- ・こどもみらい塾顧問

○委員会活動

（1）全学委員

- ・入試実施委員会
- ・広報担当

（2）学部委員

- ・学部キャリア支援委員会
- ・学部入試実施委員会
- ・学部広報担当
- ・学部入試広報委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部学生委員会

○社会的活動

（1）委員・学外講師等

- ・南国市教育委員会スクールソーシャルワーカー
- ・高知県教育委員会チーフスクールソーシャルワーカー
- ・高知県社会福祉士会理事
- ・高知県子どもの環境推進委員会委員
- ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会福祉調査の基礎」担当）
- ・高知県子ども・福祉政策部 児童福祉司任用前講習会「子ども家庭福祉における倫理的配慮」（2024/5/30）
- ・NPO 法人こうちサポートネットワーク 困難を抱える子どもたちを伴走する支援者の研修事業 講師「子どもとともに歩むために」（2024/10/27）
- ・高知県福祉研修センター事業 講師「相談援助技術基礎研修」（2024/11/7、12/18）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉従事者としての専門性」（2024/12/14）
- ・高知県隣保館連絡協議会 人権課題別研修Ⅲ 講師「子どもや家族への相談支援」（2024/12/19）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

科研費（基盤研究C）の研究において、省察的实践家としての熟達モデルの開発に向けて、継続した理論研究からソーシャルワーカーの熟達に関する先行研究の整理を行ったが、十分研究活動に時間を割くことができず研究が計画通り進まなかった。次年度は、省察的实践の熟達モデルの開発に向けた質的調査のデザイン・実施など、計画的に研究を進めていきたい。あわせて、エコシステム研究会で開発しているeスキャナーについて、熟達モデルの導入に向けたツールの機能改良も検討していきたい。

（2）教育活動について

講義科目では、グループワークや視聴覚教材も取り入れながら、学生同士の意見交換や実感をもった学びを重視して授業を展開した。また、学修支援システムの機能を活用して学生の考えや意見を全体で共有するなどICTを用いた授業や、国家試験を見据えて過去問を活用したふり返しなども取り入れた。一方で授業評価アンケート結果では、学生の目標達成や意欲面が他の項目よりややポイントが低かったため、今後の課題として、授業導入などで学生の意識の醸成を図る工夫を試みていきたい。

実習教育においては、学生同士で学び合い、考えを深めることができるように、グループでの相互添削や意見交換も取り入れつつ、個々の学生の状況を把握し個別指導を行うなど、集団と個別を意識した指導を展開した。次年度以降も、個々の学生の状況を丁寧に把握し、実習指導者とも連携しながら学生の指導・支援に取り組んでいきたい。

また3回生の学年担当として、個々の学生の履修相談や生活相談に応じながら学生が充実した学生生活を送ることができるよう支援した。また後期には学年の全学生と面談し、就職活動に向けた希望や不安を把握するとともに、今後の取り組みやスケジュールの確認を行った。次年度は、最終学年となるため、それぞれの学生の状況を丁寧に把握しながら、就職活動や国家試験に向けたきめ細やかな個別サポートに努めていきたい。

○研究活動

1. 論文

- ・田中眞希（2025）「障害者施設利用者が介護職員に求める役割と関係性」『介護福祉教育』57, 45-53.

2. 学会発表 なし

3. 競争資金の獲得

- ・科学研究費補助金 基盤研究(C)課題番号：23K02164
「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」（令和5年度～令和8年度）の研究代表者

○教育活動

- ・障害の理解Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護論（健康栄養学部）
- ・介護過程Ⅲ
- ・社会福祉専門演習Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅲ
- ・介護等体験事前指導（文化学部）
- ・社会福祉専門演習Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅳ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ

○委員会活動

- ・キャリア支援専門委員
- ・学部就職委員
- ・学部国試対策委員
- ・学部実習委員会（福祉実習支援室長）
- ・地域教育研究センター運営委員
- ・学部学生委員（4回生学年担当）
- ・学部キャリア支援委員（リカレント研究会）

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・高知県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員
- ・公益財団法人ひかり協会 高知県地域救済対策委員
- ・令和6年度高知県介護助手導入支援アドバイザー

2. 学外講師等

- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2024年3～4月※Moodle）
- ・学部リカレント研究会事業「介護コース卒業生を対象とした事例検討と情報交換会」（2024年9月19日、2025年3月7日）「卒業生との共同研究」（2025年2月10日）

教育研究活動報告書（田中 眞希）

- ケアワーク学習会（2024年4月29日、5月8日、7月1日、7月3日、12月5日）
- ・高知県キャリア教育推進事業高校生講座 高知商業高等学校：2024年8月22日、高知工業高等学校：2024年9月24日
 - ・夜學2024「持ち上げないで人を動かしてみよう」講師（2024年9月4日）
 - ・キッズ☆バリアフリーフェスティバル2024セミナー「SOTUGO(卒業後)のHappy Life～私たちの未来会議～」(2024年6月29日) ファシリテーター
 - ・令和6年度 介護助手導入スタートアップセミナー（2024年7月12日）講師 など

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

介護実習における新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなっているが、施設利用者は慎重な対応が必要となるため、実習先との連絡や先生方と情報共有をしながら、学生の教育効果を考えて取り組むことができた。今後も継続して取り組みたい。

授業においては、コロナ禍前同様にゲストスピーカーを招くなど、教育効果を考えた取り組みを実践できた。生活支援技術では、元俳優の方をお招きし「演じる行為」を活用した演習に取り組み、研究結果の活用について実践を通して考えることができ、学生からの好評を得た。今後も、ディスカッションやグループワークの活用など、学生が主体的に取り組むことができるような授業内容の工夫を継続して実践したい。

昨年からゼミを担当することになり、初めてゼミ生の卒論指導を行った。計画的に進めていくつもりであったが、未経験であることに加えて授業が多いため時間が取れず、心身に負担が生じ体調を崩してしまった。次年度以降はスケジュール調整や体調管理など、より慎重に取り組むたいと反省している。

介護コース卒業生を対象とした学部リカレント研究会は、今年度2回実施することができた。卒業生による博士課程での研究内容を発表するなど、元本学部教員の宮上先生や三好先生、多くの卒業生及び在生も参加した。卒業生のさまざまなキャリアについて共有する中で、継続した教育実践の必要性を感じた。

2. 研究活動について

学位論文の一部を加筆・修正し、論文として公表することができた。

昨年度より、高齢者施設における介護職員の「演じる行為」の様相を明らかにするための調査を行っている。利用者への調査は終了し、介護職及び他職種への調査を行っているが計画よりやや遅れているため、業務も含めて計画的にすすめていきたい。

3. 社会活動について

体調不良により、外部の仕事を急遽キャンセルする事態となった。担当者や参加者に多大なる迷惑をおかけし、猛省している。業務を計画的にすすめることはもちろんであるが、引き受ける際に前後の業務量なども考えなければならないと感じている。そのうえで、社会に貢献できるよう努めていきたい。

○研究活動

1. 論文
なし
2. 学会発表
 - ・辻真美・三好弥生「ホームヘルパーが受けるカスタマー・ハラスメント対策の課題」第30回日本介護福祉教育学会．抄録集 p 72. 2025年2月15日．
3. 学内外の競争的資金の獲得状況
 - ・なし
4. その他
 - ・上原千寿子・棚田裕二・辻真美・村上留美「特集Ⅲ パネルディスカッション 地域と結びつけた教育実践を3領域でどう展開するかー3領域からの問題提起ー」『介護福祉教育』29（1），No.56，pp18 - 32，2024年7月
 - ・第7回高知家ノーフティンングフォーラム「高知県ホームヘルパー連絡協議会キャリア教育推進事業高校生へのアプローチ」荒川泰士・川田麻衣子・筒井賀代・田辺建太・吉名絵美・下元源周・谷岡幹修・戸田理恵・福島寿道・辻真美，2025年2月1日

○教育活動

1. 担当科目
 - ・介護過程Ⅱ
 - ・介護の基本Ⅱ，Ⅲ
 - ・コミュニケーション技術
 - ・社会福祉専門演習Ⅰ～Ⅳ
 - ・介護総合演習Ⅰ～Ⅳ
 - ・介護実習Ⅰ～Ⅲ
 - ・生活支援技術Ⅴ
 - ・地域学実習Ⅰ
 - ・介護論（健康栄養学部）
2. クラブ活動
 - ・UOK手話サークル副顧問（立志社中）

○委員会活動

- ・災害担当窓口
- ・健康長寿研究センター運営委員
- ・国際委員
- ・総務予算委員会
- ・教務委員会
- ・介護人材確保事業部会
- ・災害対策推進ワーキングメンバー

○社会的活動

1. 委員等

- ・ 富士屋ヘルパーステーションベターライフ登録ヘルパー
- ・ 高知県ホームヘルパー連絡協議会理事
- ・ 一般社団法人高知の在宅ケアを守る会理事
- ・ 高知県介護福祉士会倫理委員会委員
- ・ 高知市斎場運営協議会委員
- ・ 介護労働安定センター高知支部（ヘルスカウンセラー、雇用管理コンサルタント、介護人材育成コンサルタント）
- ・ 日本認知症ケア学会代議員及び査読委員
- ・ 日本介護福祉学会理事及び査読委員
- ・ 特定非営利活動法人るーちえ第三者委員
- ・ 高知県公立学校ハラスメント等第三者委員会委員
- ・ 高知県手話言語条例検討委員会委員
- ・ 高知県福祉・介護人材確保推進協議会構成員（認証評価制度検討部会）
- ・ ふくしフェア 2024 実行委員
- ・ 平成福祉専門学校教育課程編成委員会委員

2. 学外講師等

- ・ 松山大学春日キスヨゼミ生勉強会・同窓会（2024年4月12日）
- ・ 高知大学「介護等体験事前指導」（2024年4月15日 オンライン）
- ・ 永国寺図書館 健康長寿文庫の展示「新聞棒体操」（2024年4月1～31日）
- ・ 永国寺キャンパス「介護等体験事前指導」（2024年5月20日）
- ・ 土佐女子高等学校「介護の基本Ⅱ」授業見学（2024年4月25日）
- ・ サポートカレッジ高知 介護職員初任者研修「医療との連携とリハビリテーション」（2024年5月3日）、「整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護」（2024年6月5日）、「移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護」（2024年6月19日）、「入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護」（2024年6月28日）、「介護過程の基礎的理解」（2024年7月15日）、「介護過程の基礎的理解」（2024年7月17日）「就業への備えと研修終了後における継続的な研修」（2024年7月24日）「修了評価」（2024年7月26日）
- ・ 高校生ボランティアサークル スマイルリング UOK 手話サークル活動との研修会及び交流会（2024年5月20日）
- ・ ケアハウスパールマリン 6月のみさとの座談会「熱中症と（筋力）貯筋」（2024年6月5日）
- ・ あったかふれあいセンター職員スタッフ研修「利用者の尊厳を守り適切なケアを行うための心構えについて」中央部・西部地区（2024年5月28日、6月10日）
- ・ あったかふれあいセンター職員スタッフフォローアップ研修「チームワークでつくる育てる より良いあったかふれあいセンターを目指して」（2025年1月28日）
- ・ 高知県ホームヘルパー連絡協議会 令和6年度高知県キャリア教育推進事業「高校生介護カフェ」太平洋学園高校訪問講座（2024年7月2日）, 高知農業高校「訪問介護員のシゴト～これからの高知県はどうなるのか～」（8月1日）, 春野高校（9月19日）, 室戸高校（10月7日）, 高知高等学院（11月18日）

教育研究活動報告書（辻 真美）

- ・土佐町介護予防普及啓発事業介護予防教室とんからりんの家「熱中症予防と貯筋の大切さを知ろう！～毎日の体操で今からコツコツ貯筋生活～」(7月22日)
- ・健康長寿体験型セミナーin南国市「熱中症予防と貯筋の大切さを知ろう！～毎日の体操で今からコツコツ貯金生活～」(2024年7月31日)
- ・一般社団法人高知の在宅ケアを守る会 第1・2回生活援助従事者研修「介護保険制度、医療の連携とリハビリテーション、障害者福祉制度およびその他制度」(2024年8月2日, 2025年1月11日)
- ・高知県福祉研修センター ケアテーマ別基本研修「レクリエーション」(2024年7月8日, 8月19日, 10月22日 オンライン併用)
- ・令和6年度高知県介護福祉士会倫理研修「介護現場における虐待防止と職業倫理について」講師補助(2024年9月17日)
- ・高知県(4校)・香川県(14校)高校訪問(2024年7月～9月)
- ・高知市三里地区サロン活動継続支援プロジェクト「将来の自分に投資！！今からコツコツ貯筋ライフ」(2024年7月9日 三里文化会館, 2024年9月10日 池キャンパス, 10月8日 船倉避難センター)
- ・三里地区第13回種崎作品展「舟倉津波避難センターいきいき百歳体操ポスター‘絆’」展示(2024年10月5, 6日)
- ・令和6年第2回高知県社会福祉法人経営青年会セミナー「学生から“就職したい”と思われる職場を目指して」(2024年8月21日)
- ・令和6年度高知県ホームヘルパー連絡協議会キャリア教育推進事業 カイゴのシゴト1日バスツアー「進路についての講義」(2024年8月23日)
- ・第39回本山町公開講座夜学(お昼の特別講座)「健康体操」(2024年8月27日)
- ・高知県キャリア教育推進事業訪問講座 土佐女子高校, 安芸高等学校, 春野高等学校(2024年10/11, 15, 21)
- ・高知県福祉・介護職員若手職員研修及び介護交流会「コミュニケーションについて考える」(2024年9月21日, 12月22日)
- ・第95回ひなたカフェミニ講座・参加「こころもからだも“秋バテ”にならない生活の工夫」(2024年10月26日)
- ・高知県キャリア教育推進事業 集合研修3「県大生と行く最新の福祉体験ツアーinふくしフェア2024」(2024年10月19日)
- ・仁淀川町あったかふれあいセンター「新聞棒体操教室」(2024年10月25日)
- ・介護労働講習(実務者研修含)介護現場実習代替授業「介護職が受けるハラスメント」(2024年11月15日)「サービス提供責任者とは」(11月19日)
- ・安芸シルバー短期大学公開講座「高齢者が元気になる介護予防」(2024年11月22日)
- ・香南市ふらっとカフェ「①脱水予防で冬もいきいき！(熱中症カレンダー配布)②学生によるミニレク」(2024年12月10日)
- ・高知市よしだサロン「①新聞棒体操 ②交流会やフリートーク」(2025年1月14日)
- ・高知県老施協事務職員研修会「介護施設におけるカスタマー・ハラスメントについて」(2025年1月17日)
- ・第11回秦ダイヤライフ福祉会「自立支援発表会」助言者(2025年1月21日)
- ・高知市立潮江中学校「障害のある人の人権を考える」(2025年2月6日)
- ・令和6年度日本介護福祉士養成施設協会中国四国ブロック研修会「意見交換会」ブレイクアウトルーム進行係(2025年2月11日)

教育研究活動報告書（辻 真美）

- ・令和6年度介護職現任研修「聴覚障害に関する研修」（2025年3月11日）
- ・令和6年度高知市老人クラブ連合 生き生き大学「将来の自分に投資！！今からコツコツ貯筋ライフ」（2025年3月28日）
- ・介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー，雇用コンサルタント，介護人材育成コンサルタント（6/4 土佐清風園，8/9 土佐市，9/9 梅の木コーポレーション，9/12 ア・バン・ウン有限会社，9/18 カインドネス，12/6 高知県介護の会，12/12 宿毛市社協・ケアマネ定例会合同，1/16 高知市居宅介護支援事業所協議会北部ブロック，1/20 南国市地域包括支援センター，1/26 高知県通所サービス事業所連絡協議会，2/18 ザ・ハート・クラブ，2/20 安芸市社会福祉協議会，3/3 はるの若菜荘，ジョイハッピー3/6，高知医療生活協同組合3/19 計15回）
- ・健康長寿研究センター熱中症予防チーム「熱中症予防カレンダー」の制作及び健康教育動画コンテンツを使用した熱中症予防啓発活動（7/22 土佐町とんからりんの家，8/29 奥福井公民館，9/13 宿毛市文教センター）
- ・富士屋ヘルパーステーションヘルパー定例会及び研修会（2024年7月，10月，11月，2月）
- ・K²ゼミ月1回開催（2024年4月～2025年3月：11回）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

乾先生の科目担当（3回生）と連携し，三里地区サロン活動への参加を授業の一環として取り入れた。住民の生活の場に触れることで，住民の生活への想いや個々の強みを知り，将来，そういった方々の視点に立って支援ができる専門職になることを目的とした。学生がファシリテーターと各グループの発表を行い，参加者同士の交流を活発にした。

昨年度留年した1名の学生の卒業が決まった。卒業に向けて，行貞先生とともに学習面と就職活動の両面からサポートを続けた。本人にとって意味のある1年であったと心から思うと同時に，学生の成長は，教員の想像をはるかに超えることを改めて教えてもらえた。

2. 研究活動について

今年度，先生方の励ましとご助言を頂き，日本介護福祉教育学会にて口頭発表を行った。K²ゼミに参加された先生方，宮上先生からも貴重なご助言を頂き，論文として執筆予定である。得られた研究成果は，現場の実践者にフィードバックできるよう，丁寧に分析を続けていくことを常に忘れず研究を進めていきたい。また，昨年度は叶わなかった科研へのアタックができた。結果は不採択ではあったが，再度内容を吟味し，次年度も意義ある研究として認めて頂けるよう挑戦していきたい。

3. 社会活動について

2024年12月26日に高知県手話言語条例が施行された。この条例制定に関わることができた一人として，今後も政策への動向を見守り，自己としてもできることを考え続けていきたい。また，専門職の方々を対象に「ハラスメント」や「リスクマネジメント」，「レクリエーション活動」，「コミュニケーション」等をテーマとした研修を行った。

各現場のニーズに沿った内容を目指していくことは，利用者や家族介護者の生活の豊かさや安心，居場所づくりへと繋がっていく。利用者及びケアラーの方々，エッセンシャルワーカーとして尊敬する現場の方々や卒業生に向けて，少しでも貢献につながる機会を創出できる社会活動を目指していきたいと考えている。

湯川 順子

Junko YUKAWA

○研究活動

1 論文・著書等

湯川順子 (2025.3) 「エイジング・イン・プレイスを実現する政策をどう進めるかーオランダの基礎自治体の取り組みからの示唆ー」『Humanismus』36, 63-71

2 学会発表

湯川順子 (2004.10) 「特別な配慮を必要とする子ども支援での学校教育と福祉との連携ー8050問題を回避する教育と福祉の連携をいかに進めるかー」日本LD学会

3 競争的資金の獲得

科学研究費助成事業（基盤研究(C)）「エイジング・イン・プレイス政策におけるインフォーマル・ケアの制度化に関する研究」2020年度～2022年度研究代表者：湯川順子 ※ 2024年度まで延長

○教育活動

（共通教養教育科目）

対人関係とメンタルヘルス

（学部専門教育科目）

地域福祉論 I

ケアマネジメント論

コミュニティソーシャルワーク

ソーシャルワーク実習指導 I・II・III

社会福祉専門演習 I・II

保健医療サービス

ケアマネジメント演習

ソーシャルワーク演習 I・III・IV・V

ソーシャルワーク実習 I・II・III

○委員会活動

（全学）

入試実施専門部会

健康管理センター運営会議

（学部）

学生委員会（26期生学年担当）

学部入試広報委員会

入試実施委員会

○社会的活動

貧困研究会運営委員（2025年1月～）

高知県社会福祉審議会委員（2025年1月～）

高知県立大学出前講座「高知県の地域の変化（地域福祉の視点から）」 講師

安芸市立安芸中学校、高知県立安芸中学校

学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 非常勤講師

担当科目「社会福祉の原理と政策」

教育研究活動報告書（湯川 順子）

令和6年度 介護支援専門員更新（専門）研修【研修課程Ⅰ】 講師

「対人個別援助技術（ソーシャルケースワーク）及び地域援助技術（コミュニティソーシャルワーク）」

○総合評価及び今後の課題

1 教育活動

ソーシャルワークの価値と知識・技術とを結びつけて身につけられるような授業を心がけた。また、実習・演習科目だけでなく講義科目においても、できるだけ双方向的な授業となるよう取り組んだ。毎回の授業時間内に振り返りシートを作成してもらい、学生の理解度を把握し、次回の授業でシートに書かれた内容をもとに追加の説明をしたり、質問に回答したりした。昨年度に続き、ゲストスピーカーを招聘することで、大学での学びと実際の支援のつながりを意識するきっかけとした。

今年度から、社会福祉士の国家試験受験科目を担当した。学ぶべき内容は多く、限られた時間で制度や政策の解説のようになりがちなところがあった。正確な知識の獲得と同時に、現在の制度・政策を歴史的な視点でとらえ、批判的に考察できるようなソーシャルワーカーを養成できるように授業構成を工夫していくことが課題である。

また、今年度から専門演習（ゼミ）を担当している。研究の出発点として、社会の出来事に目を向け自らの問題意識を「研究の問い」として育てていくこと、研究の目的に合った研究方法について考えることを中心に対話を重視し演習を進めた。今年度の取り組みを土台に次年度は卒業論文の指導に取り組みたい。

2 研究活動

コロナ禍で延長していた科研費による研究が最終年度となった。昨年度、オランダを訪問し近隣チームのソーシャルワーカーや地域看護師等へのインタビューデータをまとめ雑誌に投稿した。今年度は、2015年の福祉改革の影響について、英語論文のレビューし、成功モデルとして紹介されていたものにユトレヒトモデルがあった。そこで、オランダの中でもユトレヒト市を中心としたインタビュー及び資料収集を行うこととし、2月にオランダを訪問した。ユトレヒト市の政策担当官や市の委託先である民間福祉団体のソーシャルワーカー、その他関係者とのインタビューを通してネットワークをつくることができた。訪問による研究成果について、学会報告及びその後の論文執筆の準備中である。

また、国内の多職種連携をテーマとした調査データをもとに学会発表をした。さらに、学部内でも共同研究に参加し、介護、看護、社会福祉の視点から高齢者の在宅生活の支援をテーマとした研究会に参加した。次年度も継続し、研究成果を論文として投稿予定である。

3 社会的活動

中学校への出前講座や専門学校講師、介護支援専門員の研修など、福祉の知識の普及や専門職の専門性向上に取り組んだ。また、1月からは学会の運営委員や県の社会福祉審議会委員としても活動することになった。いずれも、自分自身の研究を基盤に、私に求められる役割とは何かを振り返りながら、社会的な活動に取り組んでいきたい。

○研究活動

1. 論文
なし
2. 著書
なし
3. 研究発表
なし
4. 競争的資金の獲得
なし

○教育活動

【担当科目】

- ・社会福祉史
- ・公的扶助論
- ・ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅴ
- ・ソーシャルワーク実習
- ・生活と社会福祉
- ・権利擁護論
- ・社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ
- ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・地域学実習Ⅰ

○委員会活動

1. 全学
共通教育専門委員会
2. 学部
情報委員会、国試対策支援委員会、研究倫理審査委員会、教務委員会

○社会的活動

[学外非常勤講師、研修会講師等]

- ・高知学園短期大学看護学科（「看護と福祉」、全8回）
- ・高知大学医学部看護学科（「保健医療福祉行政論」、全15回）

[委員等]

- ・高知県共同募金会 配分委員
- ・高知県共同募金会 評議員
- ・高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会 委員
- ・高知市民生委員推薦会 委員
- ・高知市行政改革推進委員会 委員

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

（1）授業について

昨年度来、「社会福祉史」「権利擁護論」「公的扶助論」「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目も対面授業に戻っている。Moodleの活用は継続し、配布資料を掲示し、また、授業回ごとにMoodleのフィードバック機能でリアクションペーパーを提出してもらい、学生個々の理解度を確認するばかりでなく、学生に対してコメントも行うなど双方向性に配慮し、また、授業内容や教授方法の改善にも役立てた。「社会福祉史」および「権利擁護論」は4回生担当科目であることから、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験への対応の観点から、Moodleの小テスト機能を利用して、国家試験の過去問に回答する小テストをすべての授業回ごとに実施し、知識の定着に配慮した。

演習科目については、事例を用いる、グループワークを取り入れるなど、学生の主体的学びを促すよう配慮した。学生個々の思いや到達度をつねに把握できるよう、継続して心掛けていきたい。

2. 研究活動について

町村部における福祉行政の実態に関する研究の一環として、鹿児島県大島郡大和村に2023年に設置された福祉事務所の設立の経緯や運営の現状に関するヒアリング調査を村長、村職員、民生委員、村社協職員に対しておこなった。村民に対するアンケート調査を実施し、今年度を実施したヒアリング調査の結果とあわせて成果物をまとめることが次年度の課題である。

3. 社会活動について

社会福祉学部教員として社会に貢献できる活動を行いたい。

○研究活動

（1）論文

- ・ Teruo Yokoi, Erina Oguma, Kayo Inagaki, Toshihide Fukuda (2024) 「Suicide in Stroke Survivors and Social Work」 『Health & Social Work』 4, 279-281.

（2）著書 なし

（3）発表 なし

（4）学内外の競争的資金の獲得状況 なし

○教育活動

（1）講義

- ・ ソーシャルワークの理論と方法（精神）
- ・ 精神保健福祉援助演習 I・II
- ・ 精神保健福祉援助実習指導 I・II
- ・ 精神保健福祉援助実習 I・II

（2）講義以外

- ・ 国家試験受験生への学習支援

○委員会活動

- ・ 実習委員会
- ・ 国試対策支援委員会
- ・ 入試委員会
- ・ 入試広報部会

○社会的活動

- ・ 日本精神保健福祉士協会「就労・雇用・産業保健委員会」委員
- ・ 高知県精神医療審査会 委員
- ・ 高知医療学院 非常勤講師（「社会福祉学」担当）
- ・ 土佐リハビリテーション学院 非常勤講師（「社会福祉学概論」担当）
- ・ 特定非営利活動法人 就労サポートセンターかみまち 理事
- ・ 高知県立大学同窓会しらさぎ会 理事
- ・ 大学見学対応（国際中学校・高等学校）
- ・ 令和6年度中国・四国地区ワーカー連絡会 研修講師
- ・ 令和6年度第5回虐待対応ケース会議 外部専門家として出席

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

今年度、精神・社会福祉コースの4回生は9名であり、ここ数年で一番人数が少なかった。2018年度から運用していた「不心得な行為に対する警告について（申し合わせ）」に対して、学生から授業アンケートを通じて意見が出され、教員間でも協議のうえ当該申し合わせの運用を中止するといった出来事があった。

次年度は25名が精神保健福祉援助実習を予定している。高知県内でも新規実習先（医療機関3カ所、保健所2カ所）を開拓し、県外の実習先を含め何とか25名分の配属先を確保することができた。

（2）研究活動について

今年度は大学院博士課程後期への進学に向け、問題意識の言語化、研究計画の検討、英文読解対策などを行った。入学試験に向け、多くの先生方から激励やご指導をいただいた。無事に試験に合格することができ、博士後期課程のスタートラインに立つこととなった。博士後期課程への進学に対してなかなか腰が上がらなかった私を応援し、背中を押してくださった先生方、心より感謝申し上げます。

また、横井輝夫先生に英語論文の投稿に係る指導を賜り、横井輝夫先生、大熊絵理菜先生、福田敏秀先生と共同で『Health & Social Work』に投稿する機会をいただいた。今後も継続的に英語論文の投稿を試みていきたい。

（3）社会活動について

高知県精神医療審査会の委員として、審査会に初めて出席した。患者の権利に価値を置いて発言しているつもりでも、委員間で意見交換していると自分の発言の根拠に患者の権利の位置づけが不十分だと実感することもあった。省察しつつ今後も委員としての役割を果たしていきたい。

また、就労・生活支援センターの方から令和6年度中国・四国地区ワーカー連絡会の研修講師の機会をいただいた。日本精神保健福祉士協会が昨年度作成した『ソーシャルワーカーのための就労支援ハンドブック』に私が携わっていたことから、お声をかけていただいた。一期一会を大切に、学生だけでなく現場にも貢献できるよう今後も精進していきたい。

（4）今後の課題

精神・社会福祉コースは30名定員のため、今後も引き続き新規実習先を開拓していく必要がある。

また、実習先をはじめ「精神保健福祉士を採用したい」というご相談を複数いただく。就職活動の時期が早くなり、配属実習をする頃には他の領域で内定をもらっている学生も少なくない。精神保健福祉士の仕事に魅力を感じてもらえるよう、教員間でも教育内容を協議し、試行錯誤していきたい。

○研究活動

1. 論文・著書
なし

2. 学会発表

1) 乾由美、川上理子「医療処置が必要な高齢者への訪問看護師による在宅移行支援」第29回日本在宅ケア学会学術集会 抄録集 p170. 2024年8月24日.

2) 樫谷裕太、乾由美、安藝千洋、濱田雅予「地域包括ケア病棟看護師による退院支援での意思決定を支える働きかけ」日本在宅看護学会第14回学術集会 2024年11月17日.

3. 競争的資金の獲得

・研究分担者

日本学術振興会科学研究費補助事業(基盤研究(C)令和7年度～令和9年度)
研究課題名:「記憶障害者の生活の不自由を克服するスマートフォンの実用化」
研究代表者: 河内康文

○教育活動

担当科目

- | | | |
|----------|---------|----------|
| ・介護総合演習Ⅰ | ・介護実習Ⅰ | ・介護過程Ⅳ |
| ・介護総合演習Ⅱ | ・介護実習Ⅱ | ・生活支援技術Ⅴ |
| ・介護総合演習Ⅲ | ・介護実習Ⅲ | ・医療的ケアⅠ |
| ・介護総合演習Ⅳ | ・介護の基本Ⅱ | ・医療的ケアⅡ |
| | ・介護の基本Ⅲ | |

○委員会活動

1. 全学

・地域共生学研究機構 健康長寿研究センター運営委員

2. 学部

- ・学部実習委員
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部教務委員
- ・学部入試広報委員
- ・学部介護人材確保委員

○社会的活動

1. 委員・学外講師等

・高知県心不全対策推進事業 心不全連携の会基幹病院勉強会アドバイザー
(2024年10月2日高知県・高知市病院企業団立高知医療センター)

教育研究活動報告書（乾 由美）

- ・高知市三里地域包括支援センター「いき百応援プロジェクト いきいき百歳体操×高知県立大学」（2023年7月6日 晴海公民館, 2023年11月10日, 12月7日, 2024年3月28日 船倉津波避難タワー）
- ・高知県キャリア教育推進事業訪問講座 土佐女子高等学校（2024年10月11日）
- ・一般社団法人高知の在宅ケアを守る会 生活支援従事者研修講師（2024年8月13日、2025年2月22日）
- ・高知病院附属看護学校 非常勤講師（担当：地域で暮らす人々を支える看護）
- ・高知県立幡多看護専門学校 非常勤講師（担当：地域・在宅看護方法論Ⅰ）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

自身の専門である看護学とは異なる学問領域で教員を始め、全てにおいて手探りの1年間であった。看護師と介護福祉士は、実務においては重なり合う部分も多いが、看護師の専門性と介護福祉士の専門性の違いは何かを再確認しつつ、これまでの臨床現場での介護福祉士との協働場面を振り返る事で介護福祉士の専門性を意識した授業計画の立案に注力した。また、介護教員講習会（2024年8月～2025年3月末）を受講したことで、全国各地の養成校の教員と意見交換が行えたことで、現状の介護福祉養成の全体像や課題を理解できたことで、その知識を授業にも反映することが出来たと考える。担当する科目「医療的ケアⅠ・Ⅱ」では、3、4回生を対象に授業を行ったが、この科目では、本来、医療従事者が実施する喀痰吸引や経管栄養についての知識・技術の習得が求められるため、ただ手順を覚えるだけでなく、利用者の平時との変化に気づき、医療職に繋ぐための根拠を理解できるよう学生が実習で出会った事例などを活用し能動的学習に努めた。

2. 研究活動について

共同研究の機会をいただき、研究分担者として科学研究費助成事業への申請プロセスを経験することで、大学教員として研究をする意義を考える機会となった。1件は採択され来年度、研究が開始されるため、共同研究の先生方に助言をいただきながら、自身の役割を遂行したいと考える。学会発表においては、在宅看護学領域の学術集会にて、訪問看護および地域包括ケア病棟での退院支援に関する発表の場をいただいた。引き続き、専門領域の研究を継続していきたい。

3. 社会活動について

高知県全体で取り組んでいる介護人材確保に関しては、高校生も参加する生活支援従事者研修にて講師を行うことで、高知県の介護現場における現状把握と課題理解が出来たと考える。引き続き、積極的に参画したい。健康長寿研究センターでの熱中症予防や高齢者の転倒予防を目的とした地域活動については、地域福祉に興味のある学生の参加も募り教員と共に地域住民と触れ合った。その経験を将来に繋げられるような学びを今後もサポートできればと考える。

○研究活動

- 論文
なし
- 著書・発表
なし
- 学内外の競争的資金の獲得状況
 - 研究分担者
日本学術振興会科学研究費補助事業(基盤研究(C)令和5年度～令和9年度)
研究課題名:「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」
研究代表者: 田中眞希

○教育活動

- 生活支援技術Ⅰ
- 生活支援技術Ⅱ
- 生活支援技術Ⅲ
- 介護総合演習Ⅰ
- 介護総合演習Ⅱ
- 介護総合演習Ⅲ
- 介護総合演習Ⅳ
- 介護実習Ⅰ
- 介護実習Ⅱ
- 介護実習Ⅲ
- 介護過程Ⅳ
- 介護技術
- 社会福祉入門演習
- 社会福祉基礎演習

○委員会活動

- 実習委員会
- 国試対策委員会
- 学生委員会
- 入試実施専門部会
- 学部入試広報委員会
- 介護人材確保事業

○社会的活動

- 委員
 - 令和6年度生産性向上委員会
 - 令和6年度若い世代の人材確保・育成部会
 - 令和6年度子どもの福祉職理解促進ワーキング会
- 外部講師等
 - 高知県キャリア推進事業高校生講座 室戸高校:2024年9月2日,高知県立岡豊高校:2024年9月25日

教育研究活動報告書（上杉 麻理）

- ・高知県キャリア推進事業集合研修 4
- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師(2025年3月～4月※Moodle)

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度は、学年担当として1回生を受け持った。授業だけでなく、履修相談や個人の特性に合わせた対応が必要となり、その難しさを感じた。また昨年度主に関わっていた介護コースの学生数とは比べ物にならないほど多くの学生と一度に関わらなければならず、個々の特徴をどのようにとらえるのか、全体としてどのようなサポートを行うべきなのか、手探りで過ごしてきた1年のように思う。一方、同じく学年担当である福間先生を始め、社会福祉学部の他の先生方より学生に関する情報提供も多くいただき、情報共有の重要性を実感した。今後、自身も授業等で関わった学生についてや学年担当として得た情報について、より意識して他の先生方との共有や相談を行い、学生支援に繋げていきたい。

授業内容については、1年目に行った内容についてブラッシュアップしながら行うことができた。また、介護コースの学生については個々の特性や学年毎の雰囲気も把握できており、授業の組み立て方に活かすことができたように思う。今後も、他の先生方の授業も参考にしつつ、学生の学びを促すことができる授業を行っていきたい。

また、今年度は昨年度以上に実習指導を行う機会が多くあった。指導の方法や時期について、いつ、どのように伝えることが1番理解しやすいのか、学生の成長に繋がるのかを考えながら行った。学生は実習を通して多くのことを学んでおり、本人が思う以上に成長していることを感じた。

2. 研究活動について

科研費の申請を1件行った。今年度も採択には至らなかったが、昨年より内容が深まり、ブラッシュアップすることができたように感じる。一方、授業や学生対応に追われ普段の研究活動が疎かになってしまう部分もあったため、今後は日々の中で研究を行う時間を意識してとるようにしていきたい。

共同研究者として携わっている田中眞希先生の研究については、インタビュー調査が進んでいる。研究を行わなければ聞くことができなかつた他者の話を聞くことは面白く、興味深かった。今後の分析でどのような結果が出るのかも楽しみである。

3. 社会活動について

高知県キャリア推進事業高校生講座では、昨年度と同様に岡豊高校と室戸高校に訪問した。主な目的は高校生に対する福祉教育ではあるものの、それと同時に在学生在が福祉や学部について自分の言葉で高校生に伝えたり、福祉の現場で働く卒業生の話を聞くことができる機会があることは大きな学びに繋がると感じた。

また、今年度は集合研修4も担当した。前半は「意外と知らない高知家のふくし」というテーマで、在在学生による地域学実習の紹介等を行った。後半は「認知症についてみんなで考えよう」というテーマで、外部講師による認知症サポーター養成講座の開催と関係機関の紹介を行った。外部講師3名のうち2名は本学部の卒業生であり、キャリア形成についてもイメージしやすかつたのではないかと感じる。

大熊 絵理菜

Erina OGUMA

○研究活動

（1）論文

- ・大熊絵理菜, 西内章 (2024) 「スーパービジョンにおけるスーパーバイザーの苦悩に関する一考察」『医療社会事業』63, pp. 73-79.
- ・Teruo Yokoi, Erina Oguma, Kayo Inagaki, Toshihide Fukuda (2024) 「Suicide in Stroke Survivors and Social Work」『Health & Social Work』4, pp. 279-281.

（2）学会発表

- ・藤井しのぶ・竹村貴深（高知医療センター）・大熊絵理菜・福田敏秀（新潟医療福祉大学）(2024) 「ソーシャルワーカーキャリアラダーに取り組んで」日本医療社会事業学会（第44回・J:COM ホルトホール大分：2024年6月）

○教育活動

- ・ソーシャルワーク演習Ⅲ
- ・ソーシャルワーク演習Ⅰ
- ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
- ・ソーシャルワーク実習Ⅰ
- ・ソーシャルワーク実習Ⅲ
- ・医療ソーシャルワーク論
- ・チームアプローチ
- ・ソーシャルワーク演習Ⅳ
- ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
- ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
- ・ソーシャルワーク実習Ⅱ
- ・保健医療サービス
- ・医療福祉論

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部総務・予算委員会
- ・学部広報支援委員会
- ・学部情報処理委員会
- ・高知県立大学・高知医療センター包括連携事業

○社会的活動

1. 学外講師等

- ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「ソーシャルワークの理論と方法」担当）
- ・令和6年度 追手前ゼミナール「人生を支えるソーシャルワーカーの仕事」講師〔2024年6月22日（土）高知県立追手前高等学校〕
- ・令和6年度 主任ケアマネ研修「対人援助者監督指導」講師〔2024年9月26日（木）～9月28日（土）高知県立ふくし交流プラザ〕
- ・令和6年度 夜學「医療ソーシャルワーカーの仕事」講師〔2024年10月4日（金）本山町立プラチナセンター〕

教育研究活動報告書（大熊 絵理菜）

- ・令和6年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会月例会「医療分野における実習報告と実習プログラムの考え方」講師〔2025年2月1日（土）高知県立大学社会福祉学部棟〕
- ・令和6年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会生涯研修部会「グループスーパービジョンにおける事例検討」講師〔2025年2月9日（日）近森病院管理棟〕

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度は学生の実習における学びの質をあげるために、実習までに学生と関係性を築くこと、実習中は実習指導者と学生と細やかなコミュニケーションをとることを大切にしました。また実習後は、実習指導者にむけて実習報告会を開催した。学生の実習での学びは、学生の進路選択へ大きく影響するため、実習前、実習中、実習後の関りを大切にしていきたい。学生との関わりの中で、自分自身の一感情で指導や助言をしてしまったこともあった。そのため自分自身の感情をどのように整理したりコントロールすればよいかについて、常に考えながら仕事していた。自分自身の学生への関わる姿は、学生へ影響すると考えているため、スーパービジョンを意識した指導や助言ができる教育を行いたいと考えている。

2. 研究活動について

今年度は他職種へのスーパービジョン研修を通して、学びが深まったと考えている。今年度も一人の人間として生活すること、専門職として働くことを支えるスーパービジョンを現場で実践できるように研究を進めていきたい。またスーパービジョンにおけるパラレルプロセスについて深めるとともに、スーパーバイザーを支えられるようなスーパービジョン体制を構築できるような研究を行いたい。そのためにも、引き続きスーパーバイザーへのコンサルテーションの実施やそこで学んだことを研究活動へ繋げていきたいと考えている。

3. 社会活動について

今年度は、高知県医療ソーシャルワーカー協会の理事となり、理事会への出席や部会（月例会）の運営を行い、研修会を企画、実施した。運営を行う中で、協会内の各部会は部員数も少ないため、運営業務の分担が必要と考えたため、次年度に実施したい。

次年度は、協会内の部会の編成や、災害に関する部会を立ち上げるため、一協会員として、災害に関する研修の企画や、高知災害福祉支援ネットワーク会議への参加等に取り組んでいきたい。

玉利 麻紀

Maki TAMARI

○研究活動

競争的資金の獲得

- 1) 科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号：19K02191、2019-2024年度）、研究課題名：社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索～無関心という壁を越えるために～（研究代表者：玉利 麻紀）
- 2) 科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号：24K05421、2024-2027年度）、研究課題名：障害当事者と支援者との共同創造がもたらす「新しい共生のあり方」に関する探索的研究（研究代表者：玉利 麻紀）
- 3) 令和6年度 文部科学省「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」、研究課題：「リカバリーカレッジ高知による新たな共生の場づくり」、実施主体：高知県立大学（研究期間 2024年5月-2025年3月）、研究代表者：玉利 麻紀

論文(共著)

玉利麻紀・佐々木旭美「にんげん図書館の展開からみえてきた景色 ～北海道砂川市『いそのさんち』の活動を中心に～」(2024年3月) Humanismus, 第34号, pp.74-81. (研究報告、査読なし)

学会発表(国内)

- 1) 玉利麻紀、藤代知美、深瀬雪子「地域で共同創造の芽を育む～リカバリーカレッジ高知の取り組み～(実践報告/調査研究)」(2024年9月28日) 第59回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会、第23回日本精神保健福祉士学会学術集会、分科会Ⅱ-F-3, 抄録集117頁.
- 2) 宮本彰、玉利麻紀、楠瀬幸、岡村花恵、中澤佑香「未来の専門職を共に育てる ～高知県精神保健福祉士協会と高知県立大学の交流企画～(実践報告)」(2024年9月28日) 第59回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会、第23回日本精神保健福祉士学会学術集会、分科会Ⅰ-F-4, 抄録集69頁.

その他(報告書)

令和6年度 文部科学省「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」、 「リカバリーカレッジ高知による新たな共生の場づくり」成果報告書

○教育活動

1) 担当科目(10科目)

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉の原理、精神障害リハビリテーション論、心理学理論と心理的支援、国際福祉論、対人関係とメンタルヘルス(前期・永国寺キャンパス、夜間主)、対人関係とメンタルヘルス(後期・池キャンパス)、地域学実習Ⅱ

2) 学生支援

国家試験の受験生への学習支援、最終年度の学生の卒業までの就学支援、メンタルヘルス上の課題を抱える学生への個別支援、等を実施。

委員会活動等

学部FD委員、学部教務委員、学部総務・予算委員、学部実習委員、学部国試対策委員

社会的活動

1) 委員等

教育研究活動報告書（玉利 麻紀）

- 2018（平成 31）年度～ 高知県精神保健福祉協会 研修委員
- 2018（平成 31）年度～ 介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー
- 2021（令和 3）年度～ 高知県精神医療審査会 審査委員
- 2021（令和 3）年度～ 高知県精神保健福祉士協会 研修部会委員
- 2022（令和 4）年度～ 社会福祉法人土佐あけぼの会 第三者委員
- 2022（令和 4）年～2023 年 県立野市総合公園再整備方針検討委員
- 2024（令和 6）年～ 高知県障害者支援施設等に準ずる者の認定等に関する要領学識委員
- 2024（令和 6）年 11 月 25 日～2026（令和 8）年 11 月 24 日 高知県重度心身障害児・者医療費助成事業に係る関係者会議副会長

2) 研修講師、講演等

- ・ 令和 6 年度高知県社会福祉協議会福祉職員基礎講座、講師「心理学の基礎」（2024 年 11 月 13 日、オンライン開催）
- ・ こうち難病相談支援センター「難病ピアサポーターフォローアップ研修」講師（2024 年 12 月 21 日、場所：高知市文化プラザかるぽーと」9 階 第 3 学習室）

3) リカバリーカレッジ高知

- ・ 連携協議会（3 回実施：4/20、8/4、2/2） 会場：池キャンパス
- ・ 初夏講座（6/22、7/6、7/13、7/20） 会場：永国寺キャンパス
- ・ リカバリーカレッジ高知 in 香美市 「メンタルヘルス特別講座“元気のたね”を見つけよう」（9/21）会場：香美市立図書館かみーる（共催：香美市立図書館かみーる、一社りぐらっぷ高知、後援：香美市、香美市社会福祉協議会、高知県、協力：医療法人同仁会同仁病院、KHJ 高知県やいろ鳥の会）
- ・ 晩秋講座（10/26、10/27、11/9、11/10） 会場：永国寺キャンパス

4) 高知県立大学リ・デザインプロジェクト「永国寺はらっぱフェス」

2025 年度の定期開催に向けて企画し、2025 年 2 月 8 日にプレ実施した。

5) コーディネート

- ・ 2024 年度ソーシャルワーカーデイ権利擁護研修（高知県社会福祉士会、高知県精神保健福祉士協会、高知県医療ソーシャルワーカー協会 3 団体合同企画）「権利擁護とアドボカシー ～精神医療と人権～」（2024 年 10 月 19 日）会場：オーテピア会議室
- ・ 社会福祉学部 FD 研修にて、愛媛大学 荻田教授、御荘診療所 長野医師を招聘した。

○総合評価及び今後の課題

今年度は、ありがたいことに、研究面において、科研費基盤研究（C）が新たに採択された他、文科省から 3 年連続でモデル事業を受託できた。文科省モデル事業では、永国寺キャンパスを拠点に、精神疾患等、障害を抱える人と専門職との共同創造を試みており、今年度は高知県香美市立図書館にて、地域の関係機関や福祉保健所等と協働してメンタルヘルス特別企画を実施し、新モデルを作ることができた。尚、2025 年度も文科省モデル事業へ採択されており、継続して高知県の共生社会への寄与を目指して運営を行っていく。

さらに、10 月から地域共生学研究機構と兼任し、学際性を持つチームメンバーと共に、メンタルヘルスへの理解を核とした「永国寺はらっぱフェス」を企画し、2 月のプレ実施に至った。ゼロから一を生み出す大変さはあるものの、創造性溢れるメンバーとの仕事に大変刺激を受けている。次年度の定期開催に向けて、関係機関との協働体制作りや研究化に取り組んでいきたい。

教育面では、学生の学習機会を保障するだけでなく、学生との共同創造を意識しながら、学生の主体性を伸ばすよう心がけた。学生は非常に熱心に取り組んでくれ、その成果は国家試験の合格率 100%にも表れているように思う。また、コロナ禍で始まった高知県精神保健福祉士協会との共同企画も 4 年目となった。これを機に、これまでの 3 年間の成果を協会員と共にまとめ、学会で共同発表を行った。このような形で地域に貢献することができると、大学の教員としての新たな方策や役割に気づいた一年でもあった。

○研究活動

（1）研究会参加

- ・エコシステム研究会への参加

（2）論文

- ・河野高志、山本大輔「ソーシャルワーク実践支援ツール『e スキャナー』によるアセスメントの意義—介護予防デイサービス事業所での調査を通して—」『ソーシャルワーク支援研究』創刊号 エコシステム研究会 2024年5月 pp. 21-32

（3）学会発表

- ・山本大輔「高齢男性をサービス利用につなげる新たな支援過程の検討—ソーシャルワークの仲介機能の再考を通じて—」日本社会福祉学会第72回秋季大会 2024年10月

○教育活動

担当科目

- ・高齢者福祉論Ⅰ
- ・ソーシャルワーク演習Ⅴ
- ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
- ・ソーシャルワーク実習Ⅰ
- ・事例研究法

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部教務委員会
- ・学部入試実施委員会

○社会的活動

- ・高知県社会福祉協議会 福祉職員基礎講座「介護保険サービス」 講師

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

2024年10月、本学に採用となり教員生活がスタートした。前職で経験した大学非常勤講師の経験を活かして授業をおこなったものの、学生の顔と名前もなかなか一致せず手探りの状態が続いた。また実習関連の科目では、他の先生方と連携しながらクラス別の授業を担当した。しかし実際には先生方に助けていただくことの連続であった。今後は学生一人ひとりが安心して実習に臨むことができるよう支援したい。そのためには学生の意向をふまえた実習先の調整や事前学習の的確な指導、実習先である施設・機関の指導者との関係性構築などが課題であると考えている。

教育研究活動報告書（山本 大輔）

また助教として実習支援室の業務を担うこととなった。その業務は電話対応や書類作成、帳票類の管理など多岐にわたっていることを理解した。現状ではまだ独力でこれらの業務をすすめていくことは難しいが、支援室担当の先生方のサポートを得ながら早く仕事を覚えられるよう努めたい。そのうえで実習や国家試験に臨む学生たちに対し、相談その他目に見えない部分のサポートを含めて支援室業務に貢献したいと考えている。

年度途中からの入職ということもあり十分に役割を果たせたとは言い難い状況であった。また次年度は新たな担当科目や学部内の業務も担うことになっており、気の抜けない状況が続く。今後も学生たちとのコミュニケーションを重視し満足度の高い授業を提供できるよう努めたい。また委員会や支援室業務は他の先生方との連携がとくに欠かせない。ここでもいわゆる「報連相」を大切に丁寧な仕事のすすめ方を心がけることが今後の課題であると考えている。

2. 研究活動について

これまで、高齢男性のソーシャルワーク支援をテーマに研究をすすめ、そのなかで実施した様々な調査結果を論文や学会発表などで報告してきた。しかしまだまだ理論の精緻化という点では課題が多く、今後も研究を継続していきたい。この点についてこの度大学教員となり、これまでとは異なる充実した環境で研究をすすめられることに感謝している。この環境を無駄にすることのないように毎日の積み重ねを大切にしたい。具体的には、これまで研究結果を論文投稿につなげることや、新たな研究計画を立案しそこでの調査の実施をおこないたい。

また次年度は科学研究費補助事業にも積極的に応募する予定である。そこでは単に資金を獲得することだけにとどまらず、応募書類の作成を通じて自分自身の研究目的や研究方法の明確化などにもつなげていきたいと考えている。

3. 委員会活動について

今年度は学部の実習、国試対策、教務、入試の各委員を経験した。本学に着任して大学における委員会活動も非常に多岐にわたっていることや、それらが学生たちへの教育にも密接に関わっていることを理解した。私の場合、担当したどの委員会の業務についても独力ですすめることはまだ困難であり、先生方の協力をいただきながら早く仕事を覚えていきたいと考えている。

4. 社会的活動について

2024年度は年度途中での採用・着任であったため、学内の業務をこなすのに精一杯であった。そのなかで唯一の対外的活動として高知県社会福祉協議会の福祉職員基礎講座の講師を経験した。もともと私は本学に入職する前は大学の非常勤講師とともに、民間の職業訓練校で社会人を対象とした介護職員初任者研修や介護福祉士実務者研修の講師をしていた。そこでは社会人の方の学び直しや再就職のお手伝いをしていたのである。今回の福祉職員基礎講座でも社会人経験を経て介護の仕事に就いた方々の学びの支援という点で非常に意義のある仕事を経験することができたと思っている。今後も本学学生への教育・支援にとどまらず、地域の幅広い年代の方々に役立つ研修を提供していきたいと考えている。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動年度報告書)

2024年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー					
教育研究審議会		長澤 紀美子 (学部長)	杉原 俊二 (研究科長)	西内 章 (教務部長)			
大学運営会議		長澤 紀美子 (学部長)	杉原 俊二 (研究科長)	西内 章 (教務部長)			
総務危機管理本部		長澤 紀美子 (学部長)	杉原 俊二 (研究科長)	西内 章 (教務部長)			
(全学)研究倫理審査委員会		杉原 俊二 (研究科長)					
研究不正防止委員会		長澤 紀美子 (学部長)	杉原 俊二 (研究科長)				
<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 100%; width: 100%;"></div>	人事関係検討会	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	西内 章	西梅 幸治	矢吹 知之
		横井 輝夫					
	自己点検・評価運営委員会	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	西内 章	西梅 幸治	矢吹 知之
		横井 輝夫					
	倫理審査委員会	田中 きよむ	福間 隆康	行貞 伸二			
	実習委員会	矢吹 知之 (実習委員長)	河内 康文 (介護福祉士コース 主担当)	福間 隆康 (社会福祉士コース 主担当)	田中 眞希 (室長)	湯川 順子	大井 美紀 (精神保健福祉士 コース主担当)
		稲垣 佳代	乾 由美	上杉 麻理 (介護 助教リーダー)	大熊 絵理菜 (社福 助教リーダー)	玉利 麻紀	
	総務・予算委員会	辻 真美	長澤 紀美子	西内 章	大熊 絵理菜 (助教リーダー)	玉利 麻紀	
国試対策支援委員会	行貞 伸二	加藤 由衣	田中 眞希	稲垣 佳代	乾 由美	上杉 麻理 (助教リーダー)	
	大熊 絵理菜	玉利 麻紀					
教務委員会		西梅 幸治	横井 輝夫	辻 真美	行貞 伸二	乾 由美	玉利 麻紀
共通教育専門委員会		行貞 伸二					
学生委員会		遠山 真世	田中 きよむ	矢吹 知之	福間 隆康	加藤 由衣	田中 眞希
		湯川 順子	上杉 麻理				
キャリア支援専門委員会		田中 眞希					
就職委員会		遠山 真世	田中 眞希				
FD専門部会		矢吹 知之	玉利 麻紀				
入学試験委員会		長澤 紀美子	杉原 俊二	西内 章			
	入試実施専門部会	河内 康文	加藤 由衣	湯川 順子	稲垣 佳代 (学部入試委員/助教リーダー)	上杉 麻理 (学部入試委員)	
	共通テスト実施専門部会	加藤 由衣					
入試監査委員会		田中 きよむ	横井 輝夫				
図書		福間 隆康					
紀要専門部会		横井 輝夫					
地域教育研究センター運営会議		田中 眞希					
健康長寿研究センター運営会議		辻 真美	大井 美紀	乾 由美			
国際交流センター運営会議		田中 きよむ	辻 真美				
健康管理センター運営会議		湯川 順子					
人権委員会		横井 輝夫					
広報担当(学部入試広報委員会含む)		加藤 由衣	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	西内 章	西梅 幸治
		矢吹 知之	横井 輝夫	河内 康文	遠山 真世	福間 隆康	田中 眞希
		辻 真美	行貞 伸二	湯川 順子	大井 美紀	稲垣 佳代	乾 由美
		上杉 麻理	大熊 絵理菜 (助教リーダー)	玉利 麻紀	片岡 妙子		
介護人材確保事業部会		辻 真美	矢吹 知之	福間 隆康	乾 由美	上杉 麻理	
学部情報委員会		行貞 伸二	大熊 絵理菜				
社会的処方プロジェクト		西梅 幸治	矢吹 知之				
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会		長澤 紀美子					
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会		長澤 紀美子	大熊 絵理菜				
防災対応窓口		行貞 伸二	西内 章	辻 真美			
大学院(M)	講義	杉原 俊二 (講義+主査)	田中 きよむ (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	西内 章 (講義+主査)	西梅 幸治 (講義+主査)	矢吹 知之 (講義+主査)
		横井 輝夫 (講義+主査)	河内 康文 (講義+主査)	遠山 真世 (講義+主査)	福間 隆康 (講義+主査)		
	委員会	杉原 俊二 (研究科長)	田中 きよむ (図書)	西梅 幸治 (監査)	矢吹 知之 (入試)	河内 康文 (学務)	
大学院(D)	講義	杉原 俊二 (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	西内 章 (講義+主査)	矢吹 知之 (講義+副査)	横井 輝夫 (講義+主査)	
	委員会	杉原 俊二 (研究科長)	長澤 紀美子 (学務 教務)	横井 輝夫 (入試)			

: 全学委員
 : 学部委員長

教 務 委 員 会

西 梅 幸 治

2024年度の教務委員会は、横井輝夫教授、辻真美講師、行貞伸二講師、玉利麻紀助教、乾由美助教、山本大輔助教（10月より）、西梅の6名体制であった。1年間の活動内容や実績の概要は、次のとおりである。

1. 教務委員会の開催

今年度も継続して、通常の審議・協議事項である非常勤講師の依頼や予算申請などの教務関連業務を適切に行うように努めた。活動計画に基づき、特に4年目に入った新カリキュラムの課題整理と改善を図った。

2. ディプロマ・ポリシーの検討

学部教務委員会時に検討を行った。ディプロマ・ポリシーについては、教授会でも報告のうえ、継続して運用していくことになった。

3. 新カリキュラムに伴う改善

2021年度から社会福祉士、精神保健福祉士の新カリキュラムが始まり、今年度は4年目を迎えた。新カリキュラムの課題を継続して整理してきたが、今年度は、社会福祉士養成課程における実習指導Ⅰ・Ⅱの内容と受講生のクラス分けについて、授業評価の意見や新カリキュラムに沿って修正を行った。精神保健福祉士養成課程における演習・実習指導・実習については、シラバスを一部修正しながら授業展開の調整を図った。また新カリキュラムの構成に応じて、履修しやすい時間割に微調整した。

4. 次年度科目担当者の検討

2024年度は、新たに2名の教員が着任した（4月から1名、10月から1名）。教員の退職等も鑑み、2024年度の担当科目、教員の教育歴と研究領域、そして担当科目数と担当時間を考慮して、2025年度の担当科目について人事検討委員会を含め検討した。

5. 卒業研究論文発表会の開催

2024年度も、卒業研究論文構想発表会、卒業研究論文中間発表会、卒業研究論文発表会を対面で実施した。構想発表会の資料、中間と最終の発表会のスケジュール、報告者へのコメントについては、ペーパーレス化を図り、Moodle上で確認・回答できるように準備した。

3回生の卒業研究論文の「仮テーマ」は、2025年2月に集約した。なお、卒業研究論文指導教員の学部外教員の希望の有無を確認したが、学部外教員を希望する学生はいなかった。また『卒業研究論文執筆のてびき』は、2025年3月に作成し、Moodle上に掲載した。

6. 2024年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、2回生へ配布した。2日間のゼミ見学のうえ、17名の教員が担当する2025年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」のゼミは、1ゼミあたり上限6名の学生数を目安として調整した。新任の教員については、希望があった場合、Zoomなどによって対応を図ることにした。

7. 学習到達度調査の実施

昨年度に引き続き今年度も2月にUOKLMS (Moodle) 上で卒業予定者(24期生)を対象に「卒業時学位授与方針(DP)達成度調査(学習到達度調査)」を実施した。この調査の項目は、ディプロマ・ポリシーで示す「知識・理解」「汎用性・実践的スキル」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の4つのカテゴリから構成され、この4つのカテゴリはそれぞれ8項目、計32項目からなる。各項目は「全く理解できなかった」、「あまり理解できなかった」、「概ね理解できた」、「理解できた」の4件法で回答を求めるものである。今回の調査への回答では、「概ね理解できた」、「理解できた」を合わせると98.8%であり、昨年度と同様に良好な結果であった。あわせて実施した「4年間の学修満足度」に関しては、全8項目に「そう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「そう思う」の4件法で回答を求めた。その結果、「ややそう思う」「そう思う」を合わせると97.1%であった。

8. ルーブリック (Rubric)

ルーブリックとは、学習到達度を示す基準であり、学生が何を学習するかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す評価基準からなる。今年度は、昨年度に引き続き社会福祉専門演習Ⅳ(卒業研究)について、数年かけて検証したルーブリックの実質的運用を図った。今後も、内容面などの課題がないかを検討していきたい。

9. 今後の課題

2025年度は、新カリキュラムの運用が5年目に入る。毎年、新カリキュラムの課題を整理し、対応してきたが、次年度以降も同様に、的確な課題整理と迅速な対応を心がけたい。最後に、前任の横井輝夫教授に多くのご助言をいただきながら、1年間を円滑に終えることができた。心よりお礼申し上げます。

入 試 委 員 会

河 内 康 文

1 令和7年度入学者選抜の概況

区 分	募集人員 A	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		追加合格者数		入学手続者数		辞退者数	入学者数		志願倍率	合格倍率	
		全体	(県内)		全体	(県内)	B/A	C/D									
推薦	県内	20	30	30	30	20	20			20	20	0	20	20	1.5	1.5	
	全国	10	19	0	19	0	0			10	0	0	10	0	1.9	1.9	
	計	30	49	30	49	30	30	20		30	20	0	30	20	1.6	1.6	
一般	前期	35	79	20	70	18	43	12	0	0	43	12	0	43	12	2.3	1.6
	後期	5	68	20	29	7	6	1	0	0	5	0	0	5	0	13.6	4.8
	計	40	147	40	99	25	49	13	0	0	48	12	0	48	12	3.7	2.0
社会人	若干名	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0			
私費外国人留学生	若干名	1		0		0				0		0	0				
合計	70	197	70	148	55	79	33	0	0	78	32	0	78	32	2.8	1.9	

- ・一般選抜（前期日程）の課題図書：やなせたかし（2024）『新装版 わたしが正義について語るなら』ポプラ新書

2 令和7年度入学者選抜の特徴

（1）志願倍率、合格倍率、入学手続者の県内率

令和7年度は、志願倍率・合格倍率・入学手続者の県内率ともに前年度から減少した（下表参照）。

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
志願倍率	2.8	3.7	2.6	4.7	4.9	4.7
合格倍率	1.9	2.4	1.6	3.0	3.2	2.6
入学手続者の県内率 (%)	41.0	44.7	37.5	40.0	39.2	37.2

（2）志願者数の動向

学校推薦型選抜の志願者数は49人で、前年度（41人）と比較して増加した（前年比119.5%）。内訳を見ると、県内枠の志願者数は30人で、前年度（26人）と比べて115.4%、全国枠は19人で、前年度（15人）と比べて126.7%となった。

一方、一般選抜前期日程の志願者数は79人で、前年度（139人）と比較して減少した（前年比56.8%）。後期日程も68人と、前年度（75人）から減少（前年比90.7%）した。

これらの減少の背景には、5月から7月にかけて、介護人材確保事業部会の教員が中心となって県内外の高等学校を訪問したものの、志願行動が学校推薦型選抜に集中した可能性があると考えられる。そのため、今後は一般選抜を見据えた訪問時期や広報の在り方についても検討する必要がある。

（3）社会人選抜

社会人選抜については、出願がなかった。

（4）私費外国人留学生選抜

私費外国人留学生選抜については、1名の出願があったが、受験者はいなかった。

3 課題と今後の対応

本学部の総志願者数は197人で、前年度（262人）と比較して減少した（前年比75.2%）。この背景には、18歳人口の減少が影響していると考えられる。今後は、より多くの受験生に本学部への関心を持ってもらえるよう、県内外の高等学校を対象とした入試広報活動を引き続き強化していく必要がある。

具体的には、入試広報委員会と連携し、高等学校における進路指導の実態や大学志願動向に関する情報を収集する。また、広報委員会、介護人材確保事業部会、地域教育研究センターと協力し、公開講座、学部出前授業、キャンパス訪問の受け入れなど、多面的な広報活動を展開することで、志願者の増加を図る。

あわせて、学校推薦型選抜および一般選抜における高等学校別の志願者数の動向を把握し、今後の入学者選抜の改善に活用する。さらに、入学後の成績データの分析を継続的に行い、将来的な入学者選抜制度の設計に資する基礎資料として活用していく。

学 生 委 員 会

遠 山 真 世

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の向上、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

今年度も継続して、学生の精神面や身体面の不調、友人間の悩み、より複雑化した生活上の悩みに対して、学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課と連携し、解決に取り組んだ。特に、様々な理由で欠席が続いた学生には、学年担当教員が連絡を頻回にとり、場合によっては学生宅に足を運ぶなど、学業の継続に向けた働きかけを行った。

2. 経済的支援に関する対応

ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について、繰り返し説明した。さらに、一時金給付の情報も付け加えた。教務・学生支援課と連携しながら、情報提供及び手続き支援を行った。

3. 事故・事件への対応

交通事故を含めた事故があとを絶たない。事故等に対して学年担当教員を中心に迅速に対応した。交通安全講習会は、例年通り実施された。

4. 学生の活動への支援

コロナ対策を実施しない通常の紅葉祭（大学祭）が開催された。1000人超の参加者があるなど盛況のなか、無事に日程を終えることができた。

4月には1回生のバスハイクが開催され、新入生どうし、教員との交流が深められた。学年間交流会、4回生を送る会などは実施されなかったが、4回生（卒業生）に贈る記念品の作成において学年担当教員がバックアップを行った。

5. 配慮を要する学生への対応

教務・学生支援課や健康管理センターとの連携のもと、本人や保護者等との面談をとおして対象学生のニーズの把握、教員との意見交換を通じ、各学年の学生から修学支援申請が提出され、これにもとづく配慮を行った。半期ごとにこれまでの状況について確認を行い、支援内容を再検討した。

○ 今 後 の 課 題

コロナ対策は一定程度落ち着いたものの、今後も引き続き、学年担当教員やゼミ担当教員を中心に日ごろの関わりをとおして学生の状況を把握し、精神面、経済面、友人、家庭等の課題などに配慮しつつ、それを乗り越え学業を継続していけるよう、健康管理センターや教務・学生支援課等との連携のもと迅速で適切な対応を継続する。

修学支援が必要な学生が増加しており、個々の状況に応じたきめ細やかな配慮が必要となっている。今後も学部教員間・各部署との情報共有を円滑に行うとともに、教務・学生支援課および健康管理センターの職員配置の充実を求めている。

実 習 委 員 会

矢 吹 知 之

1. 実習委員会の活動の特徴

実習委員会は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の資格取得に向けた実習及び実習関連科目を円滑に実施するために、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的に設置されている。本学部の3つの福祉士養成課程に係るコースの運営及び教育は、コース主担当（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員が行っている。

2. 配属実習の実施状況

本年度の配属実習では、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されたことにより概ね計画通り配属予定分の実習を終えることができた。詳細は下記参照。

（1）ソーシャルワーク実習Ⅰ及びソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ

施設・事業所	ソーシャルワーク実習Ⅰ（27名）	ソーシャルワーク実習Ⅱ/Ⅲ（72名）
社会福祉協議会	3	23
病院（精神科除く）	5	11
児童相談所	8	2
児童養護施設	2	6
児童自立支援施設	2	2
特別養護老人ホーム	1	
地域包括支援センター	1	4
障害児通所支援事業所	2	1
多機能型事業所	2	
療育福祉センター	1	
福祉事務所		5
児童家庭支援センター		1
教育相談センター		1
養護老人ホーム		1
多機能型事業所		7
障害福祉サービス事業所		1
就労継続支援B型事業所		1
放課後等デイサービス		1

（2）精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

施設・事業所	精神保健福祉援助実習Ⅰ（9名）	精神保健福祉援助実習Ⅱ（9名）
精神科病院	5	
精神科病床を有する一般病院等	3	
精神科診療所	1	
精神保健福祉センター		2
保健所		1
相談支援事業所		1
就労継続支援A型事業所		1
就労継続支援B型事業所		4

委員会活動年度報告書（実習委員会）

（2）介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

施設・事業所	介護実習Ⅰ (12名)	介護実習Ⅱ (15名)	介護実習Ⅲ (10名)
介護老人福祉施設	9	8	4
介護老人保健施設			2
特定入居者生活介護	3	3	
小規模多機能居宅介護	3		
生活介護	6		
通所介護	3		
通所リハビリテーション	6		
障害者支援施設	6	4	
療養介護/医療型障害児入所施設			4

※介護実習Ⅰは、3つの事業所を巡るため、内訳は延べ人数となる。

3. 実習連絡協議会

本学部の実習教育や配属実習について、実習指導者と本学実習担当教員が率直な意見交換を行い、適切な実習指導体制を整えるために実習連絡協議会を開催している。今年度も、コースごとに実習連絡協議会を企画し、ソーシャルワーク実習連絡協議会、精神保健福祉援助実習連絡協議会、介護実習連絡協議会を開催した。

2024年6月3日（月）ソーシャルワーク実習連絡協議会（Zoom開催）

参加施設数：42施設・事業所・機関 実習指導者数：65名

2024年7月5日（金）介護福祉実習連絡協議会（対面開催）

参加施設：13施設 参加実習指導者：22名

2024年3月4日（火）精神保健福祉援助実習連絡協議会（対面開催）

参加施設：9病院, 2事業所, 3行政機関 参加実習指導者：16名

4. 成果と課題

（1）旧カリキュラムと新カリキュラムへの対応

2021年度入学生から、社会福祉士養成カリキュラムと精神保健福祉士養成カリキュラムは新カリキュラムを適用し、2024年度で完成年度となった。例年4月入学当初に実施している介護・社会福祉コースの選択、1回生後期に社会福祉コースのソーシャルワーク実習Ⅰの配属先の提出、及び精神・社会福祉コースの選択希望を実施した。昨年度より、精神・社会福祉コースの選択後に変更希望が生じることから、精神・社会福祉コースの選択時期を2か月程度遅くして実施した。検討課題は次の2点である。①ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、総合的かつ包括的な支援を学ぶことが求められており、介護・社会福祉コース、精神・社会福祉コースとの実習先の調整が一部必要であること、②精神・社会福祉コースの選択に必要としているGPA基準の設定についてである。これらの点については、今後、継続的に協議していく必要がある。

（2）実習予算及び実習事務の確認・情報共有

本年度も、実習予算及び実習事務の確認・情報共有を行うために、実習支援室長と福祉実習支援室を担当する助教、実習委員長の三者による連絡会議を月1回実施した。日常的なコース運営については、各コースに一任しているが、特に実習費の使途と実習事務の進捗状況については、月1回の連絡会議で確認・情報共有を行っている。

就 職 委 員 会

遠 山 真 世

1 社会福祉学部の就職活動支援

(1) 就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2024年4月）

(2) 教務・学生支援課との連携

教務・学生支援課と連携し、求人情報や就職支援情報の提供、メールやWeb会議ツールZOOMを活用した就職相談を行った。合格・内定後は速やかに学年担当教員に連絡するとともに、その都度、教務・学生支援課に「進路決定届」（必須）および「就職活動報告書」（任意）を提出するよう促し、随時情報の共有を図った。

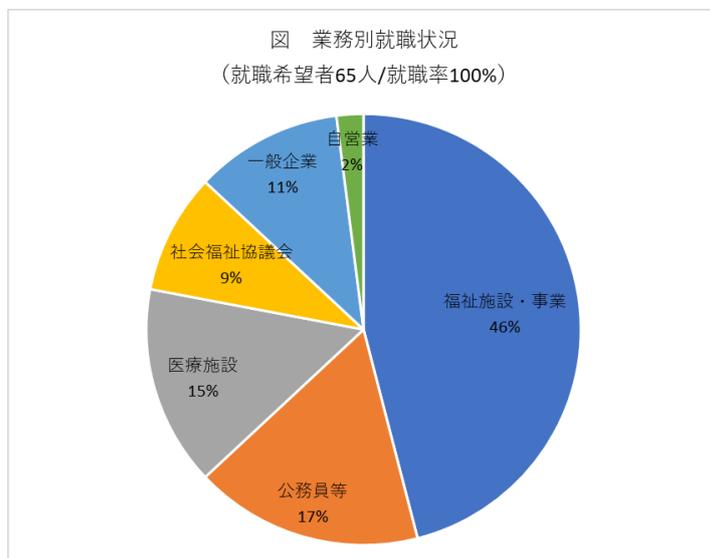
(3) 個別相談等

教務・学生支援課と連携しながら、ゼミ担当教員、学年担当教員が中心となり、4回生の進路相談、応募書類の添削、模擬面接等を行った。

(4) 情報提供

教務・学生支援課または社会福祉学部宛に届いた求人一覧を整理し、希望地域・業態が一致する学生に情報を提供した。また、ファイリングした求人票を学年担当の研究室で管理したり、SNSも活用したりしながら、求人の情報提供を行った。さらには、社会福祉学部棟のラウンジスペース卓上にパンフレット等の設置や「ふくし就職フェア」（各県福祉人材センター主催）に関する情報を随時掲示した。

2 進路状況



3 今後の課題

就職活動そのものに対する動機づけが低い学生に向けての個別的支援が重要である。また、就職活動に加えて取り組まれる国試対策や実習、卒業論文執筆の優先順位の付け方やスケジュール管理に対する学生の意識を高めていく必要がある。さらには、これらのバランスを見据えた学生生活ができるよう継続的、かつ丁寧なサポートが必要であると考え。

広 報 委 員 会

加 藤 由 衣

○本年度の取り組み

広報委員会は、河内准教授、遠山准教授、稲垣助教、大熊助教、加藤が担当した。

（1）「大学案内」の編集・製作

2025年版「大学案内」の社会福祉学部の紹介では、昨年のコンセプト、デザインのまま大幅な修正は行わず、一部内容を更新した。

（2）オープンキャンパス

7月27日（土）に対面開催でオープンキャンパスを実施した。事前予約制とし、午前・午後の2部制であった。申し込み者数は109名であった（県内から69名、県外から40名）。また、同伴者89名の参加があった。

（3）キャンパス訪問への対応

6月6日（木）嶺北高等学校（担当：河内）、6月26日（水）中村中学校（担当：遠山）、
8月1日（木）北宇和高等学校（担当：大熊）、9月27日（金）宿毛高等学校（担当：加藤）、
10月1日（火）高知国際中学校・高等学校（担当：稲垣）、
12月10日（火）高知丸の内高等学校（担当：大熊）

（4）高校生のための公開講座/出前講座

12月16日（月）大方高等学校（担当：乾）
2月20日（木）池田高等学校（担当：大熊）

（5）学部パンフレットの改訂

従来のパンフレットからデザインや内容・構成を変更し、新たな学部パンフレットを作成した。

（6）学部ホームページの刷新

- ・デザインやメニュー、内容を変更し、新たな学部ホームページを作成した。
- ・高校生のための公開講座やリカレント講座など、社会福祉学部主催のイベントや教員・学生の地域活動等について掲載した。
- ・学部教員の教育・研究活動「学部報」を掲載した。

○今後の課題

2024年度は、社会福祉学部の魅力がより伝わり、利用者が活用しやすいように学部ホームページと学部パンフレットを新たに作成した。今後はこれらのツールの改善点を検討するとともに、SNSを活用した広報活動も視野に入れながら、高校生に有益な情報提供をしていきたい。あわせて、個別ニーズに応じた訪問講座等の開催も継続・拡充し、アナログとデジタルを融合した広報活動を展開していきたい。

介護人材確保部会

辻 真美

1. 集合型研修 社会福祉の事を分かりやすく学ぶ

- 開催日時：2024年7月27日（土曜日）13:30～15:00
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス ○対象：高校生及び保護者
- 参加者数：総数206名（内高校生102名）
- 外部講師：吉良 正輝 氏
- 教職員：社会福祉学部：教授 長澤 紀美子、教授 西内 章、教授 横井 輝夫、教授 田中 きよむ、教授 杉原 俊二、教授 矢吹 知之、教授 西梅 幸治、准教授 河内 康文、准教授 福間 隆康、准教授 遠山 真世、講師 行貞 伸二、講師 田中 眞希、講師 加藤 由衣、講師 湯川 順子、講師 辻 真美、助教 稲垣 佳代、助教 上杉 麻理、助教 大熊 絵理菜、助教 玉利 麻紀、助教 乾 由美
事務局 谷 映美、森田 吹生（計22名）
- 学生スタッフ：1回生；12名、3回生；6名、4回生；9名

（1）事業概要

高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施した。大学教員や学生に加えて、当事者であり大学院修了生でもある外部講師の方が、大学教員とトークセッション形式で自身の体験や本学での学び、研究成果を発表し、参加者が専門職の役割やキャリアについて学ぶ機会を提供した。

（2）活動成果

アンケート集計結果から参加者の91%がプログラムに満足されており、自由記述では福祉・介護のイメージが良くなったという意見が見られた。アンケート結果の自由記述を一部紹介する。

- ・介護はとても大変でネガティブなイメージもあったが、やりがいがあり、とても良いものだということを知ることができた。
- ・実際に体験もさせていただき、将来の自分を思い浮かべながら体験することができた。

（3）活動評価

本事業のプログラムは9年目を迎え、本年度も「オープンキャンパス2024」と同時開催で実施し、県外の地域からの参加もあった。昨年度に続き対面で開催したことで、大学の雰囲気や教員と学生の関係などを直接感じられる機会となり、進路選択に貢献できたと考えられる。アンケート集計結果から、学内の雰囲気や授業内容などを知ることができ、福祉に対するイメージがより広く、深く変化したり、福祉や本学部への関心が高まったことがうかがえた。これらの結果から、プログラム構成の全体において満足度が高かったと考える。

（４）当日の様子



教員・先輩との談話室



介護体験コーナー

２．集合型研修 カフェで学ぶ福祉と認知症

- 開催日時：2024年9月7日（土曜日） 13：00～16：00
- 開催場所：高知県立大学永国寺キャンパス
- 対象：高校生及び保護者
- 参加者数：総数17名（内高校生8名）
- 教職員：社会福祉学部：教授 矢吹 知之、講師 辻 真美
事務局 谷 映美、森田 吹生（計4名）
- 学生スタッフ：3回生；2名、4回生；6名

（１）事業概要

高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施した。今回の集合研修は、本学永国寺キャンパス食堂で毎月開催しているオランダスタイルの本格的な認知症カフェ「土曜の永国寺カフェ」（企画：土曜の永国寺カフェ実行委員会）を会場に行われた。プログラムでは、参加者同士の交流を深めるカフェタイムに加え、中山しのぶ氏（一般社団法人セカンド・ストーリー代表）によるミニ講和が行われた。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは、回答者のほぼ全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護の勉強をしたくなった」ことが示された。

一部、自由記述を紹介する。

- ・中山しのぶさんのお話がとても興味深かったです。
- ・福祉についての知識が増えて、とてもよい体験になりました。
- ・当事者の声を聞くことにより、認知症観がガラッと変わりました。知らないより、知ることが大事！！それを周囲に伝えることも大事！！認知症の方も、そうでない方もみんながともに楽しく生きる社会になれるといいなと思いました。
- ・カフェタイムでは、始めは様子を伺ってばかりで進んでお話できなかったけれど、話していくうちにおばあちゃん（参加された住民の方）の表情が明るくなって嬉しかった。

（３）活動評価

参加者した高校生や保護者は、リラックスした雰囲気の中、他の参加者とともにカフ

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

ェタイムやミニ講座の時間を楽しんだり、講師の話に真剣に耳を傾けたりしていた。そういった参加者の様子やアンケート結果からは、永国寺カフェを会場とした今回の企画が、高校生にとって貴重な経験となり、福祉・介護への関心を深める機会となったことが伺える。ボランティアとして参加した大学生も、参加者の誘導や飲み物の提供、会話のサポートなどを行い、参加者間のコミュニケーションを円滑にする役割をさりげなく果たし、終始和やかな雰囲気の中かでイベントは終了した。

（４）当日の様子



ミニ講和



カフェタイム

3. 集合型研修 県大生と行く最新の福祉体験ツアー

- 開催日時：2024年10月19日（土曜日） 13：00～16：30
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス及びイオンモール高知
- 対象：高校生及び保護者
- 参加者数：総数35名（内高校生20名）
- 教職員：社会福祉学部；講師 辻 真美、看護学部 助教 塩見 理香
事務局 三本 雅宣、由比 由紀、森田 吹生（計5名）
- 学生スタッフ：2回生；6名、4回生；3名、手話体験ブース；7名、手話本の展示；1名

（１）事業概要

高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施した。

今回の集合研修は、福祉と福祉の仕事に触れることができる体験型イベント「ふくしフェア 2024」への参加ツアーを企画した。案内役の学生スタッフや大学教職員とともに、最新の福祉を見て、触れて、体験するなかで、人がよりよく生きることやともに支え合うことの大切さを学ぶ機会とした。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは、回答者の80%が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護の勉強をしたくなった」「福祉・介護の仕事をしたくなった」ことが示された。

一部、自由記述を紹介する。

- ・様々な体験ができ、とてもよい経験になりました。
- ・とろみ体験でコーヒー牛乳を飲んでみたときに、すごく美味しくて、よく考えられているんだなと思いました。普段は体験できないことをたくさんできて、すごくいい講

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

座でした。

- ・大学生とのお話も楽しくて、福祉についてより学んできたいと思いました！

（３）活動評価

アンケート結果から分かるように、高校生が体験を通して学ぶことで、より分かりやすく印象に残る体験となり、福祉・介護への興味・関心が高まったのではないかと考える。世間全般にある福祉・介護のマイナスイメージを払拭するためには、このような最新の福祉機器に直接見て、触れる体験型の講座が効果的であると感じる。今後もさまざまな関係機関と連携し、体験を通じた学びの場を提供したい。

（４）当日の様子



手話体験



自助具体験

4. 集合型研修 新高校生2・3年生のための入門講座

○開催日時：2025年3月25日（火曜日） 13:00～15:00

※希望者に講座終了後学内見学ツアーを実施(15:00～16:10)

○開催場所：高知県立大学池キャンパス

参加者にオンデマンド配信；公開期間 2025年3月31日～4月18日（金）

○対象：高校生及び保護者・高校教員

○参加者数：総数33名（内高校生15名）

○外部講師：高知市保健福祉部 基幹型地域包括支援センター；谷脇 志穂氏（社会福祉士）、高知市三里地域包括支援センター；北村 知世氏（社会福祉士）、高知市社会福祉協議会 地域協働課；芦辺 百音氏（社会福祉士）

○教職員：社会福祉学部；助教 上杉 麻理、助教 乾 由美、講師 辻 真美
事務局 福重 彩音、森田 吹生、千頭 小百合（計6名）

○学生スタッフ：1回生；5名、2回生；2名

（１）事業概要

高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施する。今回のイベントでは、大学教員や学生が大学での学びの実際を報告することに加え、現場で活躍する専門職が仕事内容や役割について語ってもらい、さらに、福祉・介護の学問的な入門講義を行う予定である。これらをとおして、参加者に福祉・介護への理解を深めていただく機会を提供する。

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

（2）活動成果

アンケート集計の結果、受講後の福祉・介護のイメージについて、回答者の 89% が良いイメージになったことが分かった。また、受講後の福祉・介護への興味についても同様に 89% が興味を持ったと回答された。

一部、自由記述を紹介する。

- ・福祉や介護という職についてや、認知症についてたくさんの学びを得ることができたいい経験でした。
- ・今まで詳しく考えたことはなかったけれど、今回をきっかけに、もし身近で認知症の方がいたら、どうしたらいいのかなどをしっかりと考えようと思いました。
- ・自分にも日常生活の中で出来ること、気を付けることがあるのだと気付いて良かったです。
- ・「認知症サポーター」だからといって、何か特別にするわけでもなく、見守りながら助け合っていくということを知れて良かったです。

（3）活動評価

（2）で得られた結果は、福祉介護へのイメージが不透明な高校 1・2 年生を対象としたことが影響していると考えられる。このことから、介護人材の確保や介護・福祉に関するイメージ向上には、早期からの継続的なアプローチが重要といえる。本講座は、高知市が実施している認知症サポーター養成講座および高知市社会福祉協議会と連携して実施した。今後も、多機関と連携を図りながら取り組みを続けていく必要がある。

（4）当日の様子



オープニング「10年先の未来を学ぼう」



認知症サポーター養成講座



学内見学ツアー（ゼミ室）



学内見学ツアー（図書館）

5. 訪問型研修（計 12 校：12 回）

○開催日時及び場所：

- ① 2024 年 8 月 22 日（木）13：30～15：00 高知商業高校
- ② 2024 年 9 月 2 日（月）11：50～14：15 室戸高校
- ③ 2024 年 9 月 5 日（木）16：10～17：00 高知国際高校
- ④ 2024 年 9 月 13 日（金）16：40～17：30 高知小津高校
- ⑤ 2024 年 9 月 20 日（金）16：10～17：10 中村高校
- ⑥ 2024 年 9 月 24 日（火）15：50～17：30 高知工業高校
- ⑦ 2024 年 9 月 25 日（水）16：00～17：30 岡豊高校
- ⑧ 2024 年 9 月 25 日（水）16：00～17：30 高知丸の内高校
- ⑨ 2024 年 10 月 11 日（金）15：45～16：45 土佐女子高校
- ⑩ 2024 年 10 月 15 日（火）16：00～17：20 春野高校
- ⑪ 2024 年 10 月 18 日（金）13：00～14：00 須崎総合高校
- ⑫ 2024 年 10 月 21 日（月）16：00～17：15 安芸高校

○対象：高校生及び高校教員

○参加者数：総数 292 名（内高校生 196 名）

○外部講師：長崎 早津紀氏（社会福祉法人 いの町社会福祉協議会）（①）、青木 遥香氏（ジェイエムシー株式会社 保険事業部）（①）、福留 知子氏（株式会社 高知銀行）（①）、竹内 奈津美氏（社会福祉法人 室戸市社会福祉協議会）（②）、福元 萌氏（高知県中央児童相談所）（④）、猪野 愛三氏（社会福祉法人 本山町社会福祉協議会）（⑦）、岡 未来氏（社会福祉法人 仁淀川長社会福祉協議会）（⑩）、山脇 華月氏（介護老人福祉施設グランボヌール 介護職員）（⑫）（計 8 人）

○教職員：社会福祉学部 教授 西内 章（⑤⑪）、准教授 河内 康文（④）、講師 辻 真美（⑨⑩⑫）、講師 行貞 伸二（③⑧）、講師 田中 眞希（①⑥）助教 乾 由美（⑨）、助教 上杉 麻理（②⑦）事務局森田 吹生（③）（計 8 名）

○学生スタッフ：1 回生；18 名、2 回生；4 名、4 回生；8 名

（1）事業の概要

福祉・介護への理解を深めることを目的に、高知県内の高等学校を訪問し、大学教員が理論、外部講師（卒業生）が福祉・介護現場での仕事内容や福祉・介護職の役割、学生スタッフが大学での学びの実際を説明した。また、開催にあたっては、各高校の担当者と事前に打ち合わせを行い、高校側の目的や意図、参加者の福祉・介護への興味・関心などの状況に合わせて内容を工夫して行った。

（2）活動成果

アンケート集計結果はおおむね好評であった。以下、自由記述を一部紹介する。

- ・（福祉・介護に対し）間違ったイメージを持っていたけど、今回の講座で福祉・介護のことについてしっかりと知識を身につけることができ良かった。
- ・今までは何となく、高齢者の介護や、サポートをする仕事なんだろうな（という）程度の認識しかなかったけど、今回のお話を聞いて社会福祉の仕事とはどんなものか詳しく知ることができ、もっと福祉について知りたいと思った。
- ・講座を受ける前は、福祉・介護のイメージが膨らまなかったけれど受けてみて、楽し

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

そうや勉強してみたいなど思った。

- ・今までに何度か、福祉の仕事のやりがいやすばらしさをお聞きしていたので、良いイメージだったのですが、今回、改めてお話を聞いて、人の幸せを考えるすばらしい仕事だと分かりました。
- ・色々な人の人生を支える仕事というところにすごい魅力を感じました」などの回答が得られた。

（3）活動評価

本事業は今年度で9年目を迎え、県内の高校からのニーズも高まり、新規も含めて12校で実施することとなった。高校側の担当者の方々には、事業の目的や意図をより深く理解いただき、事前の打ち合わせから高校の状況や要望を丁寧に伝えていただいた。そのおかげで、各高校のニーズに応じた内容や時間帯などを工夫して実施できた。前述のアンケート結果からも、本事業は福祉・介護への理解を深め、ポジティブなイメージを醸成し、さらには仕事への魅力や価値を伝える上で有効であったと考える。

また、学生スタッフや外部講師にとっても、母校を先輩・後輩、教職員とともに訪問することは、自己を振り返るよい機会となっているようだ。事業の継続とともに、参加者の満足度をさらに高められる内容となるよう努めたい。

（4）当日の様子



高校生と卒業生とのグループワーク



学生による講義



高校生の意見を引き出している様子



学生と教員による講義

キャリア支援委員会

田中 眞希

キャリア支援委員会が本年度に行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

①キャリア支援に係るガイダンスの実施

全学委員会の学部別キャリア教育・就職ガイダンス開催経費を用いて、学年担当教員の協力のもと、以下のガイダンスを開催した。開催された講座は、どの講座も好評であった。

開催日	テーマ	講師	対象
12月5日	卒業生によるキャリア支援講座	芦辺百音（高知市社会福祉協議会） 川上夏歩（高知大学医学部附属病院）	1回生
3月19日	4回生からの就職活動報告会	本学部4回生5名	2・3回生
10月23日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	立仙維吹（高知市社会福祉協議会）	4回生

②リカレント研究会事業の取り組み

学部運営費による事業として、以下の研究会を実施した。継続的に実施されている研究会もあり、参加者には有益な機会となっている。

事業名 開催日（回数）	担当教員	内容と成果	参加人数
ソーシャルワーク学習会 7月20日（土） 2月1日（土） （計2回）	西梅 幸治	本学習会では例年、ゼミ生を中心とした卒業生に対して、個別スーパービジョンや、キャリアに関する相談などを実施している。今年度は、実習指導者として実習の受け入れ予定の卒業生の相談に応じたり、新採職員同志で悩みややりがいを共有した。日々の業務やソーシャルワークの意義を見出す機会になり、かつこれまでの業務の振り返りにもつながった。	延べ 5人
介護コース 9月19日（木） 3月7日（金） （計2回）	河内 康文 矢吹 知之 辻 真美 乾 由美 上杉 麻理 田中 眞希	介護コース卒業生は、介護施設だけでなく医療機関、行政、社会福祉協議会等に就職している。職種や立場を超えて職務上抱えている事例や課題を検討することは、対応方法についてのヒントが得られるとともに福祉職としてのアイデンティティの強化やキャリアの見通しを持つ機会となることを目指している。第1回目は公文氏を講師に招き「成年後見の今、若いみなさんに期待すること」をテーマに講演	延べ 52人

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

		<p>いただき、その後意見交換を行った。</p> <p>第2回目は、卒業生・修了生である李氏を講師に招き「認知症の食行動障害に対する介護方法」をテーマに講演いただき、その後意見交換会を行った。2回とも卒業生はもちろん在學生、退職した教員も参加し、それぞれの交流の場となった。卒業生は子ども連れで参加する人も増え、にぎやかで楽しい雰囲気の中で実施できている。</p>	
<p>卒業生との共同研究（テーマ：ハンセン病療養所入所者の語りを通じた学生の認識変容）</p> <p>2月10日（月）</p>	<p>河内 康文 加藤 由衣 上杉 麻理 田中 眞希</p>	<p>卒業生が在籍する国立療養所大島青松園への見学を通して（昨年度）、今年度から共同研究を実施するに至った。本研究では、ハンセン病療養所入所者の語り難き経験に基づく語りに触れた学生が、差別や偏見を問い直し、主体的な姿勢を形成する過程を探求することを目指す。電話やメールでの連絡と合わせて、一度訪問して打ち合わせを実施した。その際、在學生7名も同行し、施設見学と合わせて入所者の講話時間を設けた。在學生にとっては、入所者だけでなく卒業生との交流の場となった。</p>	<p>延べ 10人</p>
<p>ケアワーク学習会</p> <p>4月29日（月） 5月8日（水） 7月1日（月） 7月3日（水） 12月5日（木） （計5回）</p>	<p>河内 康文 田中 眞希</p>	<p>介護コース11期生までが卒業し、相談内容も多様化してきた。そのため今年度より卒業生の希望するテーマ別に（内容によって在學生を含む）スーパービジョンやキャリアに関する相談などを実施した。今年度は子育てとの両立やそれに伴う転職など、共通の悩みや職種・職場による違いを共有するなど、各自のキャリアを振り返り、再構築する機会となった。</p>	<p>延べ 14人</p>

③学内就職説明会等の開催

本年度も、本学部卒業生が在籍する社会福祉法人や医療法人より、新卒採用に向けて卒業生を通じた説明会開催の要請があった。また学生・就職支援課を通じて、教員への新卒採用に関する説明希望などがあり、就職委員や関係する教員の協力を得て対応した。

さらに、学生のうちに実習とは違う立場で福祉現場に関わることにより、福祉サービスや事業所の理解を求めるアルバイトの募集があった。また、卒業生が経験を経て人事担当者となり、後輩に向けて話をする機会を設定した。

開催日	来学機関・施設	募集職種	参加教員
4月18日	医療機関	MSW	大熊
5月8日	障害福祉サービス事業所	支援員	遠山、西梅
5月10日	障害福祉サービス事業所	介護福祉士	田中眞希

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

6月5日	医療機関	アルバイト	田中眞希
6月6日	障害福祉サービス事業所	支援員	遠山
6月6日	高齢者施設	社会福祉士・介護福祉士	田中眞希
6月21日	医療機関	MSW	大熊
6月28日	医療機関・高齢者施設	社会福祉士・介護福祉士	田中眞希
7月11日	児童福祉サービス事業所	社会福祉士	田中眞希
7月9日	高齢者施設	社会福祉士・介護福祉士	田中眞希
9月19日	高齢者施設	社会福祉士・介護福祉士	田中眞希
11月8日	高齢者施設	社会福祉士・介護福祉士	田中眞希
11月11日	医療機関	社会福祉士	田中眞希
1月15日	児童福祉サービス事業所	社会福祉士	田中眞希

2. 今後の課題

本委員会に関する今後の課題としては、年度当初に活動計画を確認し、それに基づいた取り組みの具体的で継続的な推進がある。特に、卒業生を中心とするリカレント研究会事業や、卒業生・在学生・教員をつなぐ交流の場の提供により、学術的・実践的な力量を継続的に培うことが課題である。これまで継続して行ってきたため、卒業生と共同研究を行うに至ったことは評価できる。一方で、活動全体を確認し計画的に行えなかったことは反省している。次年度は、今年度の活動を契機としたさらなる取り組みを活動計画に基づいて、加速していきたい。

健康長寿研究センター

辻 真美

○活動内容

1. 健康長寿研究センター運営委員会

全学での運営委員会として、令和6年4月から令和7年3月において対面とメール審議による会議を12回実施した。

2. 健康長寿研究センター運営委員

久保田聡美（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（辻・乾）・企画調整課健康長寿研究センター担当者

3. 令和6年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）

- ①リカレント教育講座ようこそ！知のフィールドへー社会福祉学部×社会的処方ー
- ②健康長寿体験型セミナー 社会福祉学部主管 in 南国市
- ③健康長寿体験型セミナー 健康栄養学部主管 in 宿毛市
- ④みさとフェア
- ⑤健康長寿文庫の選定

○活動の評価と課題

- ①大井講師による講座を大講義室にて開催した。質疑応答やアンケートには学びが深まったという感想が多く寄せられており、大変好評であった。また、受講者の多くはSWやCW, CM等福祉職であったが、一般参加や高校生も見られた。受講者の声を次年度の本講座に活かしていきたい。
- ②南国市社会福祉協議会との共催にて南国市社会福祉センターで開催した。学部教員（辻・乾）による講演と看護学部、健康栄養学部、社会福祉学部による体験ブースを実施した。南国市社会福祉協議会、本学事務局と事前に打合せを行い、身体に筋肉を蓄える「貯筋」の推奨と人命に関わる「熱中症予防」をテーマに行った。
- ③社会福祉学部が担当した「新聞棒作りと新聞棒体操」ブースでの住民との交流から、健康維持や介護予防に対する意識の高さがうかがえた。
- ④血管年齢測定機器（辻）、ストレスチェック（乾）を担当し、住民の方々の測定を支援し、健康への意識を高めるための声かけを行った。
- ⑤健康長寿文庫の推薦図書として一般啓発書を10冊、選定した。多くの県民の方々が健康に関する書籍に興味を持ってくださるよう、推薦コメントを添えて提出した。

① リカレント教育講座ーようこそ！知のフィールドへー

開催日	テーマ	講師	参加者
10月5日	’運動コミュニティ‘がメンタル・ヘルスに及ぼす効果ー薬に匹敵する『社会的処方』について知ろうー	大井美紀講師	61人

② 健康長寿体験型セミナーin南国市

開催日	テーマ	講師	参加者
7月31日	熱中症を予防しよう！	辻真美・乾由美	35人

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

大熊 絵理 菜

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 学生の臨地実習（上記事業1にあたる）については、前期で社会福祉コース（3回生1名）のソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ（24日間）、精神コース（3回生4名）の精神保健福祉援助実習（12日間）にむけて見学訪問を実施した。また後期には社会福祉コース（2回生2名）のソーシャルワーク実習Ⅰ（8日間）を実施している。
2. 共同研修会（上記事業3にあたる）を毎月1回、前期は事例検討を実施した。ソーシャルワーカーより事例を提供し、大学教員や院生、学部生を交えそれぞれの立場から意見交換を行うことにより、事例を深めることができた。またスーパービジョン体制の確立を目指し、大学教員の助言を受けながら1on1ミーティング（週1回スーパーバイザーとスーパーバイジーの役割を決めて事例等について話し合い）を実施している。後期には大学教員から実践モデルについて講義を受ける等、専門性を高める機会を確保している。
3. 共同研究（上記事業4にあたる）については、キャリアラダーの初回評価の結果からみえてきた課題（専門職として求められる能力についての「研究」、「理論」や「管理」に関する自己評価が低い）について、1on1ミーティングや理論の勉強会に取り組んだ。結果として、2023年8月末にキャリアラダーを再評価したところ、多くの項目で向上した結果がみられた。今回のキャリアラダーに関する取り組みは大学教員との協議を重ね、2024年6月開催された、日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会分代会で口述発表し、優秀演題を受賞した。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

1. 実習では、学生が現場のソーシャルワークに触れ学習してきた成果と実践を振り返らせる機会となるため、個々の学生の目標や課題の達成を意識して指導をしている。指導者側の課題としては、より効果的な指導を目指し実習プログラムを作成し、学生がクライアントや家族と関わる機会を確保できるよう検討が必要と考えている。
2. 引き続き事例検討を実施する。今後も看護部門や他職種の参加を促進し、多様な視

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

点から事例検討ができるよう取り組んでいく。またスーパービジョン体制の確立に向け大学教員の助言・指導を受けながら、1 on 1 ミーティングの取組みを継続・定着させていく。

3. キャリアラダーの取組みからみえてきた喫緊の課題であるスーパービジョン体制の確立を目指す。スーパービジョン体制の確立についても、大学教員の助言・指導を受けながら経過や効果等についてまとめ、研究発表につなげていきたい。またソーシャルワーカーのメンバーがローテーションで研究・発表を行えるように努めたい。

令和6年度 看護・社会福祉包括連携事業計画（社会福祉部会）

1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

1) 学生の臨地実習

2025/1/27時点

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1 前期	(社会福祉) ・8/19～9/24 ・8/20 10:00～12:00 (精神保健福祉) ・8/7 8:30～11:45	(社会福祉) 社会福祉学部 3回生 小川 莉子 社会福祉学部 2回生 柴田 結衣 島村 あかり (精神保健福祉) 社会福祉学部 3回生 井上 萌美 山口 瑠星 川村 空 平柴 百英	1名 2名 4名	医療相談室におけるソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲに備えた見学実習 精神保健福祉士実習に備えた見学実習
	(社会福祉) ・12/17～12/26 ・2/25～3/6(予定)	(社会福祉) 社会福祉学部 2回生 今井 彩音 社会福祉学部 2回生 岡部 咲貴子	2名	医療相談室におけるソーシャルワーク実習

2) 教員の臨床研修

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1) 基礎教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	毎回 参加予定	社会福祉学部 3回生	順次 参加	定例研修会 (3. 教員コンサルテーションに該当)への参加

2) 継続教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3) 大学院教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3. 教員によるコンサルテーションの実施

	実施日・期間	氏名or対象	参加人数	事業内容
1 前期	4/15(月) 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(片岡千夏・小川莉子・河野心咲・玉井結月・中磨祐香・西田香音) ●高知医療センター 地域医療連携室(橋本恵) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	16名	●事例検討 ・発表者(藤井)、司会(西原) ・事例内容:『今回の入院治療がAさんの未来につながるために、地域にソーシャルワークの視点を!』
2 前期	5/20(月) 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(柴垣咲・長野愛世・森岡ふみ・小川莉子・河野心咲・西田香音) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	15名	●事例検討 ・発表者(西原)、司会(武正) ・事例内容:『経済面から療養の場の選択が限られた事例』

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

3 前期	6/17(月) 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(森岡ふみ・小川莉子・河野心咲・西田香音) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	13名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討 ・発表者(武正)、司会(兵頭) ・事例内容:『本人が治療方針を選択するに至る過程への振り返り』
4 前期	7/22(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室3	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(小川莉子・西田香音) ●高知県立大学 大学院生(榎島美静・柴崎有美) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(川上めぐみ・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	10名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討 ・発表者(兵頭)、司会(和田) ・事例内容:『自殺を図った高校生と両親の葛藤に向き合って』
5 前期	8/19(月) 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 看護学部教員(久保田聡美) ●高知医療センター 地域医療連携室(橋本恵) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	11名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討 ・発表者(川上)、司会(羽方) ・事例内容:『金銭管理におけるアセスメントとソーシャルワーカーの感情を整理する』
6 前期	9/30(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室3	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 大学院生(坂本美紀) ●高知医療センター 地域医療連携室(橋本恵) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・竹村貴深・西原梓・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也) 	8名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討 ・発表者(羽方)、司会(竹村) ・事例内容:『退院支援における本人と家族へのアプローチについて』
7 後期	10/21(月) 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知医療センター 地域医療連携室(橋本恵) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	11名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討 ・発表者(和田)、司会(川上) ・事例内容:『長男が救急外来から児童相談所に一時保護され、誰を主体的に考えるのか、SWも他職種も揺れ動いた事例』
8 後期	11/18(月) 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(小川莉子・河野心咲) ●高知医療センター 地域医療連携室(橋本恵) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	11名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討 ・発表者(竹村)、司会(丁野) ・事例内容:『Aくんの障がい告知を受けた後の父の言動にSWの非審判的態度が揺らいだ事例』
9 後期	12/16(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(小川莉子・河野心咲) ●高知県立大学 大学院生(榎島美静) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	13名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討 ・発表者(丁野)、司会(藤井) ・事例内容:『在宅での生活を意識するとは?』
10 後期	1/20(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	9名	<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討ふり返り ・発表者(藤井・西原・武正・兵頭・川上)[4～8月]、司会(西原)
11 後期	2/17(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	<p>(参加予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	未定	<p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事例検討ふり返り ・発表者(羽方・和田・竹村・丁野)[9～12月]、司会(武正)
12 後期	3/17(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	<p>(参加予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	未定	<p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次年度における包括連携事業での取組について確認

4. 臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	2024年4月～2025年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海) 	10名	<ul style="list-style-type: none"> ●ラダーに関する研究 高知県立大学教員と高知医療センターの担当者で、前年度にまとめた研究成果を基により深く考察し、発表への準備を進める。
2				
3				

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

6. その他看護・社会福祉連携活動の実施

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

災害対策プロジェクト

行貞 伸二

○本年度のとり組み

2023年度末をもって全学の災害対策プロジェクトは解体された。2024年度は災害対策にかかわる学部の窓口を行貞が担当することになったが、実際には、災害ワーキンググループに所属する辻講師が全面的に学部窓口対応もしてくださっていた。こうした経緯から、適任とはいえないものの、行貞が本報告書を作成する。

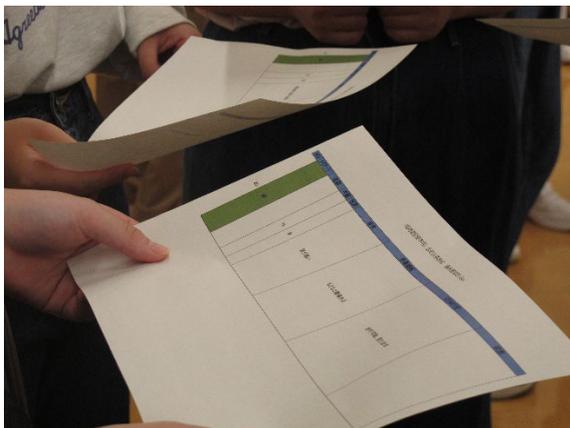
2024年度の主な取り組みは以下のとおりであった。

1. 高知医療センターとの合同災害訓練

2024年10月27日（日）の8時30分～12時に行なわれた。

実施内容は、①災害対策本部の立ち上げ、②安否確認、③医療センターとの通信訓練、④帰宅困難者の受け入れ訓練（避難所設営および受付誘導）、⑤学内重傷者の医療センターとの連携訓練、⑥災害時パッキングの実施訓練であった。従来、社会福祉学部が中心となって担ってきた避難所の設営訓練は、事務局職員が避難所運営を支援することができるよう、職員が中心となり実施された。

社会福祉学部からは、1回生学年担当の先生方のご協力により、④の訓練に45名もの1回生が医療センターから県立大へ避難する軽度の患者役のボランティアとして参加した。さらに、⑥で提供された災害食を食べ、災害時における調理や食事に対する意識を高めた。



患者として割り振られた役割が記載された用紙



患者役として訓練に参加する1回生の様子



避難所設営の様子

2. 3 キャンパス合同避難訓練

2024年11月1日（金）11:50～12:30 に実施された。

授業中の学生や教職員等の地震発生時の避難訓練、キャンパス間の情報伝達訓練を目的に実施したものである。授業を行っていた教員による一時避難所への学生の誘導を災害対策窓口メンバーがサポートした。

3. 社会福祉学部における災害福祉教育

災害福祉に関する教育の実施について学部教員に確認した。社会福祉学部専門科目では「女性福祉論」、「生活支援技術Ⅰ」、「生活支援技術Ⅳ」、「社会福祉基礎演習」等の科目で、共通教養科目では「基礎ジェンダー学」の科目において災害に関する教育に取り組み、延べ152人の学生が受講した。

さらに、高知県社会福祉協議会の開催する高知県 DWAT リーダー研修【12月9日（月）開催】に3回生2名がボランティアとして参加した。災害時における社会福祉専門職の役割に関する学びを深めた。

総務・予算委員会

辻 真美

総務・予算委員会は、委員長を辻が担当し、長澤学部長、西内教授、大熊助教、玉利助教で構成した。本年度に行った業務は、以下のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

1. 活動内容

- ① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営
 - ・ 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計23回）。
- ② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備
 - ・ 例年同様、社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保・調整を行った。
 - ・ 学部内の各委員会及び先生方に対し、ペーパーレス化への取組みを呼びかけた。
 - ・ 学部関連設備では、社会福祉学部棟1階2階の学生自習スペースにおいて、暖房器具と間仕切りを購入することで学習環境の整備を行った。さらに、学生の貸出用パソコンを新たに購入し、教育備品の充実化を図った。
- ③ 学部日常事務の対応
 - ・ 寄贈資料・郵便物の整理、回覧等の仕事に対応した。
- ④ 『令和5年度社会福祉学部報』発行
 - ・ 令和5（2023）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料・第26号）を本学社会福祉学部ホームページに公開した。
- ⑤ 学生教育用図書・資料等の充実
 - ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
 - ・ 国家試験対策用図書や学内実習用教材、社会福祉に関する基礎文献等を福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
- ⑥ 研究室の整備と学部備品の確認等
 - ・ 1名の教員が新たに加わることを受け、施設課と研究室の整備を計画的に進めた。
 - ・ 学部事務と相談して、E416非常勤講師控え室に置いている学部備品の仕様目的と仕様状況を確認した。また、湿度が高い時期は、コピー機が詰まりやすくなるため、湿度対策を行った。

2. 今後の課題

令和6年度は、対面授業及び配属実習の増加に伴い、旅費や特別講師等の予算を重点的に確保した。教務委員会や実習委員会等と連携し、予算の執行状況を常に確認することで、適切な予算執行に努めた。また、学生の学習環境の整備は継続的に行う必要があり、特に対面授業における学生の就学支援として予算を確保する必要がある。実習先によっては、引き続きマスクや手指消毒剤の準備を依頼される場合もあった。

授業や会議の各種資料の印刷費用を削減するために、先生方のご理解とご協力を得て、例年より電子化を進めることができた。今後も電子化で対応可能な資料と、これまで通り紙で配付しなければならない資料を区別する必要がある。

学部の備品については、今後も状況把握に努め、近年中に購入しなければならないもののリストを作成しておくことが必要である。

国試対策支援委員会

行 貞 伸 二

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、委員長を行貞が担当し、加藤講師、田中講師、稲垣助教、乾助教、上杉助教、大熊助教、玉利助教で構成した。

（１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③過去問解答・模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
4月	国家試験に関するガイダンス（4/5）
5月	国試対策週間（過去問4/30-5/17）・参考等テキスト購入
6月	国試対策週間（過去問5/27-6/14）
7月	国試対策週間（過去問6/24-7/12）
8月～9月	「受験の手引」解説・模擬試験（介護福祉士8/2） 「受験の手引」解説（Moodle：社会福祉士・精神保健福祉士8/28）
10月	模擬試験（高知県社会福祉士会10/6） 卒業生による受験体験報告（10/23） 模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟10/31・11/1）
11月	介護福祉士国試対策講座（11/8） 国試対策講座、個別面談
12月	介護福祉士模擬試験（12/12）解説・国試対策（12/19） 受験対策直前web講座周知 模擬試験（中央法規12/26）
1月	学内国試対策勉強会（1/8・1/9）、個別面談 介護福祉士国家試験（1/26）
2月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（2/1・2/2）、自己採点集計（2/14）
3月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/4、介護福祉士3/24） 卒業後の手続きに関する説明・資料配布（3/21）

委員会活動年度報告書（国試対策支援委員会）

（2）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内・送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（3）2024年度の国家試験合格率

1）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
70	58	82.9%	61	57	93.4%	9	1	11.1%

合格順位：全国 38 位（既卒含）、全国 32 位（新卒のみ）／234 校（総数での学校数）

合格基準点：62 点（満点 129 点）

全国平均合格率：56.3%

合格順位：全国 6 位／52 校（受験者 50 名以上・新卒）

2）精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
9	9	100%	9	9	100%	0	0	—

合格順位：全国 1 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／154 校（総数での学校数）

合格基準点：70 点（満点 132 点）

全国平均合格率：70.7%

3）介護福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
20	20	100%	20	20	100%	0	0	—

合格順位：全国 1 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／332 校（総数での学校数）

合格基準点：70 点（満点 125 点）

全国平均合格率：78.3%

○今後の課題

本学部においてすでに定着している国試対策支援を今年度も踏襲する形で実施した。学生主体で行う国試対策講座も例年と同様に録画しYouTubeにアップしたが、今年度はYouTubeへの動画公開も学生自身で行うこととした。また、個別面談を後期に実施し、必要に応じて定期的に相談・助言を行った。その結果、今年度も社会福祉士の合格率を全国トップレベルで維持することができ、精神保健福祉士・介護福祉士ともに100%の好成績となった。合格基準点が是正されたこともあるが、学生個々の努力の成果といえよう。今後も引き続き、国試対策の課題を整理しながら、支援体制を充実させていきたい。

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士

国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、学生に苦手科目のアンケートを取り、その結果を踏まえて先生方に講義をしていただきました。これまでの出題傾向や法律の改正ポイントをまとめた資料を作ってください、本年度の国試に出題する可能性が高いテーマやキーワードについて理解することができました。本年度は児童福祉法の大幅な改正があったため、「児童・家庭福祉」分野では改正された内容が出題することが予想されました。また、新カリキュラム1年目ということでのどのような対策をすればよいのか分からず不安でしたが、各分野の勉強方法についても教えてくださったため、安心して、効率よく勉強を進めることができました。

本年度は基本的に対面で講義を行っていましたが、国試対策委員の学生らが講義の録画をし、後日視聴もできるようにしていただきました。私自身、対策講座が受講できなかった際には、後日視聴を活用し勉強に励みました。先生方には講義に加え、質問や相談を受けていただきました。分からない部分をそのままにせず理解したうえで自己学習を進めることができました。

国試対策について

昨年度同様、学内での国試対策勉強会を実施しました。12月に1日、年明け1月には2日間行われ、9時～17時まで各ゼミ室や空き教室を取ってくださり、各々で自己学習を進めていきました。一人で勉強をしていると、ひたすら過去問を解き、答え合わせをする時間が続きます。過去問の答えだけを覚える勉強になると、その知識しか定着しません。例えば、法律の施行年や内容は暗記できますが、その法律がどのような社会的背景の中生まれたのか、またAの法律が改正したことによりBの法律はどのように変わったのか、という「流れ」まで頭に入らないということです。そのため、この国試対策勉強会では「流れ」をつかむことを目標にし、友人同士で講義を行いました。この結果、インプットだけでなく、人に説明をすることで質の良いアウトプットになり、知識の定着につながりました。このように、共に頑張る仲間と勉強をすることは刺激にもなりましたし、モチベーション維持になったと感じます。

後輩のみなさんへ

「今日の前にあることを丁寧にする」ということを大切にしてほしいです。4回生は国試勉強以外にも卒論や就活、人によれば実習まであり、様々なことが同時進行になります。いったい何から手を付ければよいのか分からず焦り、先のことまで考えて不安になることもあるかもしれません。しかし、焦らず丁寧に「今、やらなければならないこと」と向き合うことが充実した1年間の実現につながると感じます。例えば、1週間程度の計画を立て、日々のタスク管理を行うことも一つの方法です。また、今日の前にあることや優先順位の高いものは、同じ4回生でも人それぞれです。友人はもう国試勉強に入ったのに、自分はまだ卒論が完成していない、と人と比べ焦ることもあるかもしれません。焦ってしまうと、両方が中途半端になり、自分の望む結果や成果ではない可能性もあります。とにかく自分のペースを大切に、焦らず目の前のことに向き合うことが大事であると思います。そのために、頼れる先生方や友人を大切にしてください。この1年間はあっという間です。悔いなくやりきり、いい4年間だったな、と思える時間になることを願っています。

IV

学生を中心とした活動

Pシスターズ

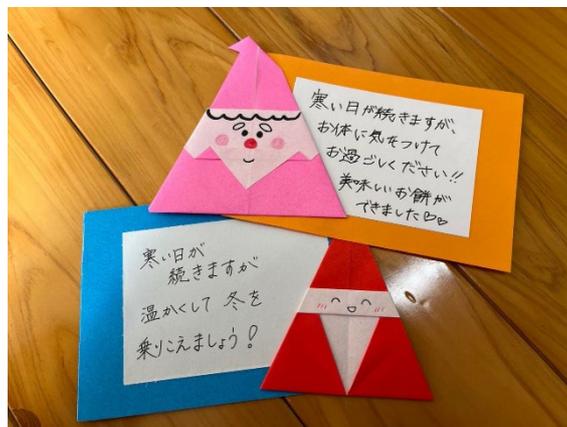
地域活動サークル「Pシスターズ」です。私たちは、本学「立志社中」のプロジェクトに加入し、昨年度は高知県内5つの地域で地域活動を行いました。地域住民の「主体性」を大切に、地域の役に立てるように地域住民との対話をしっかり行いながら活動を進めています。

【三原村】

三原村では、総社祭という地域のお祭りで地域住民とともに神輿担ぎを行いました。また、三原村の健康体操を学生が創作しており、創作した健康体操を地域住民にお披露目するとともに、レクチャーしました。さらに、三原村の子どもたちと一緒に防災食づくりや防災グッズづくりに取り組みました。

【高知市三里地区】

地域住民との交流を何度か行いました。また12月には、毎年地域で行われている餅つきに参加しました。その際、餅つきに来られなかった住民へのお餅配りに行くときに、学生が作成したメッセージカードと折り紙を同封したり、鍋パーティーを開催したり、学生からの働きかけも行いました。



その他にも、安芸市東川地区（祭りの継承）、仁淀川町吾川地区（寺カフェの運営）、津野町船戸地区（お茶の普及）で活動を行ってきました。活動の中ではアンケートも実施しましたが、多くの活動で地域住民から温かい言葉をいただきました。

Pシスターズには、地域との長い間続いてきたかけがえのない「つながり」があります。今後も、その「つながり」を大切にしていきながら、地域住民に対する愛と敬意の念をもって活動をしてまいります。

イケあい

2012年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター(以下:イケあい)は、東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災ボランティアサークルです。

団体の活動目的は、災害時に大学周辺での被害を最小限にとどめ、いち早く復旧させることです。そのために、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンターで中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって地域や大学での防災啓発等を行っています。

今までは、コロナ禍により、思うように活動ができないことが多く、ボランティア等に参加することが難しいといった日々が続いていました。ですが、コロナに関する規制も緩和され始め、地域で行われるイベントへの積極的な参加や、県をまたいだボランティア活動を行うことが出来るようになりました。

私たちが特に紹介したい活動は、能登半島地震で被災した地域を訪れたボランティアです。5月に先遣隊を派遣して現地の状況を視察し、その後9月に再び、2つのグループに分かれて5日間のボランティア活動を行いました。主な内容としては、簡単なルールで行うボッチャ、蒸しパン作り、被災者された方々とのコミュニケーションを取りながら行うハンドマッサージです。私たちが輪島市で行ってきた活動は、高知県でも活かすことができると活動を通して学びました。

近年、様々な災害が発生している昨今、災害発生時に備えて、近隣住民の方々や他の地域とのコミュニティを築いておくことが重要となってきます。これから地域活動に参加する際には、ハンドマッサージを取り入れた交流等を通して、多くの人と顔見知りになることを目標に、学生が主体となって楽しく活動を続けていきます。



かんきもん（土佐弁：元気者）

かんきもんは、障害の有無や住んでいる地域に関係なく子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいコミュニティ、『地域共生社会』を目指して活動しています。今年度は、コロナウイルスの影響も落ち着き、対面での活動を実施することができ、より地域の方と交流を深めることができました。今年度の活動は、「援農」「シグマ」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」「YCPK」の6部門が活発に、学生企画を交えながら活動を行うことができました。

◇援農

四万十市では田植えや稲刈り、バラ祭りのお手伝いを行い、安芸市ではゆずや入河内大根の収穫、日曜市での販売などを行いました。また、高知市に住む高齢者の方とも頻繁に交流を行いました。こういった活動を通して地域の課題を知ることで私たち学生が何かできないかと考えることができ、大学祭では自分たちで発案した“栗おにぎり”を販売し地域をPRしました。

◇シグマ

シグマ部門は主に月2回開催される子ども食堂でのボランティア活動を行いました。子どもたちと一緒に食事をしたり、遊んだりすることを通してたくさんの笑顔を見ることができ、とてもやりがいを感じました。また、子ども食堂に来られる地域の方ともたくさんお話させていただき、改めて地域の皆さんの優しさや地域住民同士の交流の大切さを実感することができました。さらに、DV防止キャンペーン活動のボランティアにも参加させていただくなど幅広い活動を行うことができました。今年度も引き続き様々な活動を行っていききたいと思います。

◇タウンモビリティ

タウンモビリティ部門です！まず、タウンモビリティとは「障害を持っても高齢になっても、誰もが出かけたいと望む場所へ出かけられる地域」のことを意味します。私たちは、月に1回、高齢・障害・病気などの様々な当事者の方と楽しくお話をし、当事者への理解を深めています。また、七夕やクリスマスには学生が企画したイベントを行い、学生・当事者が一緒となって楽しい時間を過ごしています。車いす利用者や視覚障害者の付き添いボランティアで、高知の町を一緒に散策したり、車椅子やトイレなどの福祉機器を実際に体験したりするなど幅広く活動しています。

◇学習支援

土佐市の小中高生を対象に、学習支援ボランティアを継続的に行ってきました。勉強面のサポートだけでなく、積極的なコミュニケーションを図るなど、子どもたちのサードプレイスになるような居心地の良い環境作りに努めています。今年度からは、高知市内での活動も視野に入れながら、子どもたちのために出来ることを考え、活動に取り組んでいきたいと思っています。

◇傾聴

昨年度は、グループホームでの傾聴活動を行いました。自分たちの経験値を増やすことだけでなく、利用者の方々に会話を通して癒しや元気を感じてもらえるような傾聴を目指して活動しました。今年度もそのような傾聴を目標に活動を行いたいと考えています。また、「傾聴の講習会」も開催出来たらと考えています。

◇YCPK：(Young Crime Prevention in Kochi)

YCPKは、子供の防犯や育成に関するボランティアをしています。三里小学校や十津小学校の子どもたちに読み聞かせのボランティアを行っています。また高知東警察署の方と

学生を中心とした活動（かんきもん）

防犯に対する啓発活動を行っています。

以上の通り、かんきもんは、子ども、障害者、高齢、過疎地域住民など、支援を要する人の地域生活の質を良くする活動に取り組んできました。

V

卒業論文題目一覧(2024年度)

令和6年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

題 目
虐待を受け希死念慮を持つ子どもに対する予防的支援の方法—児童養護施設における退所後を見据えた支援の検討—
「開発途上国における月経衛生教育の必要性について —若年女性の生理の貧困課題解決とセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの保証のために—」
地域在住のいきいき百歳体操参加者が抱く在宅生活継続の想い
発達障害児への運動支援—放課後等デイサービスのプログラムから—
被虐待児のレジリエンスを促進する方法—獲得的要因から考える—
逆境的小児期体験から生じる自己虐待—生きづらさの解消への支援にむけて—
災害発生時の支援における課題 —要配慮者を視点に—
大学・専門学校教育で修得した医療ソーシャルワークの知識や技術の実践現場での活用
愛着障害の症状がある者への支援に関する文献検討
学生納付特例制度の申請利用のプロセス
病院と地域を繋ぐ「切れ目のない支援」を行うための体制整備 —社会福祉協議会と病院の連携から—
医療福祉専門職における観察の違い—多職種連携に向けて—
認知症カフェ設置における多職種連携と合意形成
若年性認知症家族介護者における診断前後の支援ニーズ～ミーティングセンターに参加する配偶者の語りの分析から～
自閉スペクトラム症の子どもに対する音楽療法の可能性
高齢者支援における市町村の地域ネットワークの要素の研究
精神障害者に対するスティグマを解消するための取り組みの一考察～日本とイタリアにおける精神障害者福祉の変遷の比較から～
特別養護老人ホーム利用者の生活ニーズと職員の考える生活ニーズの比較
重症心身障害児者における支援者のストレス
地域包括支援センターにおけるACPの取り組みについて —自分らしく生きることを支える—
介護現場における感謝の相互作用 —利用者と介護職員との間での感謝の表現とその影響に関する研究—
eスポーツゲームを用いた高齢者の社会参加促進の可能性について
福祉教育とは何か—史的変遷から考える—
介護支援専門員におけるヤングケアラー支援への意識に関する研究
介護福祉士のやりがい探求 —仕事の魅力の再評価と職業イメージ向上への貢献—
高齢者入所施設における経験が浅い介護従事者の夜勤労働に関する研究
きょうだい児の現状ときょうだい児のニーズに合った支援について
精神障害者に対するスティグマを解消するための取り組みの一考察～日本とイタリアにおける精神障害者福祉の変遷の比較から～
フードバンクの現状と未来に関する一考察～高知市で活躍するNPO法人の現状から考える～
こどものオンライン居場所における支援—教育機関を対象としたインタビュー調査—
介護老人福祉施設の利用者に対するケアの在り方—QOL向上に焦点をあてて—
日本における犯罪加害者家族の現状 —新聞は犯罪加害者家族をどう報じたのか—
クライアントに与える影響を考えた私服化へのプロセスに関する一考察 —私服で働くMSWIに焦点を当てて—
ベーシックインカムと社会福祉の関連性
高齢者を対象とした農福連携の普及および継続に繋がる要因—高知県内の実践から考える—

放課後等デイサービスに求められる役割に関する研究－多様化するニーズに着目して－
就労移行支援事業所における精神障害をもつ利用者のニーズに沿った就労選択支援の実現に関する－考察－インタビュー調査をもとに－
ホームレスの在り方の変化とその支援に関する－考察－ホームレス当事者と支援者の思いの相違から見えてくる課題－
SNSの使用が若者の自己肯定感に及ぼす影響
ホームレスの在り方の変化とその支援に関する－考察－ホームレス当事者と支援者の思いの相違から見えてくる課題－
刑務所出所者が生きやすい社会福祉的支援－地域生活定着支援センターでのインタビュー調査から－
重度認知症高齢者における食事に対する五感を用いた介助方法の検討
精神障害者スポーツに関する－考察－スポーツを通じた精神障害者支援の展開に向けて～
10代妊婦の現状と課題－地域に必要な支援とは－
医療ソーシャルワーカーが行う業務の認識についての－考察－急性期病棟と回復期病棟の実践をもとに－
精神障害のある親を持つヤングケアラーの居場所～ピアサポートの役割に焦点を当てて～
認知症高齢者の意思決定に基づく環境づくり－Dグループホームの取組から－
進路選択時期のヤングケアラーへの支援について
共食における精神的健康及びQOL向上の可能性－文献データベースとハンドサーチを用いた文献レビュー－
ひとり親世帯で育つ子どもの体験活動の参加促進に向けた環境づくり－支援団体へのインタビュー調査からの考察－
過疎地域における若者の流出要因にみる定住に向けた地域課題
「訪問理美容サービス」の現状から考察する高齢者における理美容の効果と今後の展望について
一般企業で働く障害者の職場定着に関する量的研究－2障害を比較して－
孤独と孤立の相違点の解明－定義、尺度、要因の視点からみた孤独と孤立の比較分析－
親の拘禁が子どもに与える影響に焦点を当てた支援方法の検討
介護職員が行う重度知的障害者の意思決定支援－日常生活の場面に焦点をあてて－
児童相談所における援助方針会議の展開プロセス－グループワークの視点から－
障害者差別から生じるセルフスティグマ解消に向けた福祉教育の展開方法
面前DVを受けた子どもへの支援についての－考察
担当患者の死が医療ソーシャルワーカーの心理に与える影響－医師と看護師との比較を通して－
性犯罪と性問題における多角的視点からの－考察
保護者による教育ネグレクトの改善に対するアプローチ方法－スクールソーシャルワーカーによる支援の検討－
高齢期の看取りケアに対するホームヘルパーの意識とその役割
放課後等デイサービスにおける家族支援－利用者の家庭環境に着目して－
上司のリーダーシップが職務満足度に与える影響－介護職員・看護師を対象とした量的研究－
移住者と受け入れる市町村による居住プロセスの研究

編集後記

社会福祉学部報第27号をお届けします。

本学部報は、令和6年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会および学生による活動実績などをまとめたものです。皆様にぜひご一読いただければ幸いです。

令和6年度は、一部の講義・演習等において遠隔授業やオンデマンド授業を導入しつつ、対面授業を主として実施いたしました。配属実習につきましては、概ね予定通りに終えることができました。関係者の皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

また、学生のサークル活動やボランティア活動等の課外活動についても、新型コロナウイルス感染症流行前の体制に戻り、学生が地域に出向き、地域の方々と積極的に関わる機会が増えました。

4回生の国家試験の結果についてご報告いたします。社会福祉士の合格率は93.4%（新卒のみ）でした。学生たちは、新カリキュラム導入後初の試験でよい結果を出しました。また、精神保健福祉士と介護福祉士の合格率は、いずれも100.0%（新卒のみ）でした。次年度も学部による国家試験のサポートを継続いたします。

社会福祉学部は、学部創設以来、福祉における現代的な課題を見据え、深い人間理解と人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識、実践的知識、そして実践的技能を教育・研究している学部です。社会福祉学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーにあるように、三福祉士の専門職養成だけでなく、変化する社会状況下でも思考し行動できるような教育を目指しています。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 辻 真美

高知県立大学社会福祉学部報

第27号

発行日：2025年6月1日

発行者：長澤 紀美子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）